

仙台市文化財調査報告書第181集

北原街道B遺跡

——仙台市宮城地区——

1994年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第181集

北原街道B遺跡

——仙台市宮城地区——

1994年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会





序 文

北原街道B遺跡の所在する宮城地域は仙台市西北部に位置し、地域内の北西部には船形山を中心とする奥羽の秀峰が聳え、また中央部には広瀬川の清流が流れる、豊かな緑と水の自然に恵まれた地域です。

しかし、近年丘陵部を中心として大規模な団地開発が進行し、こうした自然環境も大きな変貌を遂げつつあります。特に愛子地区は仙台市の都市計画のなかで西の副都心として位置付けられており、急速に都市化が進行しているところもあります。

豊かな自然環境も文化財も、近年おしよせる開発の波の中では、今わたしたちが本気になって保護の手を差し伸べなければ消滅してしまう状況におかれています。

文化財はわたしたちの祖先が創造した文化であり、そのどれもが固有の価値をもつものです。わたしたちはこの貴重な文化遺産を、将来の人々のために継承していく責務があると思われます。

これから「街づくり」のなかで、どのように文化遺産を守り、生活のなかに取り込んでいくべきか、市民の皆様とともに考えていく必要が感じられます。

これからも文化財保護への深いご理解とご協力をお願いするとともに、ご協力いただきました地元の皆様をはじめ、調査にたずさわっていただいた多くの方々に対しまして、心より御礼申し上げる次第です。

1994年3月

仙台市教育委員会

教育長 東海林 恒英

例　　言

1. 本書は、仙台市青葉区上愛子地区での開発事業による宅地造成事業の実施に伴う、北原街道B遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 報告書作製にあたっての遺物整理・編集・執筆は工藤信一郎が担当した。
3. 本書中で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1:25,000「仙台市西北部」の一部を使用している。
4. 本書中の土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原:1973)を使用した。
5. 実測図中の水系高は標高で統一してある。
6. 実測図中の方位は磁北で統一してある。仙台市において磁北は真北に対して西偏約7°20'である。
7. 本書中にある実測図の作成にあたり、縄文土器・剝片石器の実測用写真撮影を㈱シン技術コンサルに委託している。
8. 本調査における出土遺物・実測図・写真等の資料は、仙台市教育委員会文化財課で保管しているので活用されたい。
9. 調査にあたって、事業主体である協進開発株式会社をはじめ下記の機関・方々よりご協力いただいた。(敬称略)
協進開発株式会社・若葉建設株式会社・庄子幸男(二岩町内会長)・荒井丹治(旧宮城町文化財保護委員)
10. 本書中で使用した遺物カラー写真は、仙台市博物館市史編さん室所蔵のものを使用している。

調査要項

1. 対象遺跡 北原街道B遺跡（宮城県遺跡登録番号21144）
2. 遺跡の所在地 仙台市青葉区上愛子字北原道上48-1地内
3. 調査主体 仙台市教育委員会
4. 調査担当 仙台市教育局社会教育部文化財課調査係
5. 担当職員 主事 斎野裕彦 主事 工藤信一郎
6. 調査期間 （野外調査）1992年5月11日～7月28日（実働43日）
7. 調査面積 調査対象面積 約11,000m²
発掘調査面積 約2,100m²
8. 調査参加者 加藤 一郎 加藤 ひな 沢田 和江 佐藤 正 小松 長司
佐藤 智恵 田中 幸 加藤 東穂 神山真理子 川戸 伸一
庄子 勝子 庄司はるよ 皆原 和子 西村満利子 佐々木裕美子
大竹 滋子 杉下 初子 桜田 保子 菊池よしえ 伊藤きよ子
佐藤ヒロ子 平山 幸子 早坂 和江 加藤 玲子 庄子 洋子
大久美智子 宮尾久仁子 三宅 勝子 三浦寿美子 浅若 広子
森谷 愛子 岩城いく子 関谷 礼子 荒井 雅子 吉田 公治
9. 整理作業参加者 菊池よしえ 浅若 広子 森谷 愛子 岩城いく子 関谷 礼子
坂本 千枝 若生 洋子 鈴木 広子 及川のり子 小泉 幸子
高橋 喜子 本間 春美 高橋 弘子 東海林智子



発掘調査参加者

目 次

I.	調査に至る経過	1
II.	遺跡の位置と環境	1
1.	遺跡の位置	1
2.	周辺の歴史的環境	3
III.	調査の経過と方法	4
IV.	調査成果	9
1.	基本層序	9
2.	発見された遺構と遺物	9
(1)	土器・土製品	9
①	縄文土器	9
②	土製品	36
(2)	石器・石製品	39
	出土石器の分類	
	剥片石器	39
	疊石器	44
	石製品	46
	磨製石斧	46
V.	出土遺物についての考察と分析	
1.	縄文土器	79
2.	石器・石製品	80
VI.	まとめ	89

挿 図・表 目 次

第1図 北原街道B遺跡と周辺の遺跡	2	第28図 出土遺物・石器(2)	49
第2図 調査区全体図	5・6	第29図 出土遺物・石器(3)	50
第3図 グリット配置図及び土層柱状模式図 作成地点	7・8	第30図 出土遺物・石器(4)	51
第4図 調査区基本層序	10	第31図 出土遺物・石器(5)	52
第5図 出土遺物・土器(1)	19	第32図 出土遺物・石器(6)	53
第6図 出土遺物・土器(2)	20	第33図 出土遺物・石器(7)	54
第7図 出土遺物・土器(3)	21	第34図 出土遺物・石器(8)	55
第8図 出土遺物・土器(4)	22	第35図 出土遺物・石器(9)	56
第9図 出土遺物・土器(5)	23	第36図 出土遺物・石器(10)	57
第10図 出土遺物・土器(6)	24	第37図 出土遺物・石器(11)	58
第11図 出土遺物・土器(7)	25	第38図 出土遺物・石器(12)	59
第12図 出土遺物・土器(8)	26	第39図 出土遺物・石器(13)	60
第13図 出土遺物・土器(9)	27	第40図 出土遺物・石器(14)	61
第14図 出土遺物・土器(10)	28	第41図 出土遺物・石器(15)	62
第15図 出土遺物・土器(11)	29	第42図 出土遺物・石器(16)	63
第16図 出土遺物・土器(12)	30	第43図 出土遺物・石器(17)	64
第17図 出土遺物・土器(13)	31	第44図 出土遺物・石器(18)	65
第18図 出土遺物・土器(14)	32	第45図 出土遺物・石器(19)	66
第19図 出土遺物・土器(15)	33	第46図 出土遺物・石器(20)	67
第20図 出土遺物・土器(16)	34	第47図 出土遺物・石器(21)	68
第21図 出土遺物・土器(17)	35	第48図 出土遺物・石器(22)	69
第22図 出土遺物・土器(18)	36	第49図 出土遺物・石器(23)	70
第23図 出土遺物・土器(19)	37	第50図 出土遺物・石器(24)	71
第24図 円盤状土製品	37	第51図 出土遺物・石器(25)	72
第25図 土偶・土製品	38	第52図 出土遺物・石器(26)	73
第26図 出土遺物・袂状耳飾	47	第53図 出土遺物・石器(27)	74
第27図 出土遺物・石器(1)	48	第54図 石錐形器分布図	81
		第55図 石錐重量分布図	81

第56図 剥片石器長軸分布図	82	第1表 遺跡地名表	3
第57図 剥片石器重量分布図	83	第2表 調査区基本層序(第4図)土層注記表	11
第58図 不定期石器長軸分布図	84	第3表 石器の器種別数量及び同化数量	39
第59図 不定期石器重量分布図	84	第4表 剥片石器觀察表(1)	75
第60図 褐石器長軸分布図	85	第5表 剥片石器觀察表(2)	76
第61図 褐石器重量分布図	85	第6表 剥片石器觀察表(3)	77
第62図 仙台市内出土の块状耳飾	87	第7表 石製品・磨製石斧觀察表	77
第63図 块状耳飾型式分類	88	第8表 褐石器觀察表	78

写 真 図 版 目 次

写真1 遺跡遠景・空撮(西方上空から)	92	写真20 出土遺物・土器01 第19図・第20図	104
写真2 遺跡遠景・空撮(北方上空から)	92	写真21 出土遺物・土器01 第20図・第21図	105
写真3 調査区全景・空撮	93	写真22 出土遺物・土器02 第21図～第23図	106
写真4 調査前状況(東方から)	93	写真23 出土遺物・石器(1) 第27図・第28図	107
写真5 調査区遠景・III区(北方から)	93	写真24 出土遺物・石器(2) 第29図・第30図	108
写真6 復元土器(第5図)	94	写真25 出土遺物・石器(3) 第30図～第32図	109
写真7 復元土器(第5図)	94	写真26 出土遺物・石器(4) 第32図・第33図	110
写真8 復元土器(第5図)	94	写真27 出土遺物・石器(5) 第34図・第35図	111
写真9 块状耳飾	94	写真28 出土遺物・石器(6) 第35図～第37図	112
写真10 土偶・円盤状土製品	94	写真29 出土遺物・石器(7) 第37図・第38図	113
写真11 出土遺物・土器(1) 第6図・第7図	95	写真30 出土遺物・石器(8) 第39図・第40図	114
写真12 出土遺物・土器(2) 第7図・第8図	96	写真31 出土遺物・石器(9) 第40図・第41図	115
写真13 出土遺物・土器(3) 第9図・第10図	97	写真32 出土遺物・石器03 第42図・第43図	116
写真14 出土遺物・土器(4) 第10図・第11図	98	写真33 出土遺物・石器01 第44図・第45図	117
写真15 出土遺物・土器(5) 第12図・第13図	99	写真34 出土遺物・石器02 第47図・第48図	118
写真16 出土遺物・土器(6) 第13図・第14図	100	写真35 出土遺物・石器03 第48図・第49図	119
写真17 出土遺物・土器(7) 第14図・第15図	101	写真36 出土遺物・石器04 第49図～第51図	120
写真18 出土遺物・土器(8) 第16図・第17図	102	写真37 出土遺物・石器05 第51図～第53図	121
写真19 出土遺物・土器(9) 第17図・第18図	103	写真38 出土遺物・石器06 第53図・第46図	122

I 調査に至る経過

青葉区愛子地区は仙台市西北部に位置し、周辺の丘陵地帯をはじめとして住宅団地等の開発が進められ、近年自然環境が大きく変貌を遂げつつある地域である。特にこうした傾向は1987年の仙台市と宮城町との合併、翌年の政令都市指定によっていっそう進んでいる。

1991年、開発興業株式会社により当遺跡を含む一帯に宅地造成事業が計画され、周知の文化財の取り扱いについて協議があった。北原街道B遺跡は、1987年に当遺跡を含む一帯で土取り工事が行われた際に発見・登録された経緯があり、當時かなり地形の改変を受けていた。そこで仙台市教育委員会では、提出された開発行為事前協議書にもとづいて協議を行い、開発予定地内における遺構・遺物の分布状況を把握するため、試掘調査を実施することになった。

試掘調査は開発事業のうち道路が計画されている部分に、1m×40m, 1m×50m のトレンチを2本設置し、重機によって表土を除去した後人力によって遺構検出作業を行った。その結果、開発予定地の北西部では土取りのため遺構検出面は消滅していたが、試掘トレンチ部分では、表土下10~20cmで遺構・遺物包含層を確認した。調査成果にもとづいて協議を行い、次年度に記録保存を前提とした開発予定地内の事前調査を実施することになった。

調査は、開発予定面積11,000m²のうち道路計画部分2,100m²を対象として、1992年5月11日~7月28日にかけて実施された。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

北原街道B遺跡は、仙台市青葉区上愛子字北原道上に所在している。市内中心部からは国道48号線を山形方向に約10km、仙台市青葉区宮城総合支所の西方約1.2km、JR仙山線愛子駅からは西方約800mの地点である。

宮城地域の地形を概観すると、西側には南奥羽山系の山並みが連なり、ここから派生する国見・七北田丘陵と蕃山・青葉山丘陵によって北と南を挟まれ、この間を開折して広瀬川が東流している。広瀬川は、作並付近で新川川と合流し、青下川と大倉川が合流する熊ヶ根付近では比高差50mにおよぶ深い峡谷を形成しながら蛇行し、愛子に入ると数段の河岸段丘を形成している。遺跡の所在する愛子地区はこの二つの丘陵に挟まれて盆地状を呈する河岸段丘上にあり、所謂愛子盆地とよばれている。

北原街道B遺跡は愛子盆地のほぼ中央を開折する広瀬川南岸の河岸段丘上に位置している。標高は、約123m前後となっている。



第1図 北原街道B遺跡と周辺の遺跡

2. 周辺の歴史的環境

愛子地区を含む宮城地域の広瀬川上・中流の河岸段丘上や丘陵上には、縄文時代を中心として多くの遺跡が分布している（第1図）。

縄文時代の遺跡のうち、発掘調査が行われたものとして、野川遺跡、蒲沢山遺跡、農学寮遺跡（一本杉遺跡に改称）、観音堂遺跡、芦見遺跡などがある。

野川遺跡は広瀬川上流の熊ヶ根にあり、1991年に発掘調査が行われ、後期前半の遺物包含層の下層から、草創期（注1）の、いわゆる「キャッシュ（埋蔵物）」あるいは「デボ（一括理納）」と呼ばれる、石器の一括貯蔵の痕跡を示す土坑2基が宮城県内で初めて検出されている（吉岡・工藤：1992）。

蒲沢山遺跡は広瀬川北岸の茅沢字赤坂にあり、1982～84年にかけて発掘調査が行われ、上川名II式～大木1式期の竪穴住居跡・土坑群がまとめて検出されたほか、出土遺物としては当該期を中心とする遺物のほかに、晩期旧石器の可能性のある石器類（注2）が出土している（宮城町教委：1983）。

農学寮遺跡は、1981年に発掘調査が行われ、縄文時代後期初頭の埋設土器遺構等が検出されている（狩野・真山：1982）。

観音堂遺跡は、1985年に発掘調査が行われ、大木10式期の竪穴住居跡5軒・埋設土器遺構のほか、平安時代の竪穴住居跡1軒などが検出されている（阿部・今野：1986）。

芦見遺跡は、1985年に発掘調査が行われ、大洞A'式期の遺物包含層が検出されている（工藤：1988）。

弥生時代の遺跡はいまのところ確認されていないが、古代の遺跡のうち発掘調査が行われた

第1表 遺跡地名表

遺跡名	立地	種別	時代	調査	立地	種別	時代	調査
1 北瀬川遺跡	丘	台地性	縄文・中	縄文上層（人頭小山）石井・石井・石井	25 芦見遺跡	丘	縄文・中世	
2 三ノ瀬川遺跡	丘	台地性	縄文	縄文上層（大木1）石井	26 猫屋遺跡	丘	縄文	中世
3 楠又遺跡	丘	台地性	縄文	石器	27 二木長A遺跡	丘	古墳	縄文・古代
4 楠A遺跡	丘	台地性	古代	土器	28 猫H C遺跡	丘	縄文	古代
5 幸平遺跡	丘	台地性	古代	土器	29 猫林A遺跡	丘	古代	縄文上層・土器層
6 東B遺跡	丘	台地性	縄文・古代	縄文上層・土器層・石器層	30 幸勤寺見光寺跡	丘	古代	（元号不明）
7 ニコツ森遺跡	丘	台地性	縄文	縄文上層・石器	31 芦見遺跡	丘陵地	古代	
8 芦見A遺跡	丘	台地性	古代	土器	32 猫見遺跡	丘	古代	土器層
9 芦見B遺跡	丘	台地性	古代	土器	33 吉瀬・鶴丘	丘	縄文・中世	石井・石井
10 佐久瀬遺跡	丘	台地性	古代	土器・石器・石井・石井・石井	34 黒牛遺跡	丘	古代	縄文上層・石井・石井
11 猫山遺跡	丘	台地性	縄文	鉢	35 五輪墓遺跡	丘	縄文・古代	石器・土器層
12 猫山東A遺跡	丘	台地性	古代	土器	36 猫林A遺跡	丘	縄文	縄文上層・石井・石井・石井
13 猫山東C遺跡	丘	台地性	縄文	石器	37 一本杉遺跡	丘	古代	縄文中・後・平安
14 芦見鬼塚	丘	土器	中世		38 四ノ瀬遺跡	丘	古代	（元号不明）
15 路傍神社遺跡	丘陵地	台地性	内部・道路		39 本ノ瀬遺跡	丘	古代	縄文・古代
16 芦見前遺跡	丘	台地性	古代		40 木舟遺跡	丘	縄文	縄文・土器
17 芦見南遺跡	丘	台地性	縄文・中・平安	縄文（大木1）土器層	41 芦見遺跡	丘	古代	縄文上層・大木1石器・土器
18 佐久瀬	丘	台地性	古代	土器	42 牛瀬遺跡	丘	縄文	縄文上層・大木1石器・土器
19 芦見北遺跡	丘	台地性	古代	土器	43 丹野御遺跡	丘	縄文	縄文・土器・石井・石井
20 猫山遺跡	丘	台地性	縄文・古代	土器・石器	44 丹野御遺跡	丘	縄文	縄文・土器・石井
21 ト駒A遺跡	丘	台地性	古代	土器層・石器層	45 丹野御遺跡	丘	縄文	七界・劍矢
22 上町日道遺跡	丘	台地性	古代	土器	46 丹野御遺跡	丘	縄文	（元号不明）
23 猫見A遺跡	丘	台地性	古代		47 下野瀬遺跡	丘	縄文	縄文上層・石井・石井
24 猫見B遺跡	丘	台地性	古代	土器				

ものとして、一本杉遺跡、観音堂遺跡がある。

一本杉遺跡は、1983年の宮城町教委による発掘調査では、平安時代の竪穴住居跡5軒が検出されている。同年の宮城県教委による発掘調査では、平安時代の竪穴住居跡2軒が検出されている（斎藤：1984）。

中世の遺跡としては、御殿館跡、本郷館跡、南館跡、想海塚跡、弥勒寺元亭の碑等がある。

想海塚跡は1967年に発掘調査が行われているが、下段の一辺17m、封土の全高2.15mを計る三段築造の方形の塚で、巾3.5mの浅い周溝がめぐっていたことがわかった。鎌倉時代中期から室町時代にかけて構築された、何らかの宗教的な行為に伴う遺構とされている（志間：1973）。

御殿館跡は、1981年に測量調査が行われ、自然地形をいかしながら土壘、平場、空堀等によって区画された遺構が、東廊と西廊にわかれ丘陵全域に比較的保存状態よく保たれていることがわかった（宮城町教委：1981）。

近世の遺跡としては、西館跡、補陀寺跡がある。

西館跡は、伊達政宗に仕えた茂庭綱元の屋敷であったが、後に政宗の長女五郎八姫の仮御殿となったとされている館跡で、1986年に発掘調査が行われ、館の出入口部と考えられる石垣遺構が検出されている（斎藤：1987）。

補陀寺跡については、「安永風土記一下愛子村書出」に村名の由来として、愛子の地名は当村横町補陀寺にある子愛観音からつけられたと記載されている。

注1) 約1万年前よりも古いとする年代観での草創期である。

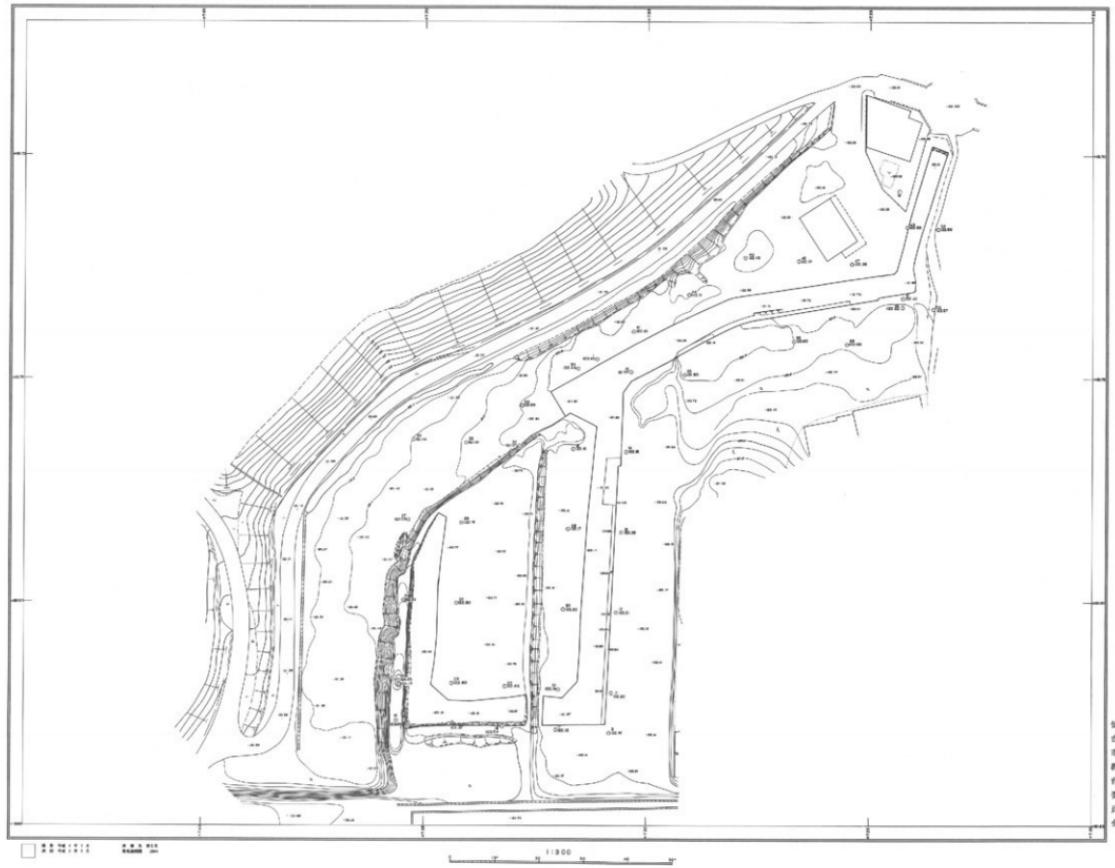
注2) 東北福祉大学助教授鶴原洋氏の教示による。

III 調査の経過と方法

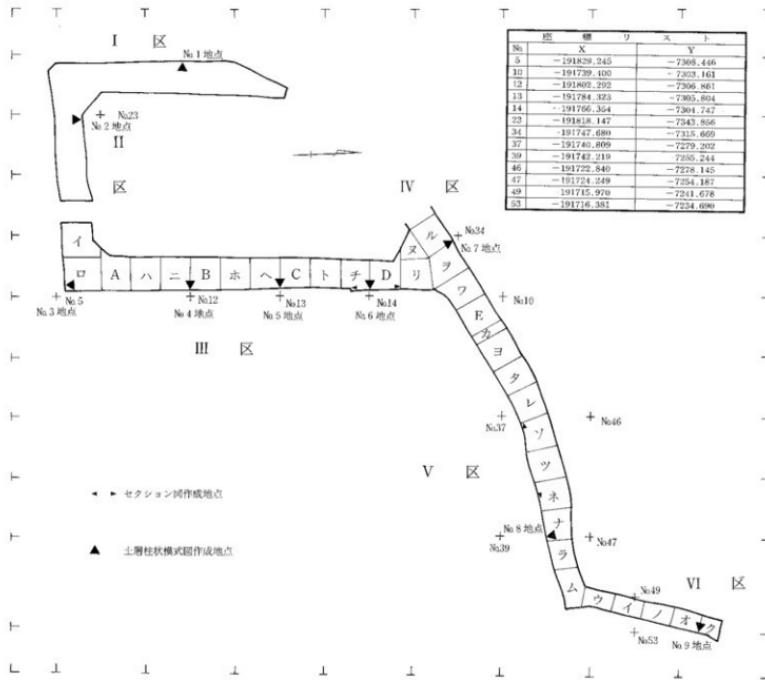
調査は、開発予定区域のうち道路計画部分を対象として実施し、重機によって表土を除去したのちに人力による遺構検出作業を行った（第2図）。調査対象区が変則的であるため、便宜上調査区をI～VI区に区分し西側のI区から調査に入った。その結果I区とII区については、戦後まもなく実施された開田によって疊層面におよぶ大きな搅乱を受けていることがわかった。またIV区については、以前行われた土取り工事のため遺構確認面のほとんどは消滅していた。

III区についても現水田耕作土直下に遺物包含層が検出されたが、疊混じりの層で開田によつて搅乱を受けた二次的な堆積状況を示していた。V区西半部でも遺物包含層が検出されたが、畑の耕作等による天地返しが深くおよんではいる状況であった。V区東半部からVI区にかけても搅乱が疊層面にまでおよんではいる状況であった。

調査対象区のほとんどが、搅乱または天地返しうけていることから、遺物の取り上げは3m×3mのグリッド単位に、層位毎に行った（第3図）。



第2図 調査区全体図



第3図 グリッド配置図及び土層柱状模式図作成地点

発掘調査終了後、委託による地形測量を行い1/300平面図を作成し、また基準点測量を行い平面直角座標系Xに乗せている。

調査成果について、7月25日に現地説明会を開催し、28日にラジコンヘリによる空撮をおこない調査を終了した。

IV 調査成果

1. 基本層序

調査区は広瀬川南岸の河岸段丘上にあり、現況は荒地となっていた。調査区西側のI～III区は、以前は水田として利用されており、西側から東に向かって下がる階段状の水田区画が残っていた。この部分については前述のとおり開田工事による影響が大きく、ほとんどのところで段丘疊層面まで搅乱がおよんでいた。

V区からは遺物包含層が検出されたが、畑の耕作などによる天地返しが深くおよんでおり、IV区については土取り工事の影響が、VI区についてはほとんど段丘疊層面まで搅乱をうけていた。調査区が広範囲であるため、層序・色調・層厚などに違いが認められるが、旧耕作土下において3～4枚の層を確認している。遺物包含層の検出されたIII区東壁北側およびV区南壁西側でセクション図を作成したが、その他の各調査区については、No.1～No.9の地点で土層柱状模式図を作成している（第3図・第4図）。

2. 発見された遺構と遺物

今回の調査では、竪穴住居跡や土坑・溝跡などの遺構は発見されていないが、調査区のうちIII・V区において遺物包含層を検出している。このうちIII区の遺物包含層については、開田による影響を受けプライマリーな状況ではなく二次的な堆積状況を示していた。遺物としては、縄文土器・石器・土製品・石製品などがある。

(1) 土器・土製品

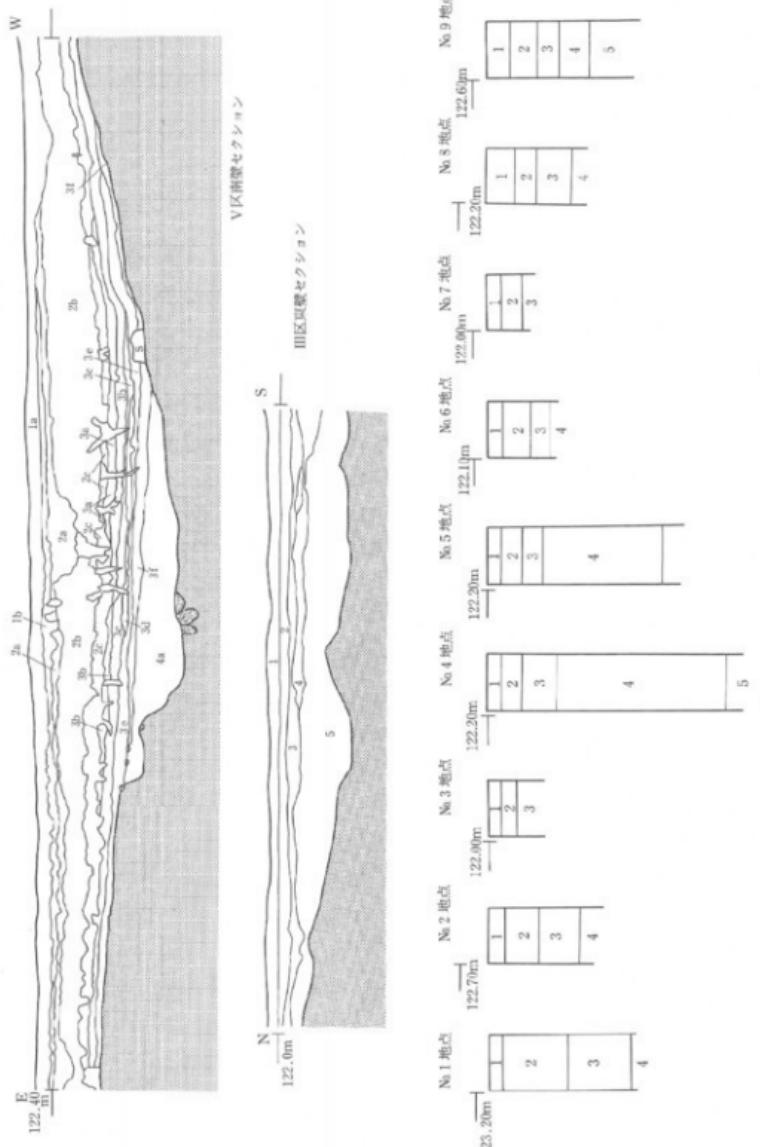
① 縄文土器

今回出土した土器は、ほとんど包含層からの出土である。縄文時代前期後半のものを中心としているが、多くの遺物は不規則に出土しており、層位的に明確に分離して出土する状況はみられず混在する状況であった。

出土した縄文土器は大部分が小破片であり、全体の器形のわかるものは第5図に示した3点のみである。これらの土器について、それぞれの文様の特徴などから第I群～第VII群に大別している。またそれぞれのなかで、文様施文上の特徴などから細別を行った。

[第I群] 前期初頭の大木2式に比定される土器群。

[第II群] 前期前半の大木3式に比定される土器群。



第4図 調査区基本圖序・土層柱状図式図

〔第III群〕前期後半の大木4式に比定される土器群。

〔第IV群〕前期後半の大木5式に比定される土器群。

〔第V群〕関東地方諸磯c式土器系の特徴をもつ土器群。

〔第VI群〕前期末葉の大木6式に比定される土器群。

〔第VII群〕中期初頭の大木7式以降の土器群。

第I群土器（第6図～第8図／第21図）

前期初頭の大木2式に比定されるもので、文様施文上の特色により第1類～第4類に分類した。

第1類（第6図-1～5・16／第7図-2・4）

縄文または羽状縄文によって施文された土器を本類とした。

第6図-1・4は羽状縄文によって施文された土器で、このうち1は綾络文がつけられ、4は2本の異なる原体によってつけられた羽状縄文となっている。第6図-16は小波状の口縁を呈し、燃糸によって施文されている。第7図-2・4は、ともに綾络文がつけられている。

第2類（第8図-1）

不整燃糸文によって施文された土器で、第8図-1は外反する口縁部に施文されている。

第3類（第6図-9）

付加条縄文によって施文された土器で、第6図-9は口縁部がやや外反している。

第2表 調査区基本層序土層注記表

層位	上色	中生	舊考	筆位	七色	二色	施文
V区南面				6-1单点印X重複	1 10YR3/1 稲荷色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/6 家庭色土 4 10YR3/2 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
1 a	10YR3/2 稲荷色土	シルト			5		綾
1 b	10YR3/1 黑褐色土	シルト			1 10YR3/1 稲荷色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/6 家庭色土 4 10YR3/2 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
2 a	10YR2/5 黑褐色土	シルト	道筋合合層				
2 b	10YR2/2 黑褐色土	シルト	道筋合合層				
2 c	10YR4/7 にぶく黄褐色土	セメント セメント	25cm上からブロック間に詰る				
3 a	10YR3/6 家庭色土	セメント		6-2单点印X重複	1 10YR3/1 稲荷色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/6 家庭色土 4 10YR3/2 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
3 b	10YR3/6 黑褐色土	砂			5		綾
3 c	10YR3/6 家庭色土	砂			1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/6 家庭色土 4 10YR3/2 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
3 d	10YR3/6 陶質褐色土	砂			5		綾
3 e	10YR3/4 にぶく黄褐色土	砂		6-3单点印X重複	1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/6 家庭色土 4 10YR3/2 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
3 f	10YR3/4 にぶく黄褐色土	砂			5		綾
4 a	小散乱				1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/4 黑褐色土	シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
5	埋炭				2		
深区北面					4		綾
1	10YR3/1 黑褐色土	シルト	赤土				
2	10YR3/2 黑褐色土	シルト	砂織目付のぼくしまった層	6-2单点印X重複	1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/6 家庭色土 4 10YR3/2 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
3	10YR3/6 家庭色土	シルト	10-30cmの砂混層		2 10YR3/1 黑褐色土		
4	10YR3/2 黑褐色土	シルト	10cmの砂混層		3		綾
5	10YR3/2 黑褐色土	シルト	こまごまと40-50cmの砂混層	6-3单点印X重複	1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/3 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
6	津洲				4		
6-1 埋炭1区西側					2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/3 黑褐色土 4 10YR3/3 黑褐色土	シルト シルト シルト	
1	10YR3/3 黑褐色土	シルト	耕作土		1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/3 黑褐色土 4 10YR3/3 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
2	10YR3/1 有機色土	シルト	津洲層		4		綾
3	10YR3/3 黑褐色土	シルト	10YR3/1 黑褐色土が詰る	6-3单点印X重複	1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/3 黑褐色土 4 10YR3/3 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
4	津洲				5		
6-2 埋炭2区北側					1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/1 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	
1	10YR3/1 黑褐色土	シルト	耕作土		1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/1 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
2	10YR3/2 黑褐色土	シルト			5		
3	10YR3/1 黑褐色土	シルト	10-30cmの砂混層		1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/1 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
4	津洲				5		
6-3 埋炭3区東側					1 10YR3/3 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/1 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	
1	10YR3/3 黑褐色土	シルト	耕作土		1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/1 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
2	10YR3/1 黑褐色土	シルト	耕作土		5		
3	10YR3/1 黑褐色土	シルト	小散乱の層		1 10YR3/1 黑褐色土 2 10YR3/1 黑褐色土 3 10YR3/1 黑褐色土 4 10YR3/1 黑褐色土	シルト シルト シルト シルト	耕作土 小散乱の層 耕起層
4	津洲				5		

第4類（第6図-12／第7図-1・3・5・15／第21図-24）

沈線または刺突によって施文された土器を本類とした。

第7図-5は斜行する短い平行沈線が組み合わされており、15はやや外反する口縁部に櫛齒状の工具による連続刺突が施されている。第7図-1、第21図-24は、S字状連鎖沈線が施されている。

第II群土器（第6図～第10図／第21図）

前期前半の大木3式に比定されるもので、文様施文上の特色により2類に分類した。

第1類（第6図-15／第7図-8／第8図-19・20／第9図-3・5～7／第10図-1・2／第21図-15）

竹管状工具による施文、または沈線による幾何学文様が施された土器を本類とした。

第6図-15は、竹管を輪切りしたような施文具による円文を横位に連続している。第7図-8、第9図-3・5～7、第10図-1・2、第21図-15は、平行沈線や沈線による幾何学文様が施されている。第8図-19・20は、平行沈線の間に半竹による連続する刺突の「C」字状文がつけられている。

第2類（第7図-7・12／第8図-2～13・16～18・21～24）

刻目をもつ粘土紐貼付文によって施文された土器を本類とした。

第7図-7・12、第8図-4・9・21～24のような、口縁部を一周する刻目をもつ粘土紐貼付文が、口縁に平行にして1～2本つけられ、貼付文を境として口縁部を無文としている。また第8図-2～8・11・18のように、貼付文が口縁部や体部に分岐遊送しているものもある。粘土紐貼付文につけられた刻目についてみると、第8図-5・12・16・17は、粘土紐への刻目が斜めに切るように入っているのに対して、第8図-2～4・6～11・13・18では、ほぼ直交するように刻まれている。

第III群土器（第6図／第10図～第13図／第15図～第17図）

第1類（第6図-13・14／第10図-23／第11図-2・3・7・8・11～13・16～20／第12図-1～7・10・11・13～15・18・20～23／第15図-14～21／第16図-12・17・20・22・24／第17図-20）

斜行繩文を地文として、細い粘土紐の貼り付けによる小波状文・格子状文・梯子状文などが施文される土器を本類とした。粘土紐の組み合わせなどによってa～d類に細分された。

1a類（第6図-13・14／第10図-23／第12図-1～4・11／第16図-12・17）

2本1組を単位とする細い粘土紐の貼付文や、巾の広い粘土紐の貼付文にそった細い粘土紐の貼付文による装飾が組み合わされるもの。第10図-23は、刺突の入った巾広の粘土紐が組み合わされて施文されている。

1 b 類 (第11図-2・3・7・8・11~13・16~20／第12図-5~7・10・13・18・20／第16図-20・22)

細い粘土紐の貼り付けによる格子状文・梯子状文などが組み合わさせて幾何学文状となるもの。第11図-2・3・7・8・12・16・17、第12図-5~7・10・20、第16図-20・22のように格子状文の周りを直線紐で囲むものと、第11図-11・13・18~20、第12図-13・18のように直線紐で囲まないものがある。第11図-20、第12図-13・18は、横位の梯子状文の下端に直線紐が貼り付けられている。

1 c 類 (第12図-14・15・21~23)

直線紐で囲まれた格子状文が環状に巡るもの。

1 d 類 (第15図-14~21／第16図-24／第17図-20)

2 本1組を単位とする細い粘土紐の貼り付けによる波状文が施文されているもの。第15図-14~16・20・21では、波状文が山形文状を呈している。16は直線紐に挟まれた山形状の波状文となっている。

第2類 (第10図-7・8／第11図-1・4／第13図-10／第17図-4~6・18／第19図-25)

口縁部または口唇部に、波状を呈する鋸歯状装飾帶または細い粘土紐による小波状の貼付文がつく土器を本類とした。第10図-7・8は、口縁部に「∞」状の貼り付けがつき、7には細い粘土紐による貼付文が加えられている。第11図-1は口唇部に小波状文が貼り付けられ、体部上半に格子状文と直線紐によって「∞」状に施文されている。4は外側に折り返した口唇部に2本の直線紐と小波状文がつけられ、その下に細い粘土紐による貼付文が加えられている。第13図-10は、口唇部に太い粘土紐によって波状を呈する鋸歯状装飾帶が巡り、その下に直線紐と小波状文が加えられている。第17図-4~6・18は、口縁端部、口唇部側面の片側または両側に細い粘土紐の小波状文がつけられ、口縁部は無文となっている。第19図-25は、外反する口縁部に環状の貼付文（円文）がつけられている。

第IV群土器

前期後半の大木5式に比定されるもので、文様施文上の特色により2類に分類され、さらに口縁部につけられる鋸歯状装飾帶の形態によって細分される。

第1類 (第5図~第7図／第10図~第17図)

斜行繩文を地文とし、細い粘土紐による貼付文が、粘土紐を短く切って折り重ねたような鋸歯状の連続山形文となり、格子状文・梯子状文などと共に斜位または幾何学文状に体部に広く施文されるものを本類とした。器形としては、口縁部の外反する円筒形または植木鉢状になり、平縁な口縁部には大きく鋸歯状の切り込みをつけた装飾帶がつけられる。貼付文の特色などから1a類~1f類に細分される。

1 a類 (第10図-4 / 第11図-15 / 第14図-1 ~ 8・11・14・22 / 第15図-1・2・4・6・8 ~ 13・22 / 第16図-1・2・4 ~ 8・10・11・14・15・19・21・23)

細い粘土紐による貼付文が、2本1組を単位とする直線紐か、鋸歯状の連続山形文によって施文されたものを本類とした。直線紐に挟まれた鋸歯状山形文となるものもある。第11図-15は、口縁部を巡る隆帯の上部が幅の狭い無文帯となり、隆帯の下端には3本1組単位の直線紐が巡っている。また第14図-22は、肥厚させた口縁部のコブ状の突起部分に、直線紐のあいだを鋸歯状山形文が垂下している。第15図-1・9では、2本1組単位の鋸歯状山形文が2段重ねられている。第15図-6・8・12・13・22、第16図-13は、刺突または刻目の入った隆帯の下に直線紐に挟まれた鋸歯状山形文がつけられている。

1 b類 (第10図-10 / 第11図-5・6・9・14・21 / 第12図-8・9・16・24 / 第13図-12 / 第16図-3・9・16・18)

細い粘土紐による貼付文が鋸歯状の連続山形文となり、格子状文・梯子状文などと共に斜位または幾何学文状に体部に広く施文されるもの。

1 c類 (第5図-1・2 / 第13図-8・14・18・19)

口縁部の一部に大型の鋸歯状装飾帯がつき、体部上半に格子状貼付文が施文されるものを本類とした。第5図-1は、口縁部がゆるやかに外反する朝顔型の器形で、口縁部に大きな鋸歯状装飾帯がつく。口縁部に幅のせまい無文帯を形成し、細い粘土紐による梯子状貼付文が横位に巡り、体部上半には格子状文と、それに沿った直線紐の組み合わされた幾何学文状の貼付文が施されている。2は体部がわずかに膨らんだ器形をもち、口縁部には刺突の入った大きな鋸歯状装飾帯がつけられている。体部上半には細い粘土紐による山形文が貼り付けられている。第13図-14・18・19も、口縁部に刺突の入った大きな鋸歯状装飾帯がつけられている。

1 d類 (第11図-10 / 第13図-1・3 ~ 7 / 第14図-16・21 / 第17図-7 ~ 12・14 ~ 17)

口縁部の全局に小型化した鋸歯状装飾帯がつき、体部上半に格子状貼付文や鋸歯状山形貼付文が施文されるもの。第14図-16は、鋸歯状装飾帯の退化により下部の切り込みが喪失している。第17図-7・8・12・16では、体部上半に直線紐に挟まれた鋸歯状山形文が施文されている。

1 e類 (第13図-13・第14図-23)

鋸歯状装飾帯とは別に、刺突の入った環状貼付文が口縁部または口颈部につけられたもの。

1 f類 (第5図-3)

底部を欠いているが、外面に輪積みの痕跡をそのまま残した円筒形の器形で、口縁部には欠損しているもののまるい凹みをもつ小突起がつき、内面は丁寧に磨かれ黒色処理されている。

第2類 (第9図 / 第10図 / 第14図 ~ 第19図 / 第21図)

山形沈線文とともに、沈線による区画直線文や円形文・弧状文などの曲線文が組み合わされた簡素な幾何学文様となるものを本類とした。口縁部につけられた鋸歯状装飾帶の切り込みが退化小型化し、口縁部の全周につけられている。鋸歯状装飾帶の形態によってさらに2A類～2D類に細分される。

2A類（第9図-1／第13図-9・11・20／第14図-15／第17図-19・21／第18図-2・8～11）

上下に鋸歯を有するもの。体部につけられる沈線文により、さらに2A-a類～2A-c類に細分される。

第13図-9・11・20は、口唇部に太い粘土紐によって波状を呈する山形文がつき鋸歯状装飾帶となっている。第14図-15は、鋸歯状装飾帶の中に窓が開けられている。

2A-a類（第18図-2・8～11）

平行沈線文や山形沈線文がつくもの。

2A-b類（第17図-19・21）

刻目入りの隆線がつくもの。

2A-c類（第9図-1／第14図-20／第19図-1）

半竹爪型連続刺突がつくもの。

2B類（第17図-13／第18図-3・4・7・13）

鋸歯の上部を喪失するか退化しているもの。第18図-3は、平行沈線文と山形沈線文がつけられている。第17図-13、第18図-4・7・13は沈線文がつけられている。

2C類（第13図-2／第14図-19／第20図-24）

鋸歯の下部を喪失するもの。

第14図-19、第20図-24は、口唇部に細かな刻目が付けられた退化した装飾帶となっている。

2D類（第14図-12／第18図-1）

上下の鋸歯を完全に喪失し、口縁部を肥厚させているもの。

第14図-12は、口縁部の側面を内外面から指頭または太い棒状施文具によって押圧することで口唇部を鋸歯状化（花弁状口縁）している。第18図-1は、平行沈線文と山形沈線文がつけられている。

第3類（第9図・第10図・第14図・第18図・第19図・第21図）

鋸歯状装飾帶喪失のもので、口縁部形態の変化によって細分される。

3A類 口縁部を肥厚させないもの。文様構成によって細分される。

3A-a類（第9図-8・13・16／第10図-5・27／第18図-20／第21図-9・14）

沈線による直線文と曲線（弧状）文が組み合うもの。

第9図-16は、口縁に2本1組単位の沈線を2段重ね、その下につけられた2本1組単位の

沈線による弧状文がレンズ状を呈している。第21図-9も、同様に弧状文がレンズ状を呈している。

3A-b類（第9図-12／第10図-15・16・18～21／第14図-18／第18図-12／第19図-19・24）

沈線による鋸歯状山形文と平行沈線が組み合うもの。

第10図-21は、2本1組の山形沈線文が垂下している。第14図-18は、隆帯の下に山形沈線文がつけられている。

3B類 口縁部に山形突起か、コブ状の突起のつけられるもの。口縁部形態によって3B-a～3B-c類に細分される。

3B-a類（第10図-9／第17図-1～3／第20図-11・13）

やや肥厚させた口縁部に4単位の山形突起を形成するもの。

第10図-9は、山形突起の中に開けられる窓が退化して盲孔となっている。第17図-1～3は、2本1組単位の細い粘土紐の鋸歯状山形文がつけられている。このうち3は、山形突起の中に窓が開けられ、刻目入り隆線の下に山形文がついている。第20図-11・13は平行沈線がつけられている。

3B-b類（第10図-3・17・13／第14図-17）

山形突起の頂部に深い刻みが入るもの。

第10図-3は、山形突起の中に開けられる窓が退化して盲孔となっている。

3B-c類（第10図-11）

双コブの突起状の貼り付けがつき、波状沈線がつけられている。

第V群土器

（第9図-2・14・15・19～21／第20図-1）

関東地方の諸磯c式の特徴をもつ土器群。

第9図-14・15のように棒状貼付文と円形浮文の組合せによる装飾や、19～21のような体部に横方向あるいは交差するような条線文が施される。これらの土器は胎土にも違いがみられ、ほかの土器の胎土に比べ赤みのつよい色調で砂粒等の含有も少ない。第20図-1は、半竹の連續刺突文が木の葉状を呈している。

第VI群土器（第7図／第10図／第12図～第14図／第18図～第22図）

前期末葉の大木6式に比定されるもので、文様施文上の特色により第1類～第4類に分類した。半竹の押し引き施文による爪型連續刺突文（結節浮線文）と竹管文・ボタン状貼付文などによって構成される。

第1類（第7図-16・19／第10図-25／第13図-17／第18図-17・18／第19図-9～13・15・

18・20・23／第20図－2～6／第21図－18／第22図－1・2)

半竹爪型連続刺突文の施されるもので、弧状沈線文や平行沈線などの沈線文が加えられる。第7図－19は、口縁部の肥厚された山形突起に、口縁に沿った半竹爪型連続刺突文が施され、その下に平行沈線がつけられている。第13図－17は、口縁部にボタン状の貼り付けがつき、その上下に爪型連続刺突文がつけられている。第18図－17は、頸部に爪型連続刺突文が巡り、それによって区画された口縁部に鋸歯状山形沈線文が施文されている。第19図－15は、口縫部をめぐる連続刺突文と口縁部から垂下する連続刺突文によって作られた方形区画内に、縦位平行沈線と鋸歯状山形沈線文の組合せによって施文されている。23は肥厚させた波状を呈する口縫部に厚みのある突起状のコブがつき、口唇部の側面に沿って竹管による連続刺突が施されている。頸部の3段重ねにされた連続刺突文の下部にはボタン状の貼り付けが施されている。第20図－2・4・5は、連続刺突文に沿った平行沈線の下に2本1組単位の山形沈線文がつくもので、2の口縫部には2個1対のコブ状の小突起がつけられている。第22図－1・2は、細かな結節浮線文によって施文されている。第10図－25、第18図－18、第19図－18は、竹管を輪切りにしたような施文具の連続刺突による列点入りの隆線によって施文されているもので、第10図－25は、平行する刺突入り隆線が波状を呈し、第19図－18では、口縫部に沿った刺突入り隆線によって方形の区画を作り出そうとしている。

第2類（第7図－10・11／第13図－15・16）

ボタン状貼付文の施されるもので、斜位刻目付隆線と平行沈線文の組合せによって施文される。

第13図－15は、口縫部に稜線をもった粘土紐による環状貼り付けがつき、その内側に沿って2個1対の刺突が施され、外側にも上下に間隔を開けて同様の刺突がつけられている。16は頸部と思われ、ボタン状の貼り付けに太い竹管を輪切りにしたような施文具による刺突が入り、環状貼付文状を呈している。

第3類（第19図－3・6～8・16・17）

口縫部に刻線貼付文の施されるもので、斜位刻目付隆線と平行沈線文の組合せによって施文される。

第19図－3は、低めの突起頂部に刻みがつき、口縫部に沿って継長の短沈線状の刺突が巡っている。16は口縫に沿ってつけられた2本の刻線貼付文と、そこから垂下する刻線貼付文によって作られた方形区画の上部に鋸歯状の山形沈線が施文されている。

第4類（第18図－14～16／第20図－7・10・12・14・16～18・25～27／第21図－1～7・10・13・17・20～22）

平行沈線文が施され、山形沈線文や波状沈線文、（交互）弧状沈線文、連弧状沈線文の加えら

れる一群で組合せによって細分される。

4a 類 (第21図- 1 ~ 7 • 10 • 13 • 20 • 21)

平行沈線と波状沈線文、または弧状沈線文との組合せによって施文されるもの。

第21図- 3は、体部下半に平行沈線が「X」状に垂下している。

4b 類 (第18図- 14 ~ 16 / 第20図- 7 • 10 • 12 • 14 • 16 ~ 18 • 25 ~ 27 / 第21図- 17 • 22)

平行沈線文と、鋸歯状の山形沈線文によって施文されるもの。

第18図- 19 • 22 • 23は口縁部で、2本1組単位の鋸歯状の山形沈線が施され、その上部は無文帯となっている。16も同様に口縁部に大きな山形沈線文が施されている。第20図・第21図は、口縁部に鋸歯状の山形文が施文される一群で、第20図- 10 • 14 • 18 • 25の2本1組単位の鋸歯状の山形沈線の上部は無文帯となっている。

4c 類 (第12図- 12 / 第14図- 13 / 第18図- 5 • 6)

口縁部を肥厚させているもの。

第12図- 12は、折り返しによって肥厚させた無文の口縁部に、コブ状の貼付文がつけられている。第14図- 13は、肥厚させたやや外反する口縁部に、短い粘土紐を縦に貼り付けている。頸部には、細い粘土紐とそれに沿った沈線が巡っている。第18図- 5は、口縁に沿って円形刺突の入った巾広の隆帶が巡っており、6は隆帶を貼りつけて肥厚させた口縁の下部に刻目が入れられている。

第七群土器 (第7図 / 第8図 / 第19図 / 第22図 / 第23図)

中期の大木7式以降のものを中心とする一群で、文様施文上の特色により第1類～第4類に分けられる。

第1類 (第7図- 14 / 第18図- 21 / 第19図- 4 • 22)

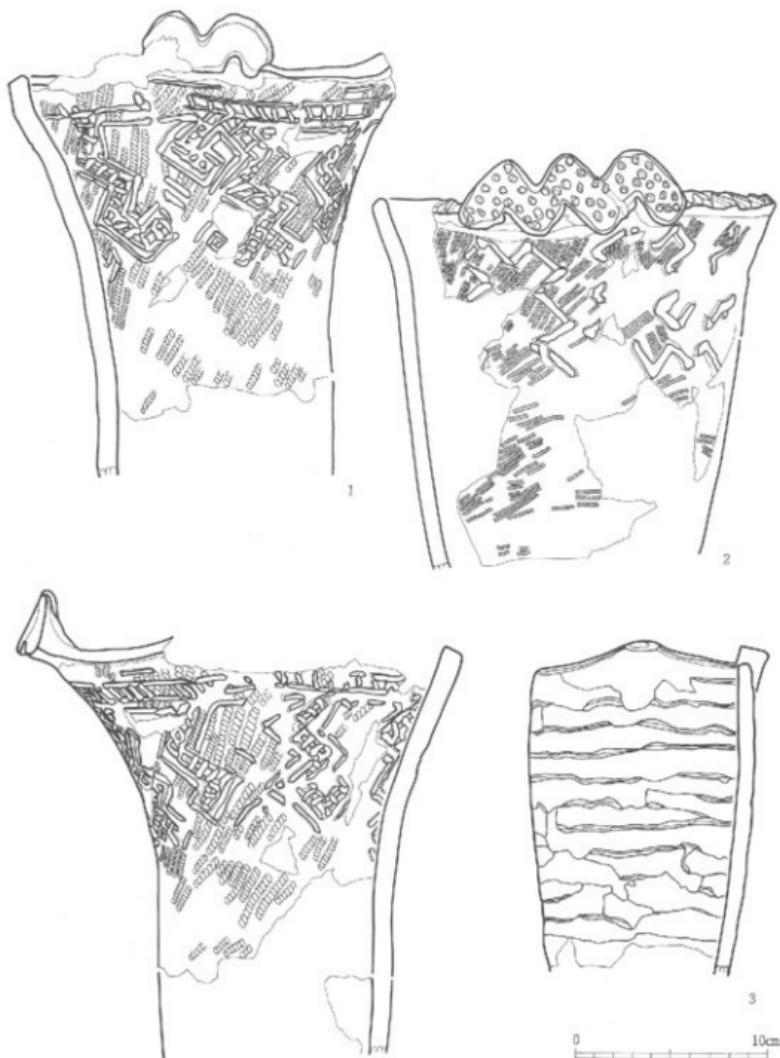
大木7式に比定されるもの。第18図- 21は頸部資料と思われ、三角形彫去の下に沈線文がつけられている。第19図- 4は、刻線貼付文と平行沈線の間に鋸歯状山形沈線文がつけられ、体部には弧状沈線が施されている。

第2類 (第9図- 4 • 10 • 11 / 第22図- 3 ~ 10)

大木8式新～9式新段階に比定されるもの。第9図- 10 • 11のように、沈・隆線区画によって施文されるものや、第22図- 3 ~ 8のように、渦巻隆(稜)沈線文によって施文されるものがある。第22図- 9 • 10は、沈線区画で磨消繩文となるものである。

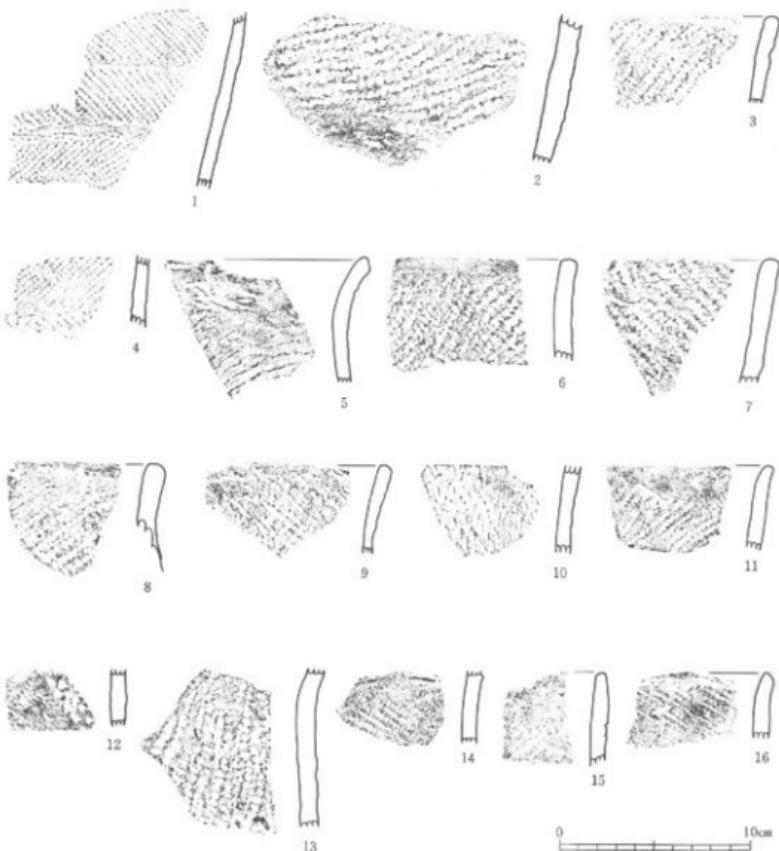
第3類 (第22図- 11 • 12)

晩期に比定されるもの。12は、浅鉢の口縁部で、山形波状文と平行沈線間に繩文が充填されている。11は、繩文の充填された磨消繩文となっている。



第5図 出土遺物・石器 (1)

番号	地名・層位	形 似	分類	文 標・地 文	出露 面番号	出露 面番号	地名・層位	部 位	分類	文 標・地 文	出露 面番号	可算面 張数
1	V-1区	江-1层	素面快状器	新-1层上-断面子状文	1 写真6	3 V-1区	江-1层	器	素面快状器	(内面) 1才半。浅色的深	3 写真6	
2	V-2区	江-1层	深海状快状器(深-1层)-断-1层上-断面子状文		2 写真7							



番号	地区・層位	部 位	分 類	文 標	様 式	年 代	目録番号	出 収	地 区	層 位	部 位	分 類	文 標	様 式	年 代	目録番号	出 収
1	VI-北区	体部	I-1型	羽状绳文・横格文		98	II-1	9	V-西区	口縁部	I-3型	柱状条带文			96	II-9	
2	VI-A区	体部	I-1型	绳文		135	II-2	10	V-西区	体部	II型	锯齿状斜线纹・横格文			10	II-10	
3	V区	口縁部	I-1型	绳文		260	II-3	11	III-D区	口縁部	II型	锯齿文			189	II-11	
4	VI-北区・側部	体部	I-1型	羽状绳文 (2重の溝目)		99	II-4	12	IV-F区	体部	I-4型	浅底羽状绳文・横格文?			132	II-12	
5	V-中央区	口縁部	I-1型	绳文		45	II-5	13	V-中央区	体部	III-1a型	锯齿文・横・斜线平行文			272	II-13	
6	V-中央区	口縁部	II型	绳文		52	II-6	14	V-中央区	体部	III-1b型	深・斜上茎阳纹・横文			50	II-14	
7	V-西区	口縁部	II型	绳文		79	II-7	15	V-西区	口縁部	II-1型	深洼茎阳纹・绳文			16	II-15	
8	V-中央区	口縁部	II型	绳文		81	II-8	16	IV-F区	口縁部	I-1型	锯齿文・小横状口縁			132	II-16	

第6図 出土遺物・土器(2)



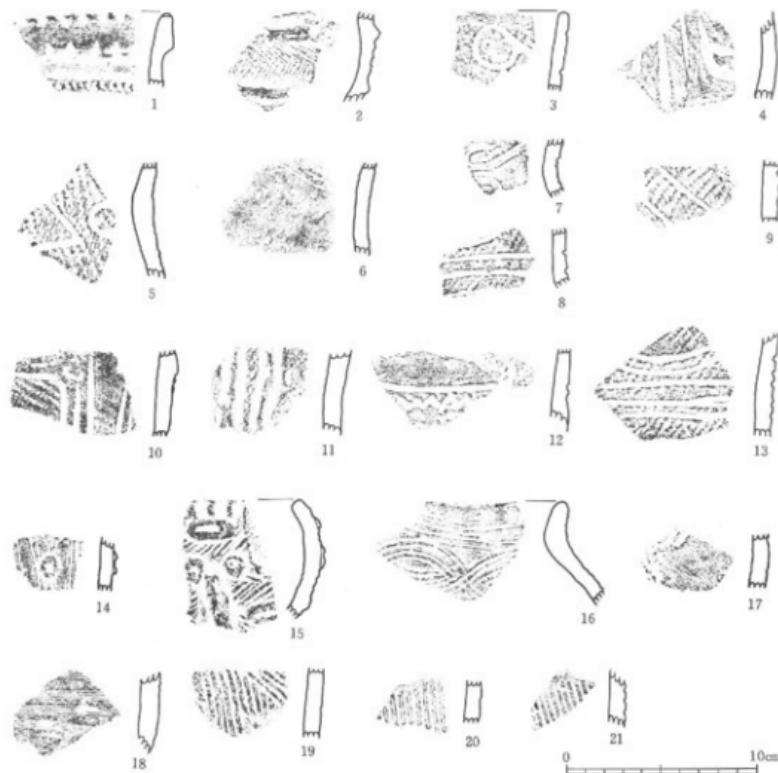
番号	地区・想定	断面	分類	文様・地文	登録番号	測定寸法	番号	地区・想定	断面	分類	文様・地文	登録番号	測定寸法
1	Ⅳ-Ⅴ区	体部	I-Ⅲ類	S字型波状浅縫	23	11-17	11	V-Ⅵ区	体部	Ⅰ-Ⅱ類	波状	96	12-1
2	Ⅳ区	体部	I-Ⅳ類	波状、筋状文	31	11-18	12	Ⅲ-Ⅳ区	口縫部	Ⅰ-Ⅱ類	波状文、C字状網目入波縫文	261	12-2
3	Ⅳ-Ⅴ区	体部	I-Ⅳ類	打点条波文・跳躍文	261	11-20	13	Ⅲ-Ⅳ区	口縫部	Ⅱ類	跳點波文・斜斜波狀入波縫文	170	12-3
4	Ⅳ-Ⅴ区	体部	I-Ⅲ類	麻点、跳躍文	158	11-20	14	Ⅲ-Ⅳ区	口縫部	Ⅲ-Ⅳ類	波状文・漏斗河波文・山形突起?	237	12-4
5	Ⅴ-中央区	体部	I-Ⅳ類	波状文	13	11-21	15	Ⅲ-Ⅳ区	口縫部	Ⅰ-Ⅳ類	半竹による押しづき割れ文・繩文	24	12-5
6	Ⅳ-Ⅴ区	口縫部	Ⅳ類	波状文	34	11-22	16	Ⅴ-中央区	体部	Ⅰ-Ⅲ類	波状文-C字状網目入波縫文	88	12-6
7	Ⅴ-Ⅵ区	口縫部	Ⅱ-Ⅲ類	刻印入波縫文	245	11-23	17	口縫部	Ⅵ類	刻印入波縫文	128	12-7	
8	Ⅴ-Ⅵ区	体部	Ⅱ-Ⅳ類	波状による唐草文字・波文	73	11-24	18	Ⅴ-中央区	口縫部	Ⅱ類	波状文・S字波状連續波縫文	69	12-8
9	Ⅳ-Ⅴ区	体部		螺旋網目刻文・平行波縫文	87	11-25	19	Ⅳ-Ⅴ区	口縫部	Ⅲ-Ⅳ類	螺旋網目刻文・平行波縫文	117	12-9
10	Ⅴ-Ⅵ区	体部	Ⅳ-Ⅴ類	波状・波縫付	19	11-25							

第7図 出土遺物・土器(3)



番号	地名	器物	分類	文様	地文	登錄番号	揭露番号	番号	地名	器物	分類	文様	地文	登錄番号	揭露番号
1	V-六区	口縁部	II-1種	千葉模印文		162	12-10	13	III-1区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		229	12-22
2	V-西区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文+竹管文		73	12-21	14	III-1区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		199	12-23
3	V-西区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		72	12-22	15	III-1区	口縁部		脚印付粘土模印付文		141	12-24
4	III-D区	口縁部	II-2種	脚印付粘土模印付文		29	12-23	16	V-四区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		96	12-25
5	V-E区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		162	12-24	17	V-7区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		113	12-26
6	III-1区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		167	12-25	18	III-7区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		186	12-27
7	V-北区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		96	12-26	19	III-D区	口縁部	II-1種	平行波状模印彫文(C字状)		25	12-28
8	V-西区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		74-a	12-27	20	III-4区	口縁部	II-1種	平行波状模印彫文(C字状)		170	12-29
9	V-西区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		74-b	12-28	21	III-5区	口縁部	II-2種	脚印付粘土模印付文		145	12-30
10	V-西区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		98	12-29	22	III-2区	口縁部	II-2種	脚印付粘土模印付文		143	12-31
11	V-西区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文+平行状線		93	12-20	23	III-6区	口縁部	II-2種	脚印付粘土模印付文		213	12-32
12	V-中区	脚部	II-2種	脚印付粘土模印付文		234	12-21	24	V-西区	口縁部	II-2種	脚印付粘土模印付文		89	12-33

第8図 出土遺物・土器(4)



番号	地区・層位	断面	分類	文様・地文	立場番号	復元図号	番号	地区・層位	断面	文様・地文	新設番号	実測図号	
1	四一郎区	CB縦断	IV-2.5c 縦	輪廓状紋様・平行目形連続模 型文	133	13-1	12	四-C区	横断	IV-3Ab 横	沈底文・山形波唐文	29	13-12
2	1区・山區	体部	V型	施釉区断・点彩文		13-2	13	V-西区	横断	IV-3Ab 縦	点彩文・幾文	33	13-13
3	四一郎区	CB縦断	II-1型	施釉区に2.5輪何字文・幾文	144	13-3	14	四区	体部	V型	円形模文・垂穂文	129	13-14
4	表層	体部	VI-2型	施滑模区・幾文		13-4	15	II-メ区	体部	V型	横底筋付文・円形浮舟文・垂穂 文	29	13-15
5	四一郎区	体部	II-1型	施釉区による横何字文・幾文	4	13-5	16	V-西区	口縁部	IV-3Ab 縦	平行模文・双頭模文(レシズ)C	73	13-21
6	表-中央区	体部	II-1型	施文文・幾文	253	13-6	17	二-ロ区	体部		施曲伏比較文	268	13-26
7	明区	体部	II-1型	口管による平行凹継文	176	13-7	18	三-ト区	体部		施曲伏比較文	219	13-27
8	V-西区	体部	IV-3Ab 縦	施絞文・幾文	93	13-8	19	四-D区	体部	V型	垂穂文	30	13-18
9	四-A区	体部	II型	施絞文・幾文	126-4	13-9	20	四-D区	体部	V型	垂穂文	36	13-19
10	表層	体部	四一郎	施絞区断・幾文		13-10	21	四-ホ区	体部	V型	垂穂文	226	13-28
11	四-B区	体部	II-1型	施絞文・幾文	136-5	13-11							

第9図 出土遺物・土器(5)



番号	地名・埋蔵	断面	分類	文様・地文	登録番号	年月日	番号	地名・埋蔵	断面	分類	文様・地文	登録番号	年月日
1	西-D区 口縁部	Ⅱ-1種	弦紋		30	13-22	15	西-D区	外縁部	IV-5a種	山形伏藏文・綱文	175	13-16
2	西-D区 口縁部	Ⅱ-1種	平行波線文		145	13-23	16	Ⅸ-1区	外縁部	IV-5b種	山形伏藏文・綱文	82	13-37
3	西-D区 口縁部	Ⅱ-1種	縹緲文	圓形切削孔入りの縹緲文	240	13-24	17	西-D区	口縫部	IV-2b種	綱文	34	13-38
4	西-7区 口縫部	Ⅱ-1種	縹緲文		117	13-73	18	Ⅸ-4区	外縁部	IV-2-3A種	山形伏藏文・綱文	17	13-39
5	期区 口縫部	Ⅱ-1種	縹緲文		195	13-38	19	Ⅹ-1区	外縫部	IV-2-3b種	山形伏藏文・綱文	32	13-40
6	表層	口縫部	縹緲	縹文		13-27	20	Ⅸ-1区	外縫部	IV-3-5b種	山形伏藏文	74	14-1
7	西-V区 口縫部	Ⅱ-2種	「△」切削孔付縹・執上切削付		38	13-28	21	V区	外縫部	IV-3-5a種	山形伏藏文	266	14-2
8	V-V区 口縫部	Ⅱ-2種	向心縹文「△」状切削付		74	13-29	22	Ⅹ-1区	外縫部		山形伏藏文・綱文	158	14-3
9	西-D区 口縫部	Ⅱ-2種	山形伏藏・乳凸・輪廓隕付		175	13-30	23	Ⅹ-1区	外縫部	Ⅲ-1a種	山の低い場所隕付文(通角)	5	14-4
10	Y-1区 口縫部	Ⅱ-1b種	縹・乳突・山形文・綱文		85	13-31	24	Y-1区	外縫部		平行波線文	69	14-5
11	西-9区 口縫部	Ⅱ-1b種	縹・乳突・山形文・綱文		142-a	13-32	25	Ⅹ-1区	外縫部	Y-1種	山形伏藏文(土器開拓で山形文)	219	14-6
12	西-9区 口縫部	Ⅱ-1b種	縹	「△」切削孔付縹	142-b	13-33	26	V-V区	外縫部	IV種	波綱文・綱文	43	14-7
13	Y-6区 口縫部	Ⅱ-1b種	縹	圓形切削孔入り縹・乳突	12	13-34	27	V-V区	外縫部	IV-3a種	山形伏藏文	11	14-8
14	西-1区 口縫部		山形の工具による波綱文・綱文		231	13-35							

第10図 出土遺物・土器 (6)



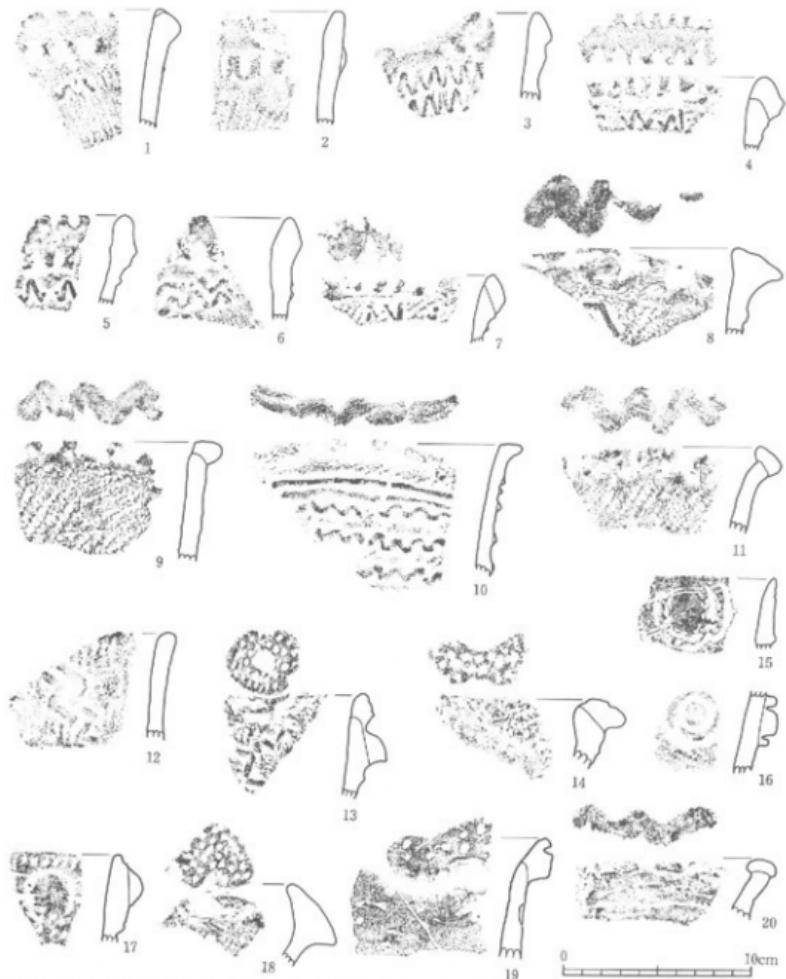
番号	地区・操作	部 分	分 類	文 横・縦 文	地點番号	年代	番号	地點番号	部 分	分 類	文 横・縦 文	地點番号	年代
1	Ⅳ-A区	口縫部	口-上縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	19	14-9	12	II-1-C区	口縫部	口-縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	229	14-28
2	Ⅳ-中央区	口縫部	口-下縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	35-a	14-10	13	II-1-C区	口縫部	口-縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	234	14-21
3	Ⅳ-中央区	口縫部	口-右縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	254	14-11	14	II-1-C区	口縫部	口-縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	14-25	
4	縫端	口縫部	口-2縫	口の縫端(縫×縫)-縫子状文	34-12	15	33-1-C区	口縫部	口-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	191	14-25	
5	Ⅳ-中央区	口縫部	口-2縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	63	14-13	36	III-C区	縫端	縫-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	29	14-24
6	縫-1区	口縫部	口-2縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	127	14-14	37	V-西北	口縫部	縫-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	71	14-25
7	V-中央区	口縫部	口-2縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	69	14-15	38	IV-1-C区	口縫部	縫-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	125	14-25
8	V-中央区	口縫部	口-3縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	131	14-16	39	V-中央区	口縫部	縫-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	75	14-27
9	Ⅳ-中央区	口縫部	口-3縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	187	14-17	20	V-中央区	口縫部	縫-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	76	14-28
10	Ⅳ-中央区	口縫部	口-3縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	128	14-18	21	V-中央区	口縫部	縫-1縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫子状文	82	14-29
11	V-西北区	口縫部	口-縫	縫×縫(全縫小縫状)-縫文	61	14-19							

第11図 出土遺物・土器 (7)



番号	地区・層位	形	分類	文様・施文	測定番号	実測番号	番号	地区・層位	形	分類	文様・施文	測定番号
1	表層	口縁	II-1a型	山形の雲雷-細い鉛土茎網文	18	15-1	13	II-D区	口縁	II-1b型	細い山形雲雷子状文	107 15-1
2	II-D区	口縁	II-1a型	山形の雲雷-細い鉛土茎網文	134	15-2	11	V-2区	口縫	II-1c型	細い山形雲雷子状文	105 15-14
3	Ⅲ-Ⅳ区	体部	II-1a型	山形の雲雷-細い鉛土茎網文	160	15-3	15	V-中央区	体部	II-1d型	細い山形雲雷子状文	64 15-1
4	表層	体部	II-1a型	山形の雲雷-細い鉛土茎網文	15-4	16	V-西区	体部	II-1e型	細い山形雲雷子状文	71 15-15	
5	Ⅲ-D区	体部	II-1b型	葉-鉛土茎網子状文	34	15-5	17	II-A区	体部	II-f型	細い葉-鉛土茎網子状文	125 15-17
6	V-1中央区	体部	II-1c型	葉-細い鉛土茎網子状文	75	15-6	18	V-2区	体部	II-1d型	葉-細い鉛土茎網子状文	51 15-18
7	V-1E区	体部	II-1d型	葉-細い鉛土茎網子状文	161	15-8	19	V-西区	体部	II-1e型	葉-細い鉛土茎網子状文	73 15-19
8	V-中央区	体部	II-1e型	葉-細い鉛土茎網子状文	85	15-7	20	III-2区	体部	II-1f型	葉-細い鉛土茎網子状文	143 15-20
9	V-中央区	体部	IV-1b型	葉-細い鉛土茎網山字文-椅子状文	68	15-9	21	表層	体部	II-1g型	葉-細い鉛土茎網山字文	15-21
10	V-西区	体部	II-1a型	鉛土茎網山字文	67	15-10	22	表層	体部	II-1h型	葉-細い鉛土茎網山字文	15-22
11	V-中央区	体部	II-1a型	鉛土茎網山字文	62	15-11	23	V-中央区	体部	II-1i型	葉-細い鉛土茎網山字文	59 15-13
12	III-C区	体部	VI-4c型	折出し口縫-コノ鉛土茎網文	232	15-12	24	V-中央区	口縫	IV-1b型	葉-細い鉛土茎網山字文	76 15-24

第12図 出土遺物・土器(8)



番号	地区・出発	形	分類	文様・施文	備註	写真番号	番号	地区・出発	形	分類	文様・施文	備註
1	V-中区	口縁部	IV-14型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・點・網織状模印・施文	83	15-25	31	西折	口縫部	IV-2A型	更細状の輪郭・施文	16-2
2	V-PK	口縁部	IV-2C型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・太V字底模印	79	15-16	32	南-2区	口縫部	IV-15型	底子輪郭模印・施文・施文	173
3	V-2区	口縁部	IV-2型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・點・網織状模印・施文	73	15-27	23	V-2区	口縫部	IV-1e型	複数人頭像模印(2人)・施文	74
4	III-B区	口縁部	IV-1d型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・網織状模印・施文	25	15-18	24	IV-2区	口縫部	IV-1e型	複数人頭像模印(2人)	38
5	III-1区	口縁部	IV-1d型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・網織状模印・施文	240	15-25	33	V-2区	口縫部	IV-1-d型	複数人頭像模印(2人)・施文	158
6	IV区	口縁部	VI-1d型	厚底以輪郭下深溝(内・外)・點・網織状模印	125	15-20	34	II-2区	施文	VI-2型	シグン頭像模印・施文・網織状模印	79
7	III-D区	口縁部	IV-1d型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・網織状模印・施文	20	15-21	17	III-D区	口縫部	VI-1型	シグン頭像模印・手形・施文	34
8	V-9区	口縁部	IV-1C型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・網織状模印・施文	63	15-22	18	V-9区	口縫部	IV-1c型	複数人頭像模印(2人)・施文	66
9	V区	口縁部	IV-2A型	輪廓状輪郭下深溝(内・外)・網織状模印	266	15-23	29	去折	口縫部	IV-1c型	複数人頭像模印(2人)・施文	18
10	V-9区	口縫部	三-2型	口輪廓状大斜引(内・外)・點・網織状模印	84-95	16-20	20	V-9区	口縫部	IV-2A型	底子状云雷形(口沿付)	66

第13図 出土遺物・土器(9)



番号	地区・断面	形 似	分類	文 標・地 文	骨筋	厚肉骨	番号	場所・断面	形 似	分類	文 標・地 文	骨筋	厚肉骨	
1	古墳	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	16-12	13	IV-1c 斜	口縫斜	V-1c 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	12B	16-24		
2	古墳	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	16-13	14	V-1c 斜	口縫斜	V-1a 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	12	16-25		
3	V-西区	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	25	16-14	15	V-1c 斜	口縫斜	V-1a 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	14	16-27	
4	V-西区	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	12-a	16-15	16	IV-F 区	口縫斜	V-1d 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	10	16-28	
5	V-西区	口縫斜	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	17-b	16-16	17	IV-S 区	口縫斜	V-1d 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	41	16-29	
6	V-西区	口縫斜	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	21	16-17	18	IV-F 区	口縫斜	V-1d 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	38	16-30	
7	V-中央区	口縫斜	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	12	16-18	19	V-1E 区	口縫斜	V-1c 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	48	16-31	
8	V-中央区	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	27	16-19	20	V-1E 区	口縫斜	V-2Ac 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	39	16-32	
9	V-中央区	口縫斜	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	31	16-20	21	IV-1F 区	口縫斜	V-1d 斜	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	117	17-1	
10	III-D 区	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	33	16-21	22	V-1E 区	口縫斜	V-1a 斜	ノリ穴(通)・毛・輪・輪孔(通)・空洞	99	17-2	
11	V-西区	棒状	IV-1a 壁	縦・横土壁斜面直角、切妻・腰妻	109	16-22	23	V-1中央区	口縫斜	V-1e 斜	管状突起(人字縫)空洞	15	17-3	
12	V-中央区	口縫斜	IV-2D 壁	口縫斜に内凹の骨柱によく縫合	24	16-23								

第14図 出土遺物・土器 10



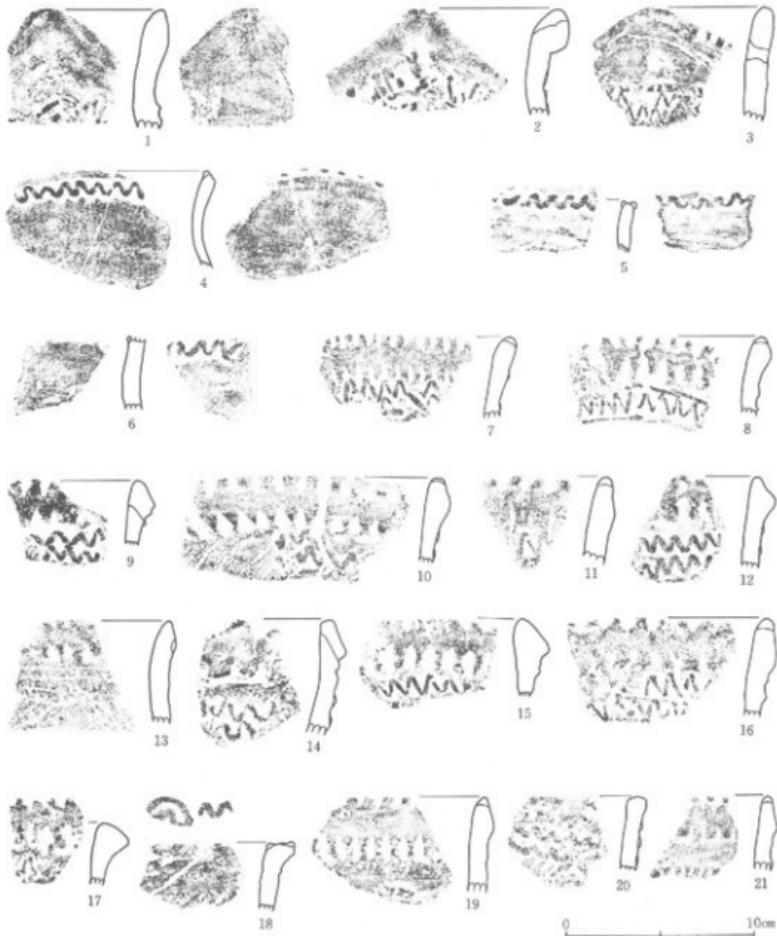
番号	地区・部位	形 像	分 類	文 標・地 文	出 口	番号	地区・部位	形 像	分 類	文 標・地 文	地 目	地 号	
1	V・中央区	口部基	IV-1a型	縫合・土器底・縫合山形文	59	17-4	12	V-中央区	口部基	IV-1a型	側入縫合・縫合・側土足の小波状文	62	17-15
2	同一・Z区	口部基	IV-1a型	縫合・土器底・縫合山形文	10	17-5	13	V-西北区	口部基	IV-1a型	側入縫合・縫合上唇の小波状文	72	17-15
3	V・中央区	口部基	縫合		49	17-6	14	V・中央区	体部	III-1b型	縫合・側土足の小波状文	15	17-12
4	同一・Z区	口部基	IV-1a型	縫合・側土足・縫合山形文	11	17-7	15	III-2区	体部	III-1b型	縫合・側土足の小波状文	173	17-16
5	III-2区	口部基	IV-1a型	縫合・側土足・縫合山形文	11	17-8	16	III-2区	体部	III-1b型	縫合・側土足の小波状文	159	17-19
6	V・西北区	口部基	IV-1a型	側入縫合・縫合・側土足・縫合山形文	134	17-9	17	V-中央区	体部	IV-1a型	側入縫合・縫合山形文	84	17-20
7	第一・Z区	口部基	III-2型	口側面に縫合・側土足の小波状文	294	17-10	18	V-中央区	体部	III-1b型	側入縫合・縫合の小波状文	12	17-21
8	東端	口部基	III-2型	縫合・土器底・縫合・山形文	17-11	19	V-中央区	体部	III-1b型	側入縫合・縫合の小波状文	84	17-22	
9	V・西北区	口部基	IV-1a型	縫合・側土足・縫合山形文	89	17-12	20	IV-2区	体部	III-1b型	縫合・側土足の小波状文	122	17-23
10	V-E区	口部基	IV-1a型	縫合・側土足・縫合山形文	150	17-13	21	IV-2区	体部	III-1b型	縫合・側土足の小波状文	157	17-24
11	E-D区	口部基	IV-1a型	縫合・側土足の小波状文	31	17-14	22	V-E区	体部	IV-1a型	側入縫合・縫合・側土足の小波状文	366-19	17-25

第15図 出土遺物・土器(1)



番号	地区・層位	遺物	分類	文様・地文	出場 年号	可算式 断面番号	番号	地区・層位	遺物	分類	文様・地文	出場 年号	
1	V-Ⅳ区	口縁形	IV-1a型	縦・横・斜面粗粒状山形文	101	18-1	13	III-Ⅳ区	体形	IV縫	縦斜入丸形・横・斜面粗粒状山形文	20	18-2
2	V-Ⅲ東区	口縁形	IV-1a型	縦・横・斜面粗粒状山形文	13	18-2	14	V-Ⅲ区	体形	IV-1a 縫	縦・横・斜面粗粒状山形文	68	18-3
3	V-Ⅲ北区	口縁形	IV-1b型	縦・横・斜面粗粒状山形文	63	18-3	15	III-D区	体形	IV-1b 縫	縦・入丸形・横・斜面粗粒状山形文	58	18-5
4	V-Ⅲ中央区	口縁形	IV-1c型	縦・横・斜面粗粒状山形文	77	18-4	16	V-Ⅲ区	体形	IV-1b 縫	縦・横・斜面粗粒状山形文	73	18-6
5	V-Ⅲ中央区	口縁形	IV-1d型	縦・横・斜面粗粒状山形文	63	18-5	17	V-Ⅲ区	体形	IV-1a 縫	縦・斜入丸形・斜行文	58	18-7
6	V-Ⅳ区	口縁形	IV-1a型	縦・横・斜面粗粒状山形文	163-2	18-6	18	V-Ⅳ区	体形	IV-1b 縫	縦・斜入丸形状の山形文	27	18-8
7	V-Ⅳ西区	口縁形	IV-1a型	縦・横・斜面粗粒状山形文	44	18-7	19	III-Ⅳ区	体形	IV-1a 縫	縦・斜入丸形付文	141	18-9
8	V-Ⅳ西区	口縁形	IV-1b型	縦・横・斜小丸状文	23	18-8	20	V-Ⅳ区	体形	III-1b 縫	縦・斜入丸形付文	44	18-10
9	Ⅴ-Ⅱ区	口縁形	IV-1b型	縦・横・斜面粗粒状山形文	131	18-9	21	V-Ⅱ区	体形	IV-1a 縫	縦・斜面粗粒状山形文	46	18-11
10	E-D区	体形	IV-1a型	縦・横・斜面粗粒付	209	18-11	22	體形	体形	III-1b 縫	縦・斜入丸形状文	18	18-12
11	無層	体形	IV-1a型	縦・横・斜面粗粒状山形文	16-18	18-12	23	III-Ⅳ区	体形	IV-1a 縫	縦・斜入丸形付文	127	18-23
12	V-Ⅳ区	体形	III-1a型	縦・横・斜面粗粒付文	33	18-13	24	III-F区	体形	III-1b 縫	縦・斜入丸形の小面状文	26	18-24

第16図 出土遺物・土器 12



番号	地区・調査	地 区	分 類	文 標・地 文	番號	寺内区 面積	番号	地区・調査	地 区	分 類	文 標・地 文	番號	寺内区 面積
1	田代一区	口輪部	Ⅳ-32a	第1小形打刃・三脚突起	218	18-25	12	III-7区	口輪部	Ⅳ-1E	新石器中期標印・土上斜面切削山形	145	19-5
2	田代一区	口輪部	Ⅳ-32b	第1小形打刃・三脚突起	268	18-26	13	V-1中央区	口輪部	Ⅳ-2E	新石器中期標印・平行凹痕文	49	19-6
3	V-E区	口輪部	Ⅳ-32b-a	第1小形打刃・三脚突起突出山形	48	18-17	14	V-1E区	口輪部	Ⅳ-1M	新石器中期標印・面上凸凹切削山形	27	19-7
4	V-中央区	口輪部	Ⅳ-7	口輪部切・端土槽の一部斜次文	66	18-20	15	III-2区	口輪部	Ⅳ-1M	新石器中期標印・端土槽斜次文	236	19-8
5	V-西区	口輪部	Ⅳ-7	口輪部切・端土槽の一部斜次文	67	18-20	16	V-中央区	口輪部	Ⅳ-1M	新石器中期標印・端土槽斜次文	37	19-10
6	御一ノ区	斜面	Ⅳ-2	第1小形打刃	259	18-28	17	IV-2E区	口輪部	Ⅳ-1M	新石器中期標印・端土槽斜次文	52	19-11
7	御一ノ区	口輪部	Ⅳ-1d	第1大形打刃・端土槽斜次文	22	18-22	18	V-1区	口輪部	Ⅳ-2E	有肩石刀・面上斜面平行文・小斜次文	112	19-12
8	V-中央区	口輪部	Ⅳ-1d	第1大形打刃・端土槽斜次文	68	18-1	19	V-2E区	口輪部	Ⅳ-2A	縫合状斜面・土入斜面	44	19-13
9	V-西区	口輪部	Ⅳ-1d	第1大形打刃・端土槽斜次文	70	18-2	20	中央区	口輪部	Ⅳ-1d	縫合・端土槽の小斜次文	23	19-3
10	V-西区	口輪部	Ⅳ-1d	第1大形打刃・端土槽斜次文	80-124	18-3	21	III-1区	口輪部	Ⅳ-2A	縫合状斜面・土入斜面	225	19-14
11	智-A区	口輪部	Ⅳ-1d	第1大形打刃・端土槽斜次文	125	18-4							

第17図 出土遺物・土器(13)



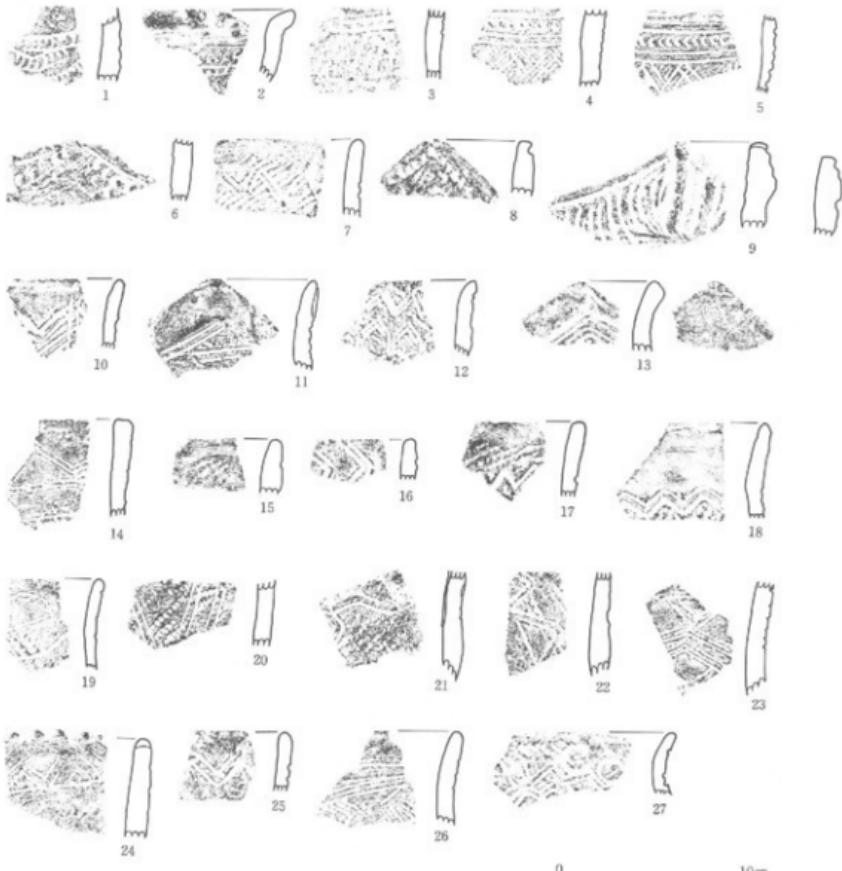
番号	地区・層位	形 似	分 類	文 標・地 文	器種 基準	器種 記号	基 本	地区・層位	形 似	分 類	文 標・地 文	器種 基準	器種 記号
1	V-西北	口縁部	IV-2D型	平行波状文-山形波状文	31	19-15	12	V-中央区	口縫部	IV-2E型	平行4字1行下部に山形波状文	36	19-27
2	Ⅳ-7区	口縁部	IV-2E型	波状入出筋-平行波状-山形波状文	121	19-16	14	V-Ⅲ区	口縫部	IV-4D型	波状入出筋-平行波状	102	19-28
3	Ⅳ-D区	口縁部	IV-2D型	波状入出筋-平行波状文	21	19-17	15	V-E	口縫部	IV-4D型	波状入出筋-山形波状文	108	19-29
4	V-E区	口縫部	IV-2B型	波状文-平行波状文	108	19-18	16	V-中央区	口縫部	IV-4C型	波状文	81	19-30
5	V-中央区	口縫部	VI-4C型	山形の乳突-波状文	56	19-19	17	V-D区	口縫部	VI-1D型	山形の乳突-山形乳突-平行波状文	111	19-31
6	IV-A区	口縫部	VI-4C型	波状きずた-山形下部に刻印	116	19-20	18	V-E区	底部	VI-1D型	刻印入波状	26	19-32
7	Ⅳ-D区	口縫部	IV-2B型	波状きずた-山形下部に刻印(山形乳突)	34	19-21	19	Ⅳ-B区	口縫部	II型	山形波状文	23	19-33
8	Ⅳ-2区	口縫部	IV-2Aa型	波状きずた-代波状	227	19-22	20	V-II区	底部	IV-3Aa型	波状文	384	19-34
9	V-B区	口縫部	IV-2Aa型	波状波状-代波状	106	19-23	23	底部	Ⅳ-1区	二山形凹凸	19-35		
10	V-E区	口縫部	IV-2Aa型	平行波状-代波状	28	19-24	22	V-E区	口縫部	VI型	山形波状文	67	19-36
11	Ⅳ-A区	口縫部	IV-2Aa型	波状波状-代波状	175	19-25	22	V-Ⅲ区	口縫部	VII型	山形波状文	106	19-37
12	V-B区	口縫部	IV-2Aa型	平行波状-山形波状文	24	19-26							

第18図 出土遺物・土器 (14)



番号	地区・地名	基 位	分 類	文 稿	地 天	骨軸 留字	地質 層位	證 号	地 区・覆 作	基 位	分 類	文 稿	地 質 層位	可 證
														番号
1	V-西区	II-縫隙	IV-2Ac種	繩目状突起面-平行斜筋文-平行斜筋文	9	38-1	V-西区	II-縫隙	V-1	V-西区	II-縫隙	枝狀文	23	20-11
2	V-西区	II-縫隙	VIIb	繩目狀平行斜筋文	74	38-2	V-西区	II-縫隙	V-1	V-西区	II-縫隙	平行斜筋狀平行斜筋文	36	20-13
3	Ⅳ-八区	II-縫隙	V-1種	圓形點狀-圓孔-圓形點狀-圓形點狀	216	38-3	V-E区	II-縫隙	V-1	V-E区	II-縫隙	圓形點狀-圓孔-圓形點狀	129	20-18
4	V-7区	II-縫隙	V-1種	圓形點狀-平行斜筋文-圓形點狀	113	38-4	V-D区	II-縫隙	V-1	V-7区	II-縫隙	圓形點狀文	40	20-17
5	Ⅳ-1区	II-縫隙	VIIb	口唇帶斜子供前後文-剪入筋狀文-平行斜筋文	143	38-5	V-半丸区	II-縫隙	V-1	V-1区	II-縫隙	割裂人頭像	135	20-18
6	Ⅳ-1区	外形	V-1種	圓形點狀平行斜筋文-圓孔-圓孔	157	38-6	V-1区	外形	V-2	Ⅳ-2Ac種	圓形點狀平行斜筋文	31	20-19	
7	去解	外形	V-1種	圓形點狀平行斜筋文	31	38-7	III-E区	外形	V-1	III-E区	外形	圓形點狀平行斜筋狀平行斜筋文	229	20-20
8	Ⅳ-A区	II-縫隙	V-1種	圓形點狀平行斜筋文	187	38-8	III-D区	外形	VIIb	Ⅳ-A区	II-縫隙	圓形點狀平行斜筋文	31	20-21
9	V-西区	外形	V-1種	平行五形點狀平行斜筋-平行平行斜筋文	78	38-9	V-D区	II-縫隙	V-1	V-1区	平行五形點狀平行斜筋文	113	20-22	
10	V-7区	外形	V-1種	平行五形點狀平行斜筋文	43	38-10	III-7区	外形	V-1	V-7区	II-縫隙	平行五形點狀平行斜筋文	113	20-23
11	V-7区	外形	V-1種	平行五形點狀平行斜筋文	118	38-11	V-7区	II-縫隙	V-2	V-2区	II-縫隙	枝狀文	170	20-24
12	V-中央区	外形	V-1種	平行五形點狀平行斜筋-平行五形點狀平行斜筋文	64	38-12	III-7区	II-縫隙	V-2	V-7区	II-縫隙	平行五形點狀平行斜筋文	144	20-25
13	Ⅳ-1区	外形	V-1種	平行五形點狀平行斜筋文	219	38-13								

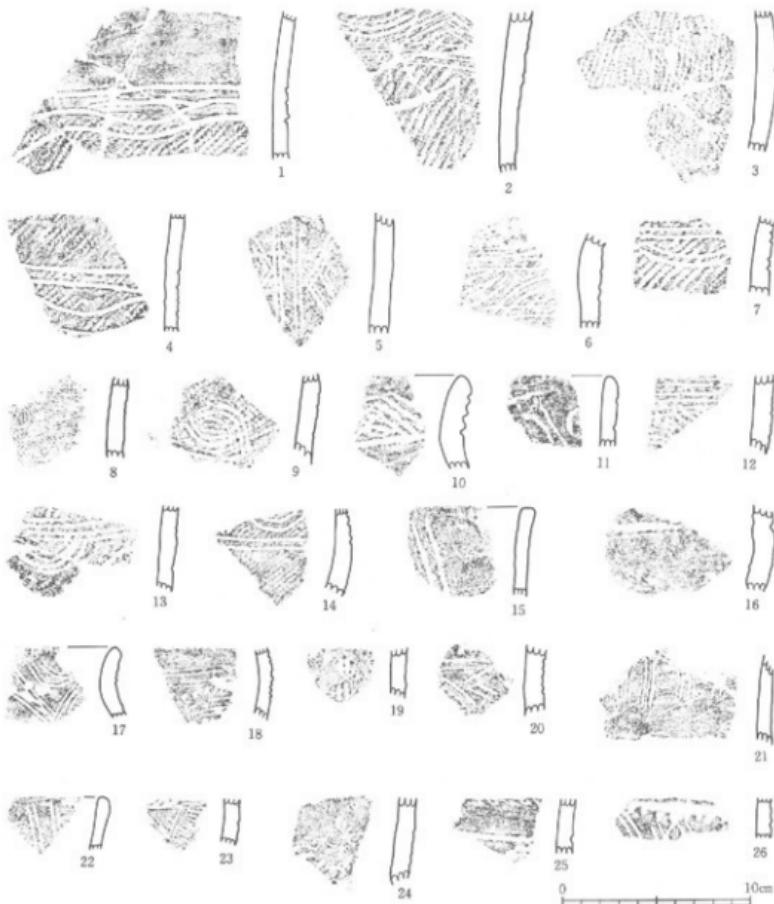
第19図 出土遺物・土器(15)



0 10cm

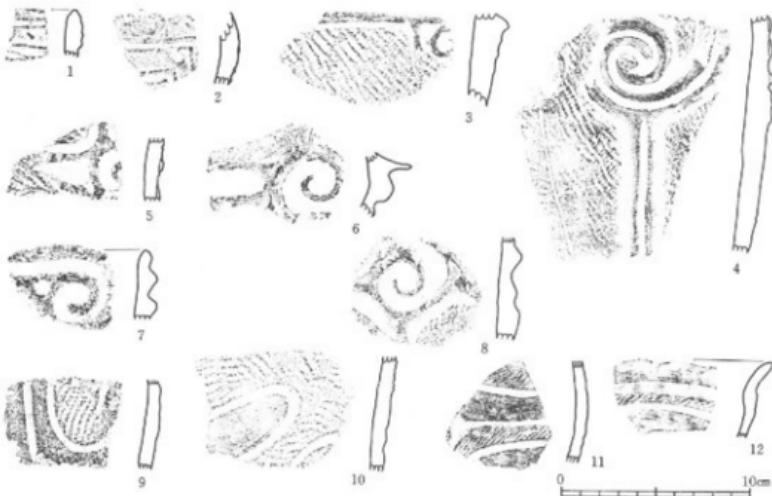
番号	地区・層位	所 在	分類	文 標・地 文	番号	地区・層位	所 在	分類	文 標・地 文	番号	地区・層位	所 在	分類
1.	第一土区	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	24.	第一土区	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	41.	下层	砂礫	山形工具による圓錐凹輪
2.	V一西区	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	44.	下层	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	14.	中层	砂礫	山形地文
3.	第一土区	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	144.	下层	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	78.	上层	砂礫	平行地文
4.	V一西区	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	76.	下层	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	158.	中层	砂礫	平行刃刮削器地文
5.	V一西区	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	171.	下层	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	123.	中层	砂礫	平行地文
6.	第一土区	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	130.	下层	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	43.	上层	砂礫	平行地文
7.	第一土区	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	129.	下层	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	145.	中层	砂礫	平行地文
8.	V区	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	15.	下层	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	23.	中层	砂礫	平行地文
9.	V一V区	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	130.	下层	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	26.	中层	砂礫	平行地文
10.	IV一V区	砂礫	V1-4層	山形刃刮削器・平行刃擦	32.	20-35.	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	223.	21-19.	砂礫	平行刃刮削器地文
11.	IV一V区	砂礫	V1-3層	平行刃刮削器地文	329.	20-35.	砂礫	V面	平行刃刮削器地文	102.	21-11.	砂礫	平行刃刮削器地文
12.	V一西区	砂礫	V1-4層	平行刃刮削器地文	49.	20-37.	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	63.	23-13.	砂礫	平行刃刮削器地文
13.	IV一北区	砂礫	V1-3層	平行刃刮削器地文	4.	20-39.	砂礫	V1-1層	平行刃刮削器地文	34.	23-13.	砂礫	平行刃刮削器地文
14.	砂砾	砂砾	V1-4層	山形小孔・平行刃刮削器地文	223.	20-30.	砂砾	V面	平行刃刮削器地文				

第20図 出土遺物・土器 06



番号	地区・部位	層位	分類	文様・地文	直径	厚さ	形状	底付	層位	分類	文様・地文	直径	厚さ	形状	底付
1	V-西区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文・繩文	31.45	3.1-4.4	31	V-1-E 床部	IV-3Ab層	平行地縞文・斜状地縞文	47.1	21-27				
2	三-北区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文	31.6	2.0-3.5	35	III-C区 床部	II-3層	平行地縞文	29	21-28				
3	V-西区 床部	V-1-a層	平行地縞文	16.8	2.2-1.6	34	IV-1-L区 床部		平行によじ縞文	118	31-35				
4	V-西区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文	9.45	2.2-1.7	37	III-Dト区 口縛柱	IV-41層	平行地縞文・斜状地縞文	199	31-35				
5	V-西区 床部	V-1-a層	平行地縞文・繩文	16	2.2-1.8	38	V-1-E区 床部	VI-1層	平行地縞文・平行地縞文・平行地縞文・平行地縞文	106	21-31				
6	四-フ区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文	15.9	2.2-1.9	39	III-B区 床部		丸穴	168	21-32				
7	油-10区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文	31	2.2-2.9	38	V-1-E区 床部		平行地縞文	179	21-33				
8	油-10区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文	36	2.2-3.1	31	III-B区 床部		平行地縞文	224	21-34				
9	油-1区 床部	IV-3Ab層	斜状地縞文	15.7	2.2-2.2	33	III-C区 口縛柱	IV-1-L層	平行地縞文	79	21-35				
10	V-西区 床部	V-1-a層	平行地縞文	29	2.2-2.3	23	III-D区 床部		平行地縞文	188	21-36				
11	V-1-E区 床部	V-1-a層	斜状地縞文	13.2	2.2-2.4	24	IV-1-L区 床部	I-4層	S字状地縞文	173	21-32				
12	油-1-E区 床部	V-1-a層	平行地縞文	336	2.2-2.5	25	V-1-E区 床部		斜状地縞文	76	22-1				
13	四-フ区 床部	V-1-a層	平行地縞文・斜状地縞文	11.7	2.2-2.6	36	V-1-E区 床部		平行地縞文・斜状地縞文	120	22-2				

第21図 出土遺物・土器 (II)



番号	地點・開拓	部	位	分	類	文	様	考	器	番号	地點	部	位	分	類	文	様	考	器	番号
1	三一A区	口縁部	第一側		板状	網	文	22	22-3	7	底部	縫合部	第二側	12-1側	縫合部(周)改葉文	22-9				
2	V-E区	底部	第一-1側		板状	網	文	106	22-4	8	底部	縫合部	第二-2側	縫合部(周)改葉文	22-10					
3	底部	底部	第一-2側		板状	網	文	22-5	9	底部	縫合部	第二-2側	改葉(周)改葉文	22-11						
4	底部	底部	第一-2側		板状	網	文	22-7	10	底部	縫合部	第二-2側	改葉(周)改葉文	22-12						
5	底部	底部	第一-2側		板状	網	文	22-6	11	底部	縫合部	第二-2側	改葉(周)改葉文	22-13						
6	底部	底部	第一-2側		板状	網	文	22-8	12	底一部	縫合部	第二-2側	改葉(周)改葉文	22-14						

第222図 出土遺物・土器 (8)

第4類 (第23図-1~11)

底部資料を本類としている。1~11は網代底となるもので、12・13は木葉底のものである。このうち、7・11・13は粘土紐接合面での剥落となっている。

②土製品

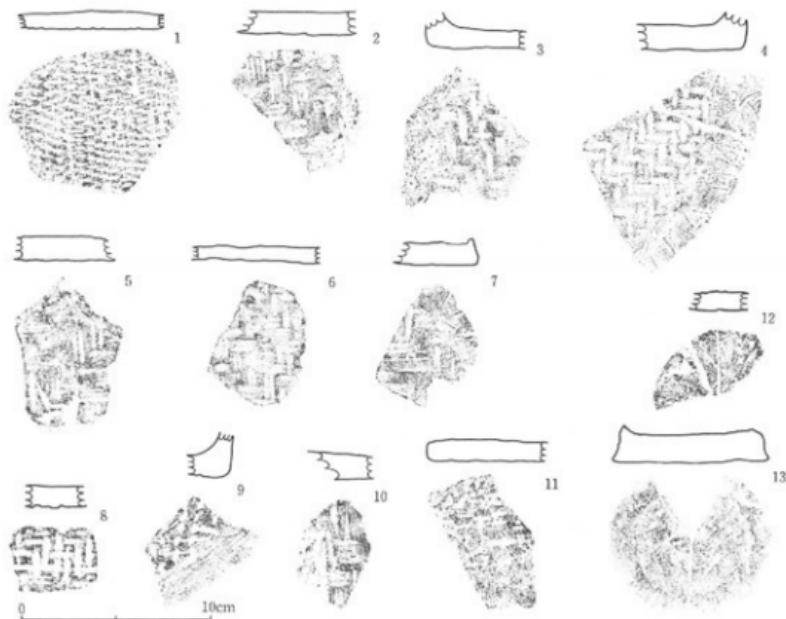
土偶 (第25図)

土偶は3点出土している。全て板状の土偶で、完形品はなくいずれも胸部の破片と思われる。1~3はともに表面と背面の両面に施文されており、いずれも沈線によって区画された中に斜め方向からの細かな連続刺突が充填されている。このうち2には、正中線と思われる沈線文の表現が見られる。

全体の形状ははっきりしないが、所属する時期については土器と同様に、大木4~5式期のものと思われる。一般にこの時期の土偶については、形態は扁平で山形または逆台形状になり、顔の表現はされず、腕が左右に短く伸び、胸部の表現は円形の凹みとなるものが多いとされている。施文方法については沈線や刺突が中心となっている。

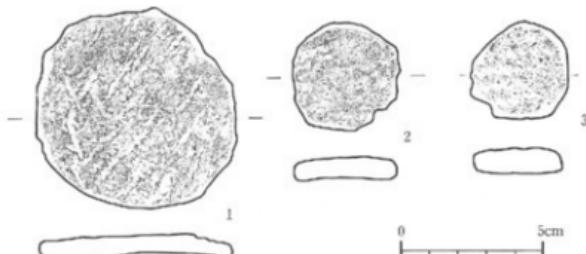
4は、あるいは土偶の脚部とも思われるもので、円柱状を呈し、文様はつけられていない。

長さ24.5mm、幅25.6mm、重さ17.8gを計る。



番号	出所・調査	部位	分類	文・様・地・文	登錄番号	写真登録番号	番号	出所・調査	部位	分類	文・様・地・文	登錄番号	写真登録番号
1	鉢	底部	縦目江模		27-15	5	II-1次区	底部	縦目江模	縦目江模	4	22	
2	皿-D区	底部	縦目江模		203	22-16	9	III-6区	底部	縦目江模	縦目江模	236	22-23
3	V-中央区	底部	縦目江模		81	22-17	10	II-7区	底部	縦目江模	縦目江模	117	22-24
4	皿-E区	底部	縦目江模		159	22-18	11	V-中央区	底部	縦目江模	縦目江模	49	22-25
5	V-西区	底部	縦目江模		9	22-19	12	V-西区	底部	木目模	木目模	44	22-26
6	V-E区	底部	縦目江模		245	22-20	13	III-1区	底部	木目模	木目模	129	22-27
7	皿-D区	底部	縦目江模		35	22-21							

第23図 出土遺物・土器 19



第24図 円盤状土製品



番号	地区・施主	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	登錄番号	保管番号	番号	地区・施主	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	登錄番号	
24-1	田代・3層下	73.4	29.0	7.5	48.7	縫織文	156	16-4	25-1	V区E6-10.通	47.2	33.2	74.4	48.4	洗織文・織文	71	16-1
24-2	田代・3-4層	37.5	28.5	7.7	33.0	織文(小網)・洗文	229	16-5	25-2	田代-A6-1.2.3	33.0	38.5	49.4	49.4	洗織文・織文		16-2
24-3	V区中段-13層	35.0	23.0	9.2	32.6	織文(RL)	87	16-6	25-3	V区D6-10.	48.0	32.8	29.5	32.8	洗織文・織文	106	16-2

第25図 土偶・土製品

円盤状土製品（第24図）

円盤状土製品は3点出土している。第24図-1は、上下73.4mm、左右70.0mm、最大厚7.5mm、2は、上下37.5mm、左右38.5mm、最大厚7.7mm、3は、上下35.0mm、左右33.0mm、最大厚9.2mmを計る。いずれも土器片の周囲を打ち欠いて製作されている。重さについては、1は48.7g、2は13.0g、3は12.6gである。

(2)石器・石製品

今回北原街道B遺跡から出土した石器はほとんどが包含層中からの出土であり、そのうちの半数以上を石鏃がしめている。これらの石器は共伴する土器から、縄文時代前期後半のものと考えられる。石器の器種名について、定型的な石器の器種名については從来つけられている名稱によった。不定形な石器については「不定形石器」とし、形態・技術的特徴等からさらに分類している。

出土した石器の総点数は615点で、剝片石器555点・礫石器36点・磨製石斧10点・石製品11点・甲状耳飾3点となっている。剝片石器総数での各石器ごとの点数と比率は、石鏃321点(58%)・尖頭器28点(5%)・石匙26点(5%)・石錐31点(6%)・石鑿25点(5%)・スクレイバー10点(2%)・不定形石器114点(21%)となっている。石器の実測にあたっては可能なかぎり努力したが、図化数量は器種別数量・出土状況などを勘案し決定した。石器の器種別数量及び図化数量は第3表のとおりである。

第3表 石器の器種別数量及び図化数量

器種名 器種別名	万葉4号 西日本		Ab原 西日本		Ac原 生主		Ad原 者主		E原4号 西日本		大隈原奈良 三輪原奈良		C1原 二輪原奈良		C2原 二輪原奈良		C3原 二輪原奈良		D1原 千葉原		D2原 千葉原		D3原 千葉原	
	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%
丸 鏃 器	75	3%	3	0%	16	2%	2	0%	9	1%	7	1%	4	0%	10	2%	8	3%	3	2%	22	18%	8	16%
次 鏃 器	75	4%	4	1%	15	0%	0	0%	27	1%	18	4%	1	0%	8	0%	7	2%	6	3%	3	2%	2	0%
合 计	103	100%	103	100%	7	10%	3	10%	32	28%	28	23%	5	10%	10	12%	12	11%	3	3%	25	24%	10	23%
米 鍬 器	30	31%	2	7%	1	0%	0	0%	12	6%	8	2%	2	0%	5	4%	4	3%	6	1%	20	9%	0	0%
合 化 4(%)	28%	27%	28%	22%	50%	4%	42%	50%	45%	45%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%
器種別名	1986年6月	GJ原	GC原	GD原	GP原	石原	石原	石原	石原	石原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原	大隈原
次 鏃 器	32	38%	30	10%	17	5%	1	1%	1	1%	3	3%	6	2%	6	2%	2	3%	3	3%	0	0%	1	3%
火 箭 器	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合 計	32	100%	30	39%	18	12%	12	5%	11	3%	10	24%	10	24%	8	2%	2	4%	4	0%	0	0%	1	3%
米 鍬 器	3	7%	10	26%	6	18%	2	5%	11	31%	3	8%	8	22%	8	22%	0	0%	0	0%	0	0%	4	11%
合 化 4(%)	1%	42%	36%	26%	35%	35%	6%	18%	36%	36%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%	35%
器種別名	6類	77類	小笠原6類																					
次 鏃 器	113	21	114																					
火 箭 器	200	5																						
合 計	321	28	114																					
米 鍬 器	77	13	29		165	36	10	11	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 化 4(%)	22%	20%	25%																					

出土石器の分類

剝片石器

①石鏃 A類（第27図-1～第30図-1～15・18）

石器としたものは尖頭部をもち、先端部が薄く扁平な石器で、平面形は基本的に二等辺三角形を呈するものである。総数で321点出土しており、出土した石器のなかで約60%をしめている。完形品が121点・欠損品が200点となっている。これらについて、基部形態から6類に分類している。

Aa類 基部が凹状のもの。いわゆる凹基無茎鐵で、基部中央部の抉りの深いもの。

Ab類 基部が凹状のもの。いわゆる凹基無茎鐵で、基部中央部の抉りの浅いもの。

(第27図-1～第30図-5)

Ac類 基部を丸くふくらませるもの。いわゆる円基無茎鐵である。(第30図-14・15)

Ad類 基部が平坦となるもの。いわゆる平基無茎鐵である。(第30図-6・8～13)

Ae類 基部が突出し(凸基)茎部が作り出されたれもの。いわゆる有茎鐵である。

(第30図-18)

Af類 欠損により器種が不明なもの。

各類型の点数は、Aa類103点・Ab類141点・Ac類7点・Ad類31点・Ae類2点・Af類37点である。

さらにAa類・Ab類の凹基無茎鐵については、尖頭部・側縁形態等からさらに7類型に細別している。

1類 側縁部が内湾するもの(第27図-1～5、第28図-16～18、第29図-2・9・10・14・16・17、第30図-7)。

2類 側縁部が直線的か、あるいは外湾するもの(第27図-6～10、第28図-10・12・19、第29図-6・7・11～13・18、第30図-1・2)。

3類 基部の抉りがとくに深くはいり、比較的巾の広いもの(第27図-11～15)。

4類 側縁部が尖部から内湾して基部にむかって外湾するもの(第27図-16～18、第28図-1・2・11、第29図-16、第30図-3～5)。

5類 側縁部が直線的か、あるいは外湾し尖部が細く尖るもの(第28図-3～6・9)。

6類 大型で鐵身が幅広のもの(第28図-7・8、第29図-5)。

7類 大型で鐵身が細身のもの(第28図-13～15)。

これらAa類・Ab類とした凹基無茎鐵244点のうち、完形品または形態のわかる128点について類型別にみると、Aa 1類9点・Ab 1類27点(1類28%)、Aa 2類12点・Ab 2類44点(2類44%)、Aa 3類5点(3類4%)、Aa 4類8点・Ab 4類5点(4類10%)、Aa 5類6点・Ab 5類3点(5類7%)、Aa 6類2点・Ab 6類1点(6類2%)、Aa 7類1点、Ab 7類5点(7類5%)となる。

第28図-6・9は、表裏両面ともに丁寧な二次加工によって尖部がとくに細く作り出されて

いる。第29図-5は、比較的厚手のもので表裏両面ともに基部と側辺に簡単な二次加工が施されている。第30図-4は、表裏両面とともに基部と側辺に簡単な二次加工が施され、尖部は尖らずに突起状になっている。上下を逆にみれば雁股状の鎌にも似ている。第30図-5は、尖部から基部にかけて強く屈曲し、基部の部分が有段となっている。第30図-6・7は比較的大きなもので、6の基部はわずかに凹みを帯びており、形態的には7類に近い。7の尖部は丸みを帯びたものになっている。

②尖頭器 B類 (第30図-16・17・19・20、第31図-1~8)

石鎌に比べて大型で厚みのあるものを尖頭器とした。総数で28点出土しており、出土した石器のなかで5%をしめている。完形品が10点・欠損品が18点となっている。

これらについて、欠損品が多いものの形態や大きさなどから4類に分類している。

1類 柳葉形状で基部につまみがつくもの (第31図-8)。

2類 三角形状を呈するもの (第30図-16・17・19・20)。

3類 柳葉形状で基部につまみがつかないもの (第31図-1・2・3・5~7)。

4類 側縁が屈曲し有段になるもの (第31図-4)。

各類型の点数は、1類3点・2類11点・3類11点・4類2点・不明1点である。

第30図-17は、基部に浅い抉りが入っているもので、石鎌7類に近い形態をもっている。第31図-6~8は、錐として使われた可能性のあるもので、6の尖部にははっきりした磨痕がみられる。7・8は、基部や尖部を欠いているが、第34図-7の石錐2類のようなものとも考えられる。第30図-19・20は共に比較的厚手のもので、20は表裏両面ともに粗い二次加工が施されており、不定形石器 GB類に分類すべきものかもしれない。

③石匙C類 (第32図-1~第33図-7)

両側辺から抉りを入れることにより作り出されたつまみ部を有し、刃部と判断できる縁辺をもつ石器を石匙とした。総数で26点出土しており、出土した石器のなかで5%をしめている。

完形品が21点・欠損品が5点となっている。刃部の形態などから3類に分類している。

1類 刃部の構成が三側縁構成のもの (第32図-6、第33図-1~3・5・6)。

2類 横に長い刃部がつくもの (第33図-4・7)。

3類 刃部の構成が二側縁構成のもの (第32図-1~5・7)。

これらについて、つまみ部に対する刃部の形状・角度に違いがみられ、刃部の位置でみると縦に長い刃部がつくるいわゆる縦型のもの (1・3類) と、横に長い刃部がつくるいわゆる横型のもの (2類) に大別される。各類型の点数は、1類11点・2類5点・3類10点である。

第32図-1・2は、両側辺のうちの片方が直線的なにたいして、もう一側辺がゆるく弧状に張りだし先端が尖るもので、全体の形状は半月状を呈している。第33図-2は、両側辺のう

ちの片方が直線的なのにたいして、もう一側が外側に張り出して角ばっているものである。第33図-4は、両側辺のうちの片方に自然面を残し、もう一側辺は弧状に張り出している。第33図-5・6は、粗い二次加工によって整形されている。

④石錐D類 (第33図-8～第34図-11)

いわゆるドリルで、尖頭部をもち、その回転運動によって穿孔などの作業に使われたと考えられる石器である。総数で28点出土しており、出土した石器のなかで約5%をしめている。完形品が13点・欠損品が15点となっている。これらについて全体の形状が想定される27点について、形態などから3類に分類している。

1類 つまみ部をもつその一端に尖頭部(錐部)が作り出されたもの(第33図-8、第34図-1・2・4)。

2類 岬端が尖り全体形が棒状を呈するもの(第34図-6～11)。

3類 つまみ部と錐部の境が明確でないもの。形態的に逆二等辺三角形または不定形を呈する(第34図-5)。

各類型の点数は、1類13点、2類11点・3類3点である。このうち2類とした棒状の形態のものの尖部に、はっきりとした磨痕のあるものが多い。

⑤石籠E類 (第35図-1～第37図-1・4・7)

籠状石器とも呼ばれるほぼ左右対称の長方形状の石器で、両側縁が基部側から刃部にむかって開いたいわゆる撥形を呈するものが多い。最大幅は刃部付近にある。二次加工は全面に施されるものと裏面には周辺にだけ施されるものがある。裏面は平坦なものが多く、横断面はかまぼこ型を呈し厚みのある石器である。総数で25点出土しており、出土した石器のなかで約5%をしめている。完形品が22点・欠損品が3点となっている。これらについて全体の形状などから次の4類に分類できた。

1類 側辺が直線的で、刃部に向かってわずかに開く細長い形のもの(第35図-6、第36図-2・3)。

2類 側辺が外湾しながら開き、橢円形を呈するもの(第35図-2・4・5・7、第36図-4・5・7)。

3類 基部が尖り氣味になり、刃部に向かって側辺が直線的もしくは内湾氣味に開き撥状を呈するもの(第35図-1・3、第36図-1・6)。

4類 側辺が弧状に張り出しているもの(第37図-1・7)。

第36図-3・5・7は、一部に自然面の残る剝片を素材としている。第37図-4は、基部を欠いているが、表裏ともに粗い大きな二次加工品が施されており、側辺の一部に自然面が残っている。形態的には尖頭器に近い形を呈している。

⑥スクレイバーF類（第37図-2・3・5・6、第38図-1～第39図-3）

スクレイバー・エッジを有する石器。総数で10点出土しており、出土した石器のなかで約2%をしめている。これらについて全体の形状などから次の3類に分類され、さらに刃部加工から、
a類：片刃・b類：両刃の2類に細別された。

1類 長軸に対して平行な刃部が作られるもの。いわゆるサイドスクレイバーである。

a類：第38図-3・5 b類：第37図-6、第38図-1・2

2類 長軸に対して直行する刃部が作られるもの。いわゆるエンドスクレイバーである。

a類：第39図-2・3

3類 長軸に対して斜行する刃部が作られるもの。

a類：第38図-4 b類：第37図-2・3

第38図-1は、側辺の形状が緩やかな弧状を呈しており、表裏全面に丁寧な二次加工が施されている。第39図-1は、欠損品であるが厚手の素材をもちいた大型のもので、表裏全面に比較的粗い大きな二次加工が施されている。

⑦不定形石器G類（第40図-1～第44図-2）

剝片を素材とした、二次加工や使用痕跡のみられる石器で、定形石器の分類に含まれないものを不定形石器として一括した。総数で114点出土しており、出土した石器の中で21%をしめている。これらについて、二次加工の状況や平面形態などからIII群-5類に分類された。

(I群) 二次加工が全周におよび素材の形態を大きく変化させ、刃部以外にも一定の形態的なまとまりを指向する石器で、GA類・GB類の2類に分類された。

GA類（第40図-1～3）

片面または両面の全面に二次加工が施されるもので、折断面をもち定形石器の欠損品の可能性もあるもの。

GB類（第40図-4～10）

片面または両面の全面に二次加工が施されるもの。

GA・GB類ともに平面形態によってさらに3類型に細別される。

1類 楕円形を呈するもの（第40図-1・5・8・9）。

2類 三角形を呈するもの（第40図-3・4・7・10）。

3類 台形または方形を呈するもの（第40図-6）。

(II群) 素材の形態をあまり変化させずに、部分的な二次加工によって刃部を作り出す石器で、GC類・GD類の2類に分類された。

GC類（第40図-11・第41図-1～6・第42図-1・第43図-1・第44図-2）

刃部加工のための二次調整が部分的に施されるもの。刃部の形態から2類型に細分される。

1類 素材の先端に加工がなく、長軸の1～2側辺に加工が集中するもの。いわゆる「サイドスクレイパー」である（第41図-2・4・5・第42図-1）。

2類 長軸に対して直行する刃部が形成されるもの（第40図-11・第41図-1・3・6・7・第43図-1・第44図-2）。

GD類（第43図-2・5）

比較的大まかな二次加工によって、不整または粗雑な刃部加工が施されるもの。

第43図-2は折断調整石器の可能性があるので、剥片の2側辺を折断し台形に加工され残された縁辺に二次加工が施されている。

〔III群〕 明確な刃部加工は施されず、使用の結果と考えられる微細剝離痕のみとめられる石器。

GE類（第42図-2～4・第43図-3・4・第44図-1）

微細剝離のあるもので二次加工がほとんどみられないもの。

⑧石核（第44図-3・第45図-1）

石核としたものは、剥片剝離作業の行われた残核である。総数で5点出土している。これらについて打面転移の状態によって分類をおこなった。

1類 打面を転移せず、ひとつの打面から連続的に剥片を剝離をしているもの。

2類 打面を約180°の単位で転移し、剥片を剝離しているもの。

3類 打面を約90°の単位で上下・左右に転移し、剥片を剝離しているもの。

4類 石核の縁辺にそって打面を転移し、剥片を剝離しているもの。

礫石器

礫石器の分類は、石器の表面に残された磨面・凹み・敲打痕などの使用痕の観察によって行った。礫石器は総数で36点出土しており、出土した石器の中で6%をしめている。

①磨石

総数で24点出土しており、そのうち欠損品は8点である。これらについて、形態・大きさ・重量・使用痕跡の観察と計測を行い分類した。

〔使用痕跡〕 使用痕跡としてみられる磨面について観察すると、磨石にみられる磨面の位置から、a類～h類の8類に細分された。

a類 上面にあるもの（使用痕跡1面）。第48図-1・2・4～6 第52図-2

b類 上下面にあるもの（使用痕跡2面）。第50図-1～5

c類 片面と片側面にあるもの（使用痕跡2面）。第51図-1

d類 片側面にあるもの（使用痕跡1面）。第49図-1・3～6

e類 両側面にあるもの（使用痕跡2面）。第49図-2

f類 片面と両側面にあるもの（使用痕跡3面）。第52図-1

g類 上下両面と片側面にあるもの（使用痕跡3面）。第51図-2・3・5

h類 上下両面と両側面にあるもの（使用痕跡4面）。第51図-4・6

各類型ごとの点数は、a類6点・b類5点・c類1点・d類5点・e類1点・f類1点・g類3点・h類2点となっている。

第49図の磨石は、2が両側面に磨面をもつ以外はいずれも片側面のものであるが、そのなかで4・5は断面形が三角形の螺旋を素材とし、その稜線部分に磨痕が観察されるもので、いわゆる「特殊磨石」に類似している（八木 1977）。また、3・5の片面に比較的浅い凹みがみとめられるが、これについては敲打痕が部分的に集中した結果としてわずかに凹みを呈しているとも考えられる。

②凹 石

総数で8点出土しており、そのうち欠損品は2点である。これらについて、形態・大きさ・重量・使用痕跡の観察と計測を行った。

〔使用痕跡〕 使用痕跡としてみられる凹みについて観察すると、使用面にみられる凹みの位置から次のように分類される。

a類 上面に凹みがあるもの（使用痕跡1面）。第52図-4・第53図-1

b類 上下両面に凹みがあるもの（使用痕跡2面）。第53図-2～6

またそれぞれの使用面にみられる凹みの数は、(1)1個のもの、(2)2個のもの、(3)3個のもの、(4)3個以上の凹みが連続するものがある。凹みが連続するものについては、(a)縦方向に溝状に並ぶものと、(b)同心円状に丸く並ぶものがある。

第52図-4・第53図-1は、凹みが上面にあり、3個以上の凹みが同心円状に連続し円形を呈している。第51図-2～6は、上下両面とともに3個以上の凹みが溝状に並んでいる。3・5については、下面の凹みが1個ないし2個で浅い凹みとなっている。

凹みのなかには中心部が明確なV字状とならず、比較的浅い凹みのものがみとめられる。これらについては、敲打痕が部分的に集中した結果としてわずかに凹みを呈していると考えられ、敲凹として区別すべきものかもしれないが、通常の凹みとの区別が困難な場合もあり同一のものとして扱っている。

③磨凹石

総数で4点出土しており、そのうち欠損品は1点である。これらについて、形態・大きさ・重量・使用痕跡の観察と計測を行った。

〔使用痕跡〕 使用痕跡としてみられる凹みと磨面について観察すると、使用痕としての凹みと磨面の位置は次のようになる。

a類 上面に一緒にあるもの（使用痕跡同一面）第48図-3

b類 上下面にわかれるもの（使用痕跡別面）第52図-3・5

石製品

石製品は総数で14点出土している。

①块状耳飾（第26図-1～3）

3点出土しており、うち1点は完形品である。第26図-1は中央部で折れているが、平面形は長軸46mmのほぼ円形を呈し、中央孔は14mmでやや上辺によっている。断面形は扁平で厚さは7mmを計る。切れ目はそれぞれ両側から入れられている。石材は蛇紋岩の一種を用いており、色調は淡緑色で、平滑に研磨されており美麗である。2は半分欠損しているが、平面形は長軸46mmの円みを帯びた長方形を呈し、中央孔はやや上辺によっている。断面形は扁平で厚さは7mmを計る。切れ目は両側から擦切手法によって入れられた痕跡が残る。上部に直径7mmの補修孔がある。石材は蛇紋岩を用いており、色調は青黒色で一部オリーブ黄色、平滑に研磨されており美しい。3は全体の1/4程度しか残っていないが、平面形は円形を呈すると思われる。中央孔は大きめでやや上辺によっている。断面形は扁平で厚さは7.5mmを計る。上部に直径8mmの補修孔がある。石材は滑石を用いており、色調はオリーブ黄色で、平滑に研磨されており美しい。

②その他の石製品（第46図-1～9・第47図-7・8）

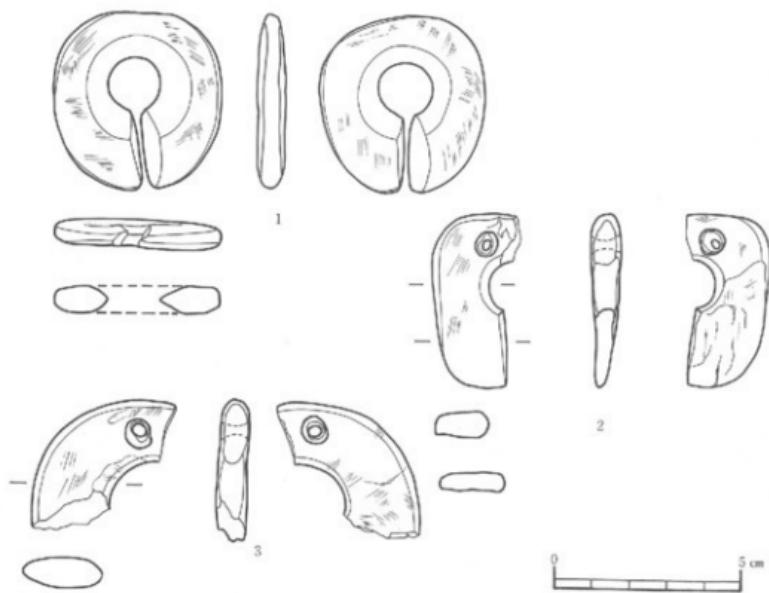
第46図-1は小型磨製石斧のような短筒型の形態を呈するもので、やや狭まった刃部をもつている。第46図-2・3は薄く扁平な断面形を呈し、表面に擦痕が観察されるものである。第46図-5は小型磨製石斧で刃部を欠いている。第46図-4・6～9は磨製石斧の剥落したものとも考えられるもので、平滑な表面に擦痕が観察される。第47図-7は扁平で隅丸方形状に加工されているが、文様がみられないことから岩版状石製品とした。石材は砂岩を用いており、表面は非常にもろくなっている。剥落した縞紋様がみられる。

磨製石斧（第47図-1～6）

総数で10点出土しているがそのうち8点は破損している。破損の位置は、基部付近が1点、刃部付近が5点である。また基部と刃部の2カ所破損しているものが2点あった。破損面は全体主面に対して90°近い角度で破損している。

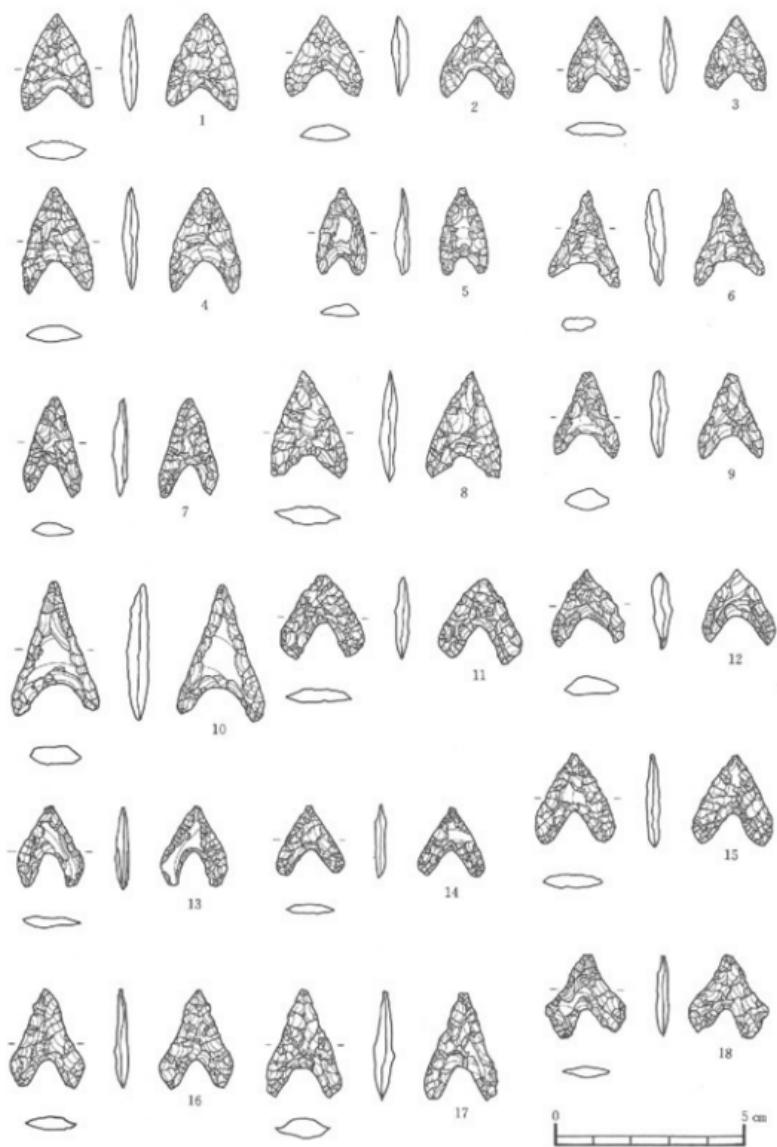
平面形は、頭部上半よりも下半のほうが幅広く最大幅が刃部付近にくるもので、頭部の形態は4以外は丸みをもち、頭部側縁との境が不明瞭になっている。頭部の横断面形は、1～4がふくらみをもつ長方形で隅が角ばるのに対して、5・6は楕円形を呈している。

3は基部を欠いているが丸みをもった刃縁をもち、刃部には刃こぼれと思われるような細かな剥離がみられる。3・4については表面が丁寧に研磨されて加工されている。

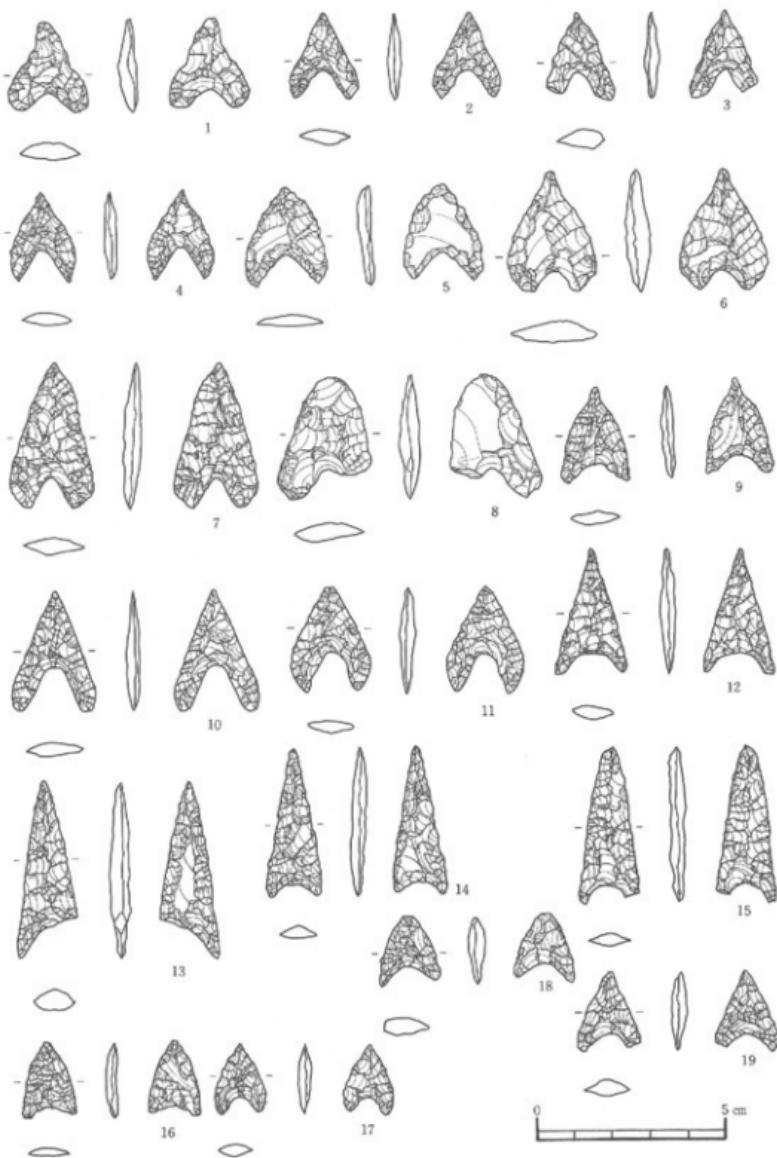


図版番号	地 区	層 位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 量 (g)	石 材	色 調	写 真 図 版番号
26-1	III-メ区 III-チ区	2層	46	44	7.0	21.6	蛇紋岩	淡緑色	写真 9
26-2	V-ヨ区	2層	46		7.0	10.8	蛇紋岩	青黒色	写真 9
26-3	IV-ヲ区	2層	43		7.5	12.8	滑石	オリーブ黄色	写真 9

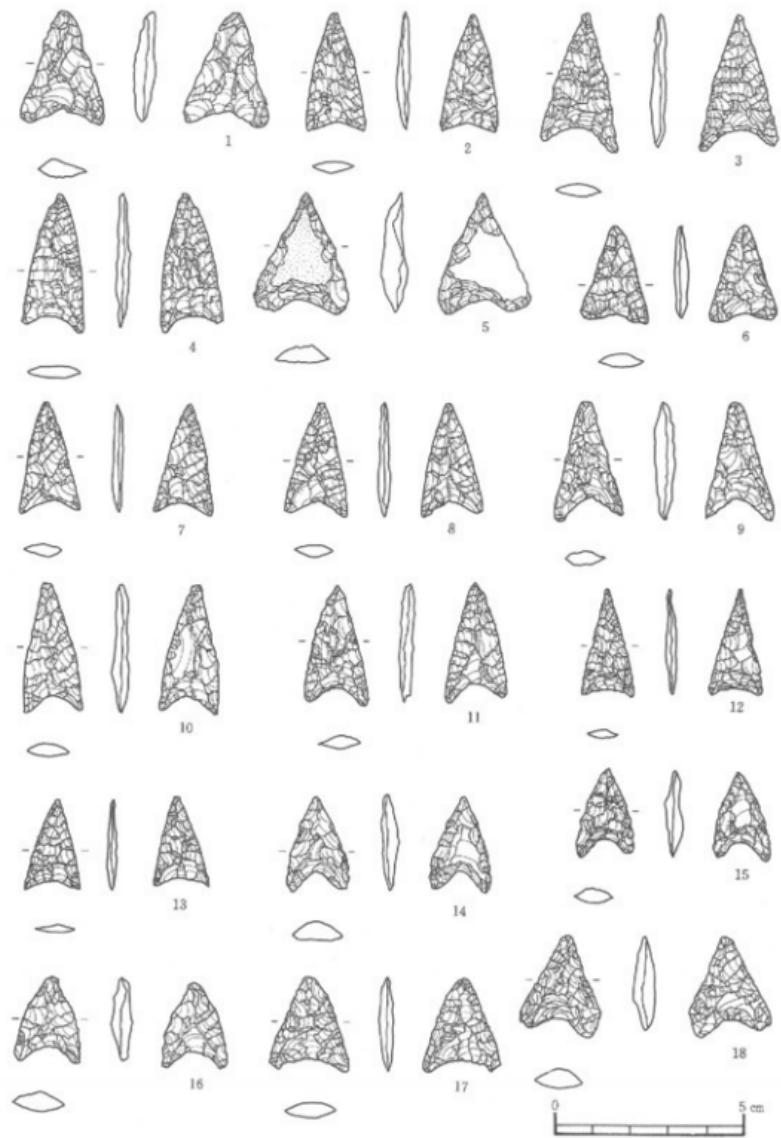
第26図 出土遺物・玦状耳飾



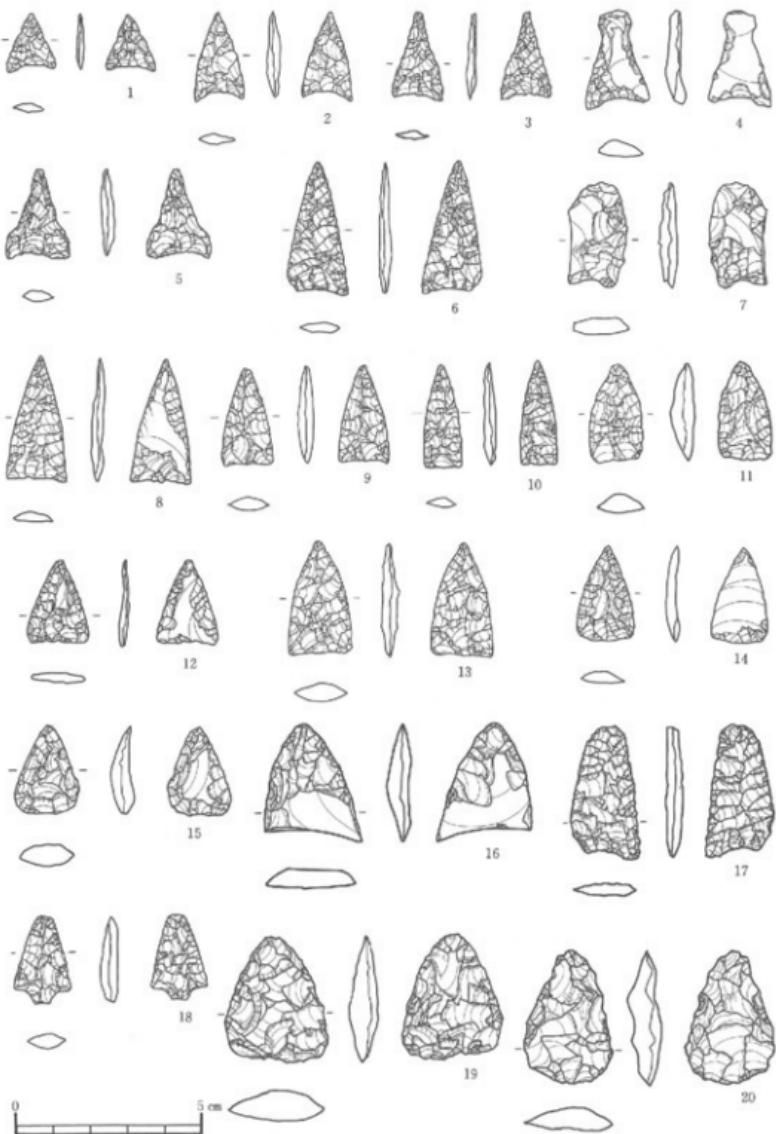
第27図 出土遺物・石器 (1)



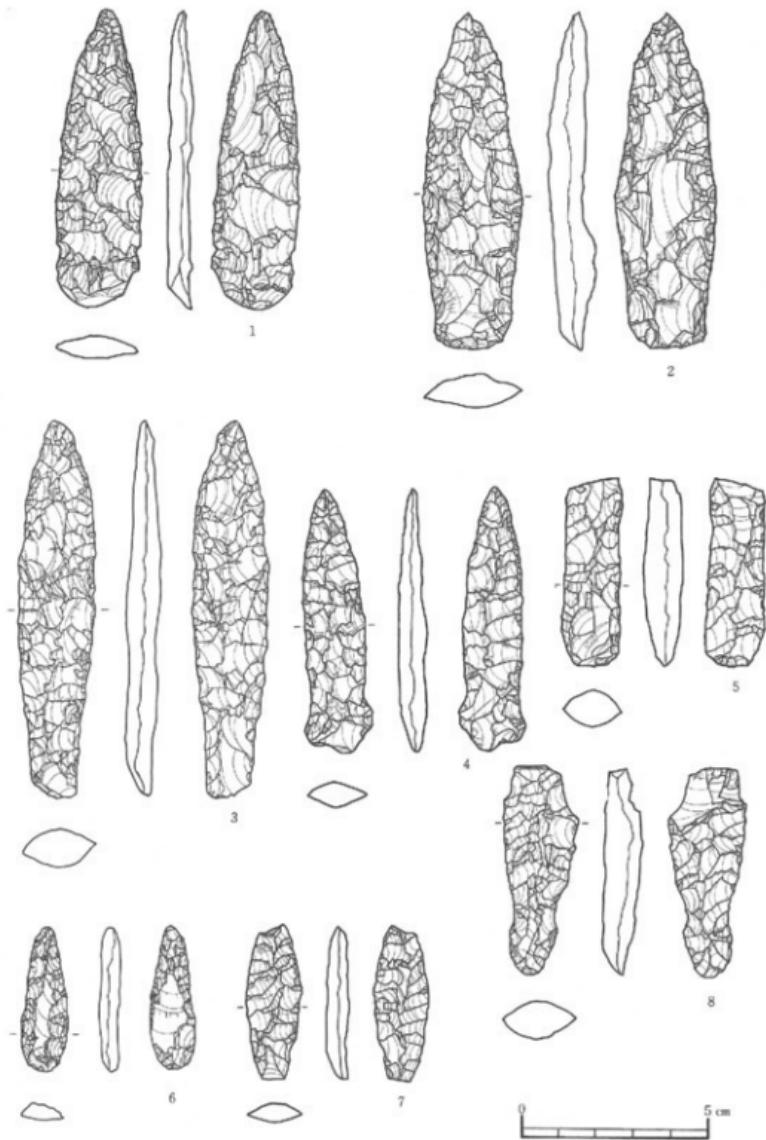
第28図 出土遺物・石器 (2)



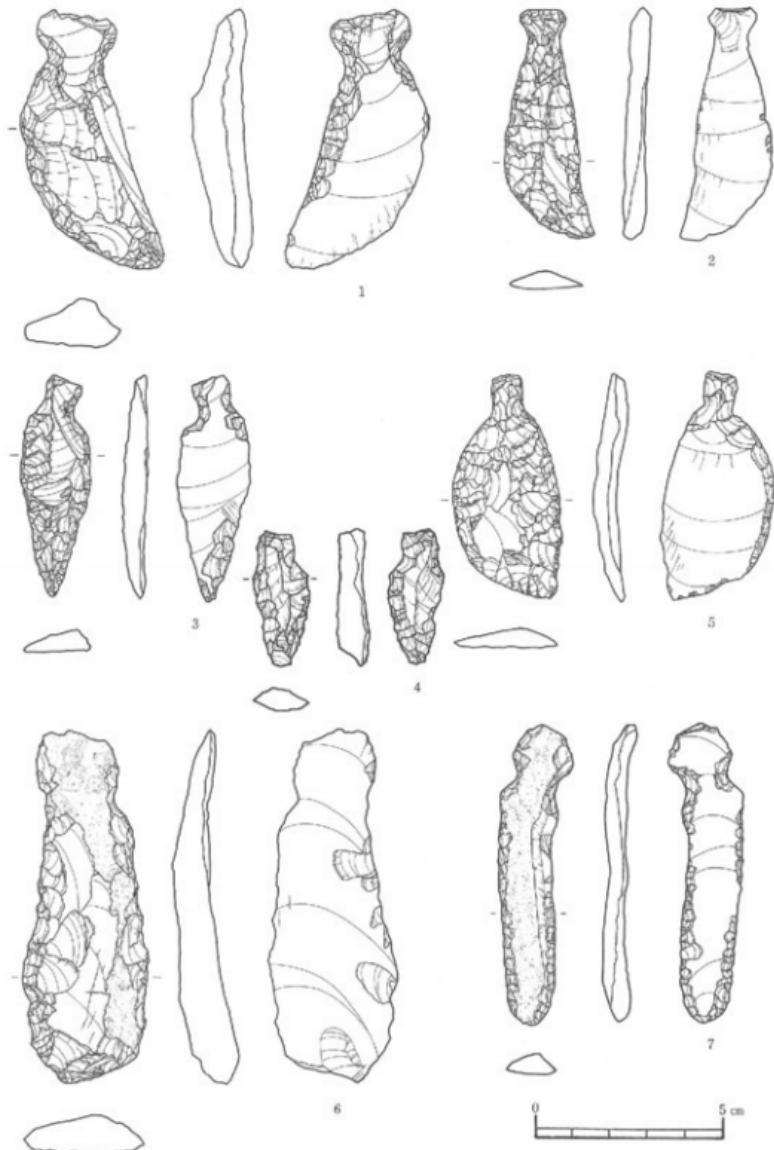
第29図 出土遺物・石器 (3)



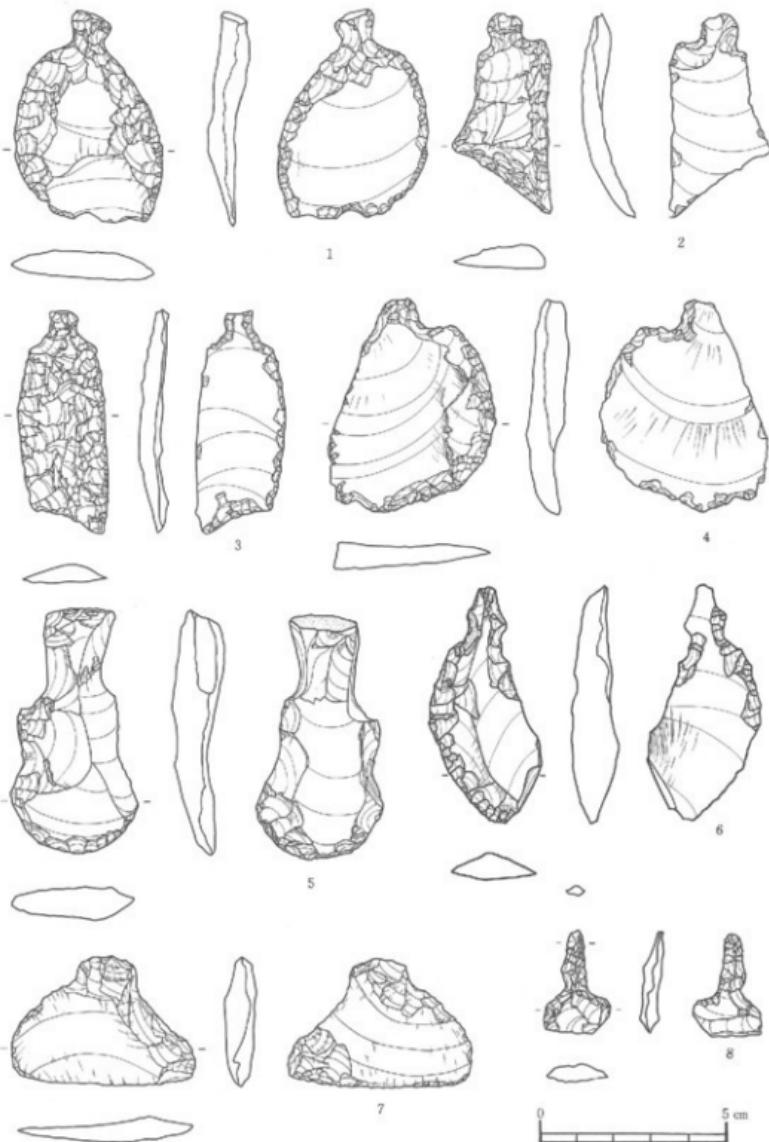
第30図 出土遺物・石器 (4)



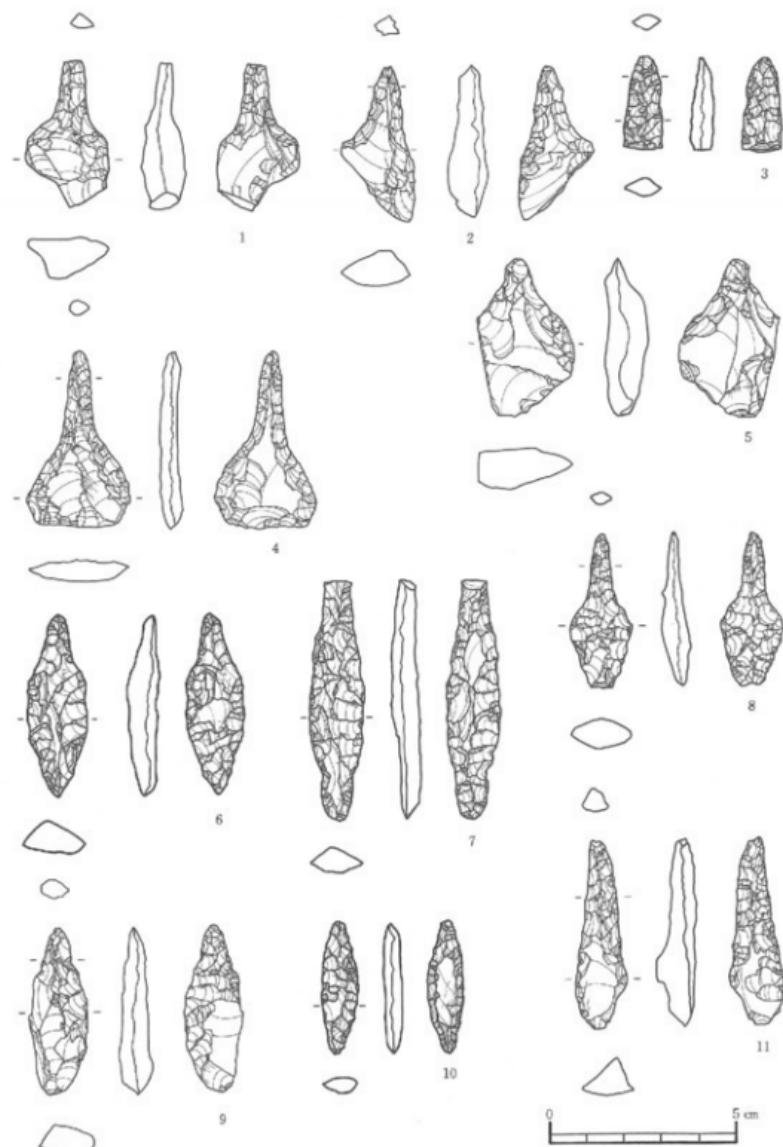
第31図 出土遺物・石器 (5)



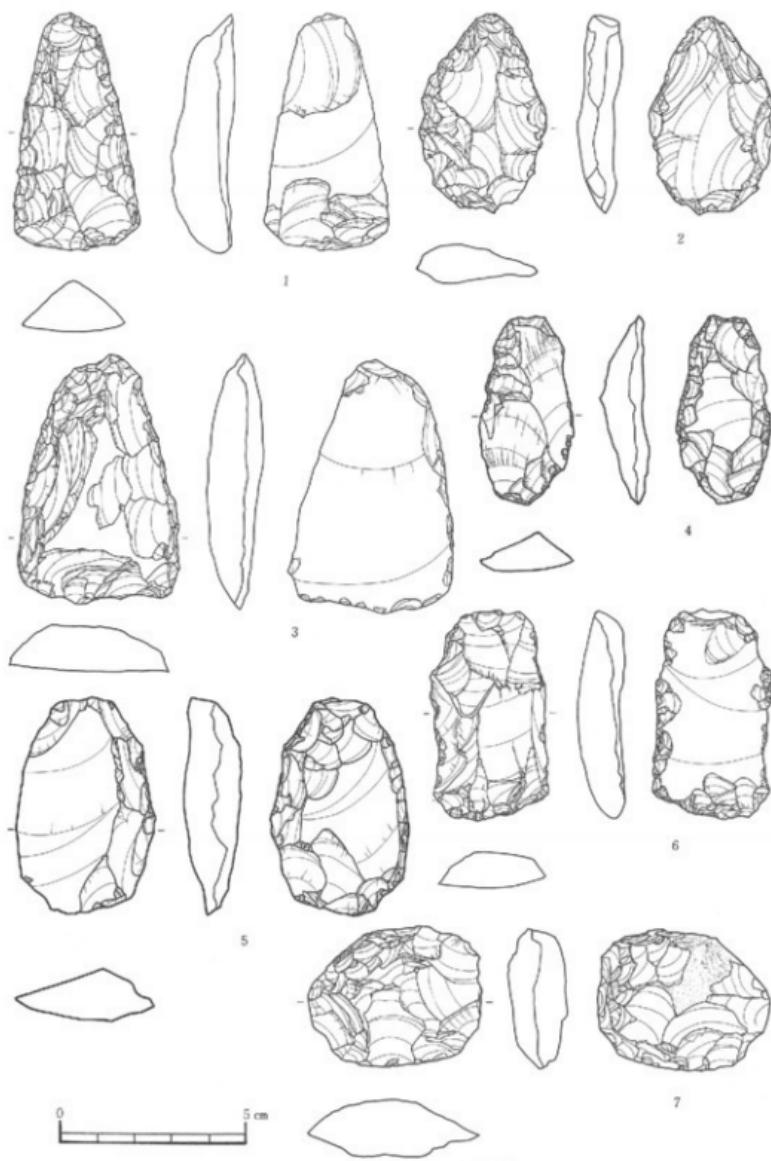
第32図 出土遺物・石器(6)



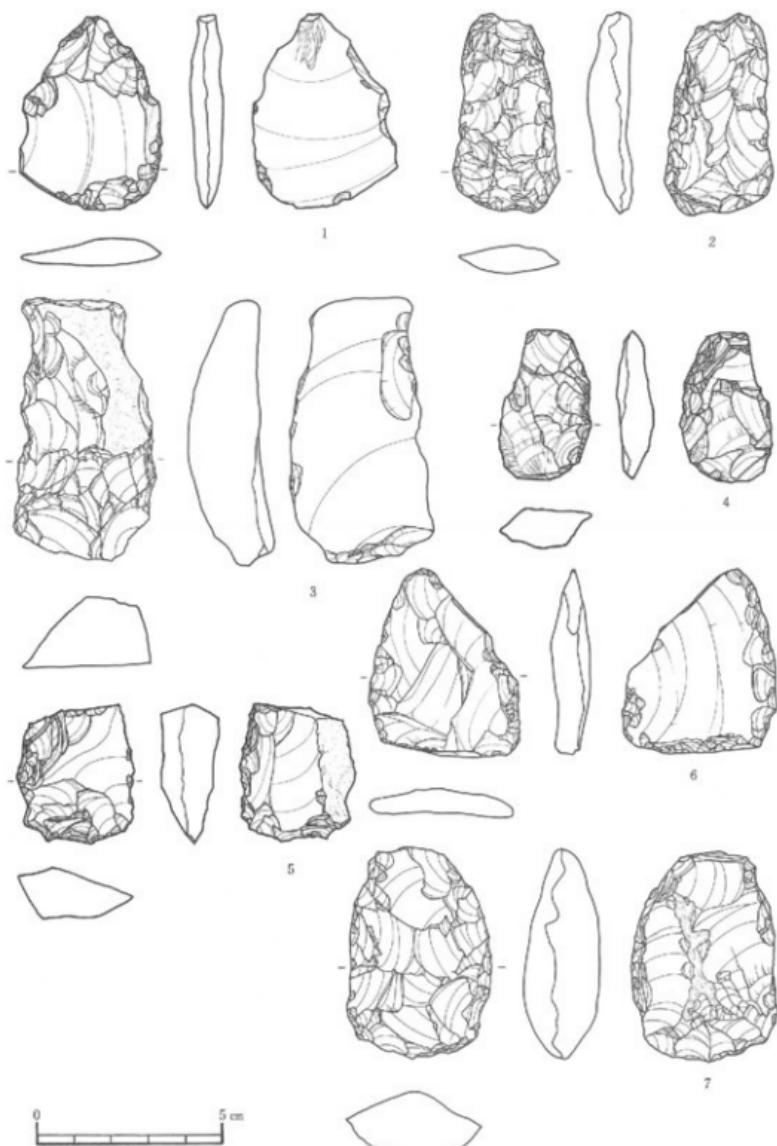
第33図 出土遺物・石器 (7)



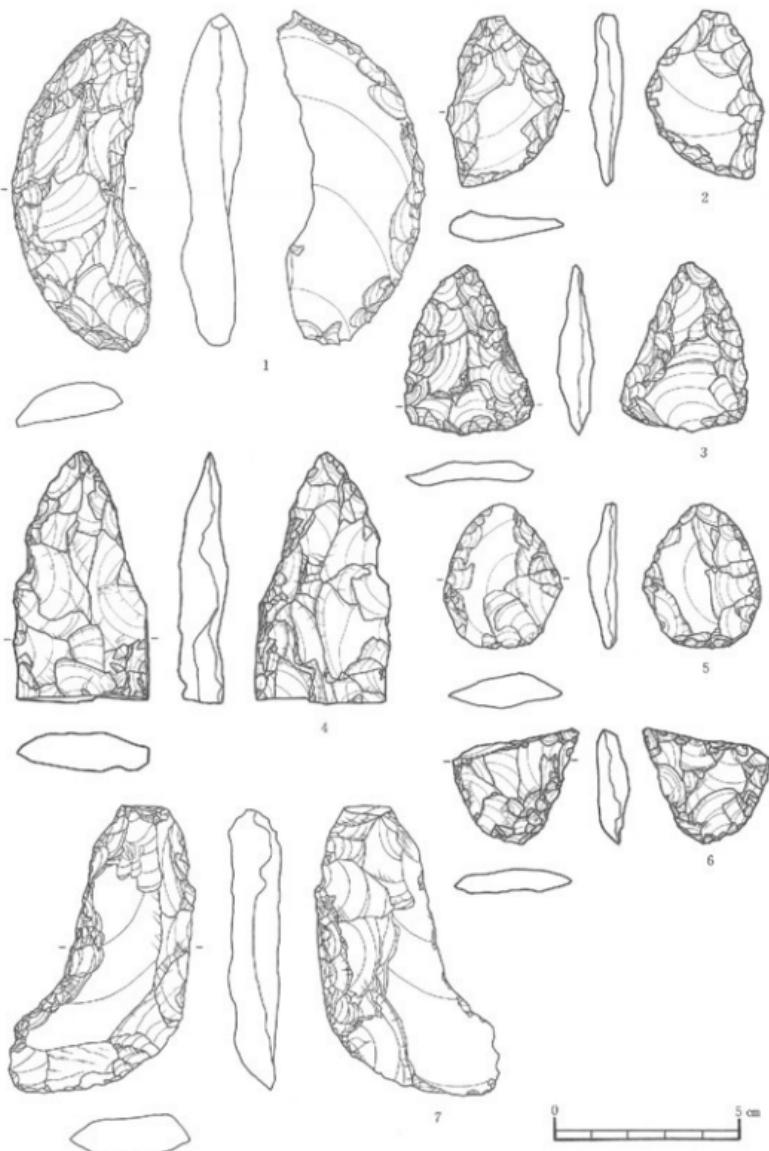
第34図 出土遺物・石器 (8)



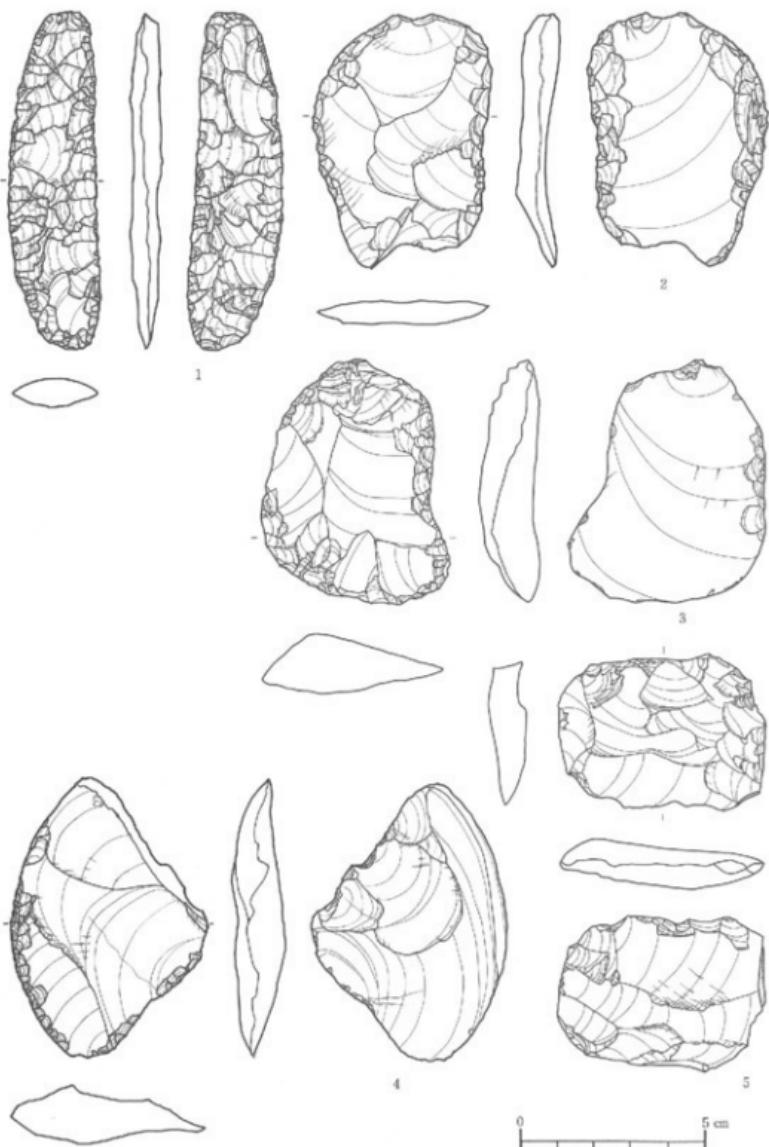
第35図 出土遺物・石器 (9)



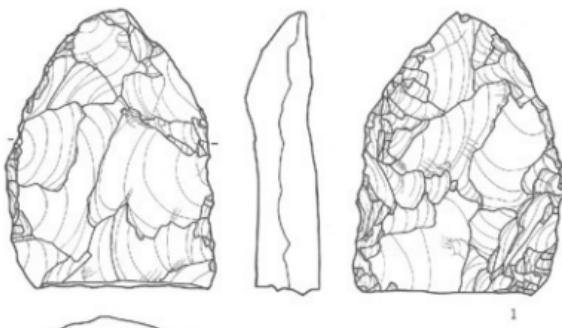
第36図 出土遺物・石器 (10)



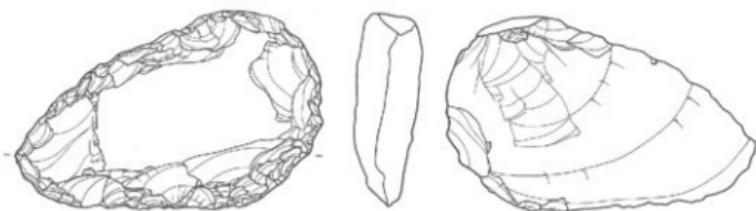
第37図 出土遺物・石器 (II)



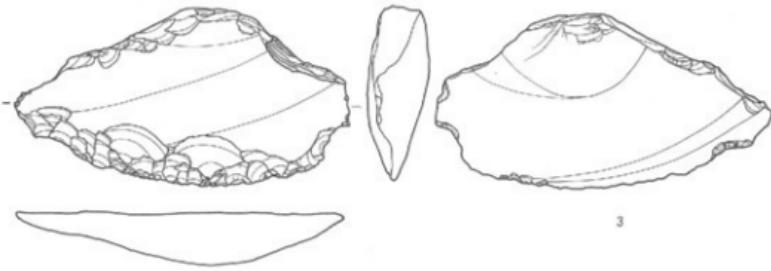
第38図 出土遺物・石器 (2)



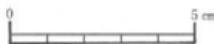
1



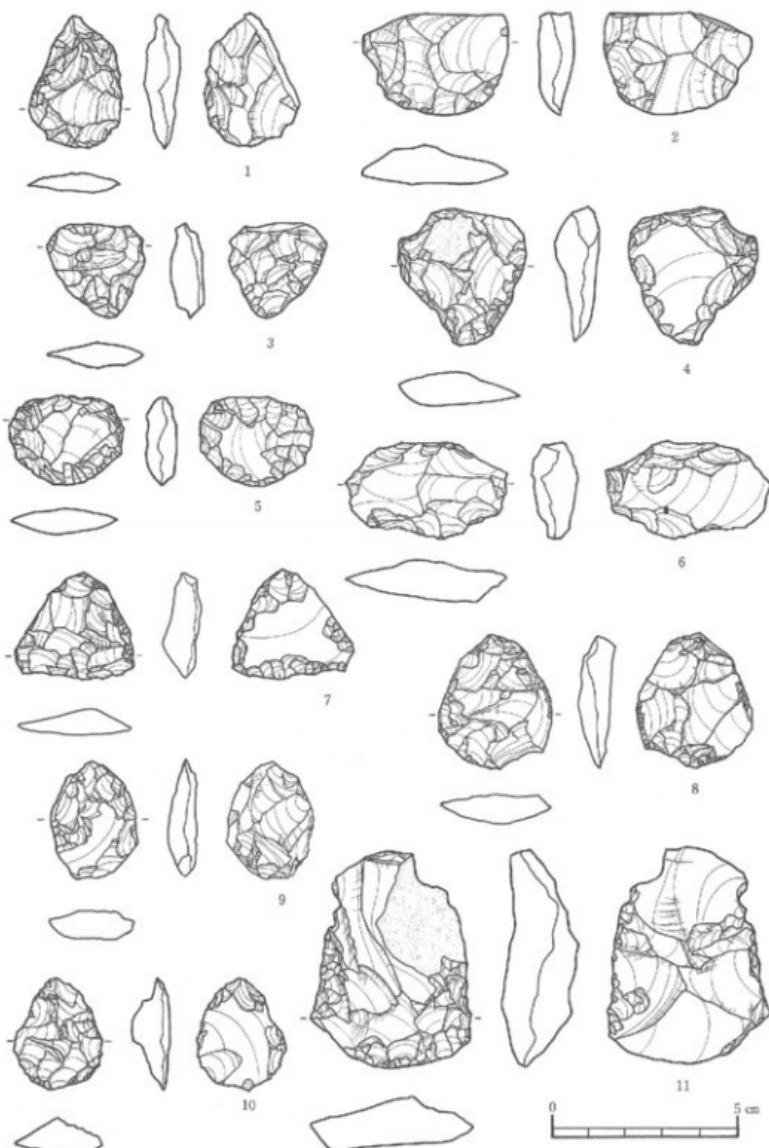
2



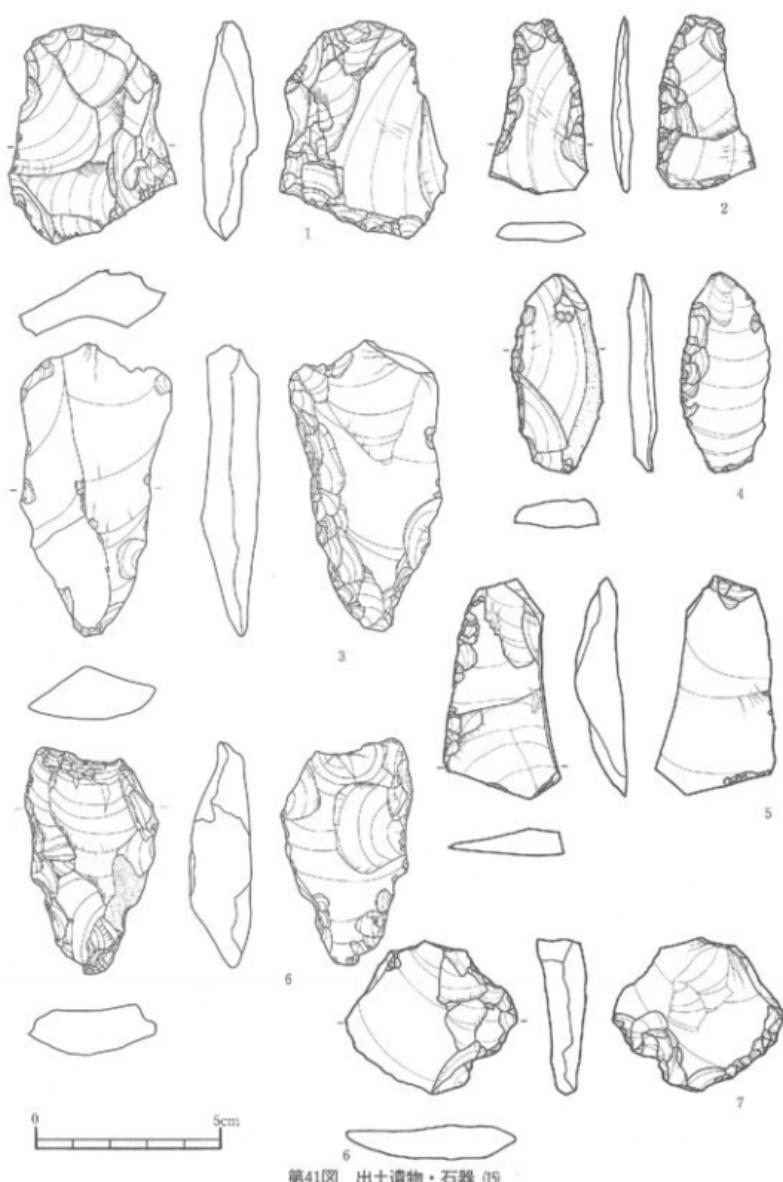
3



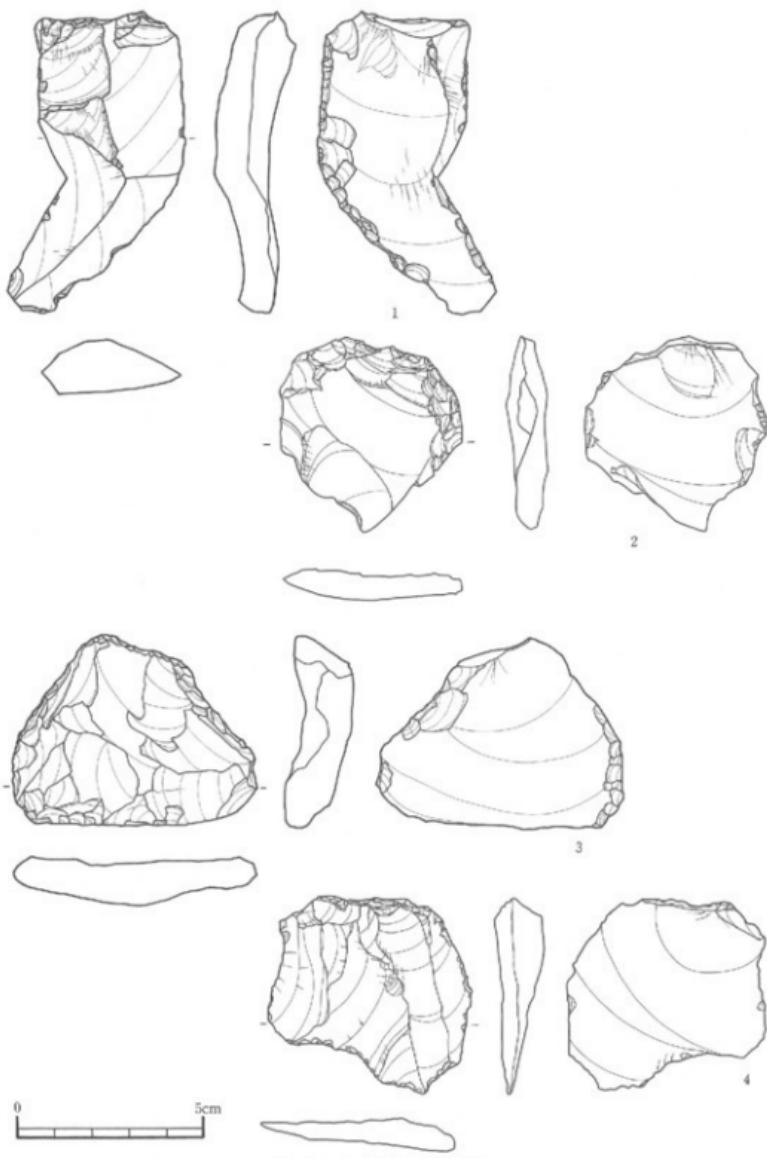
第39図 出土遺物・石器 ⑩



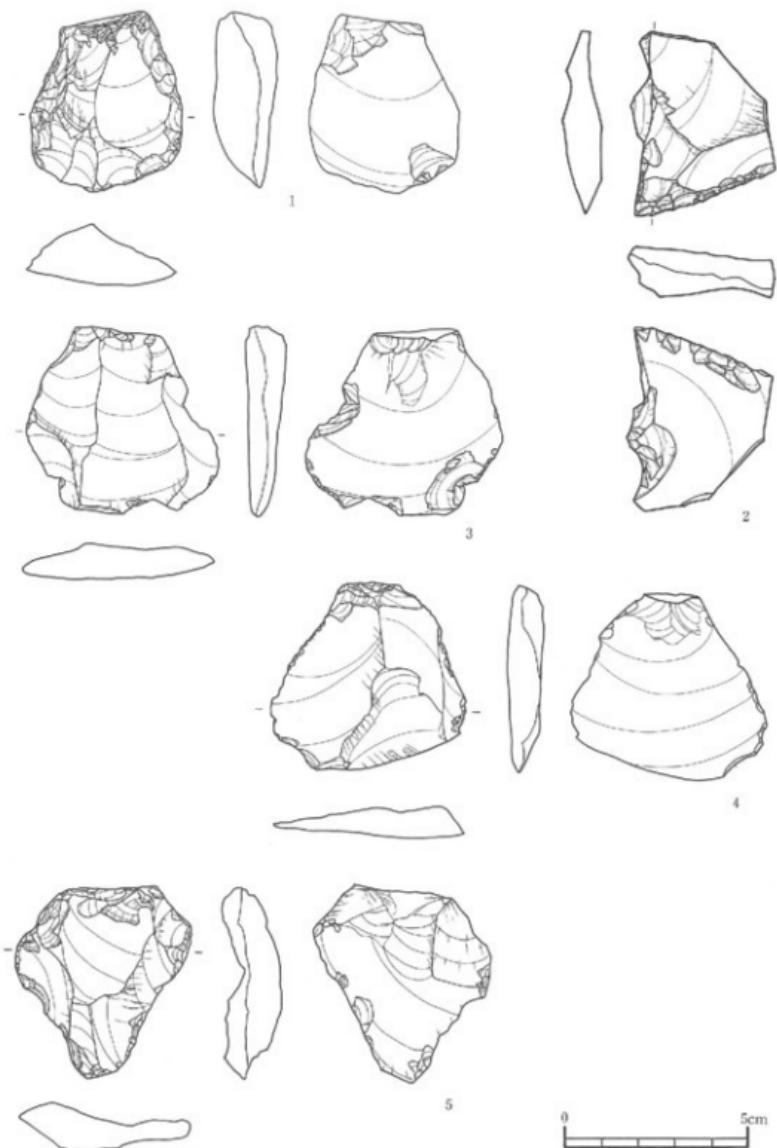
第40図 出土遺物・石器 14



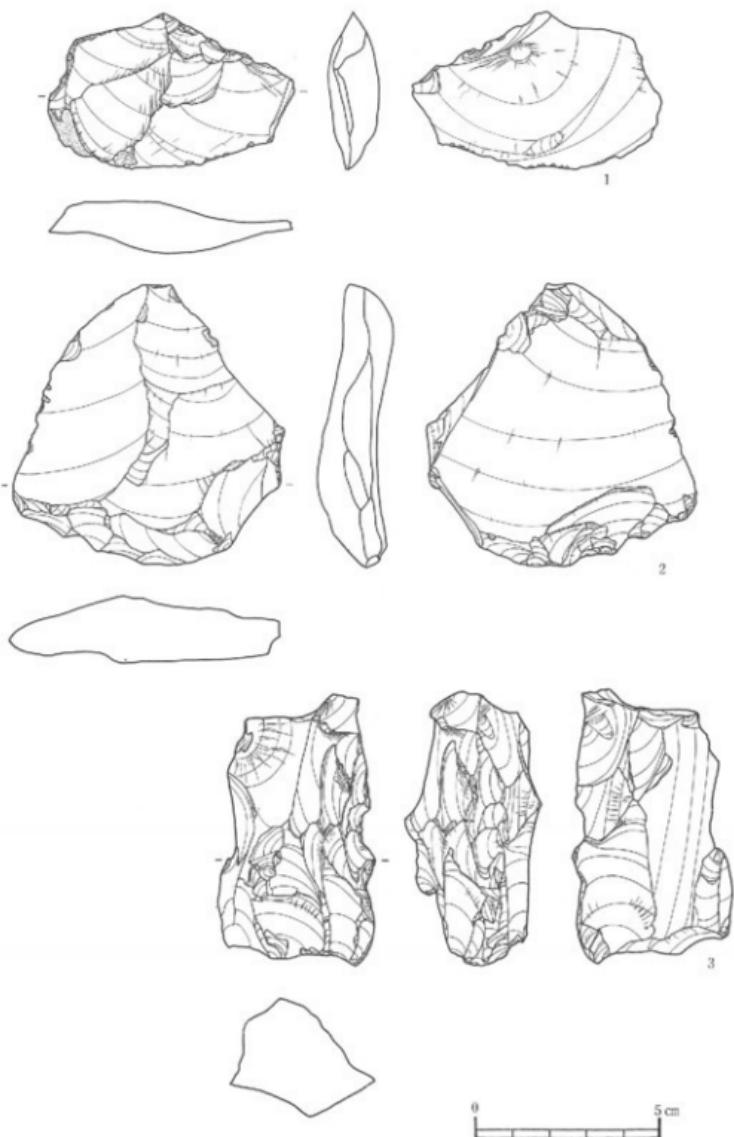
第41図 出土遺物・石器 09



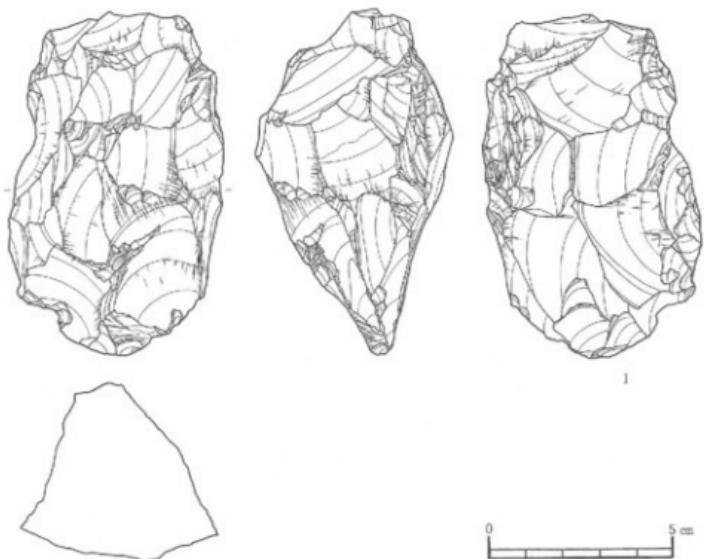
第42図 出土遺物・石器 06



第43図 出土遺物・石器 (1)



第44図 出土遺物・石器 ⑩



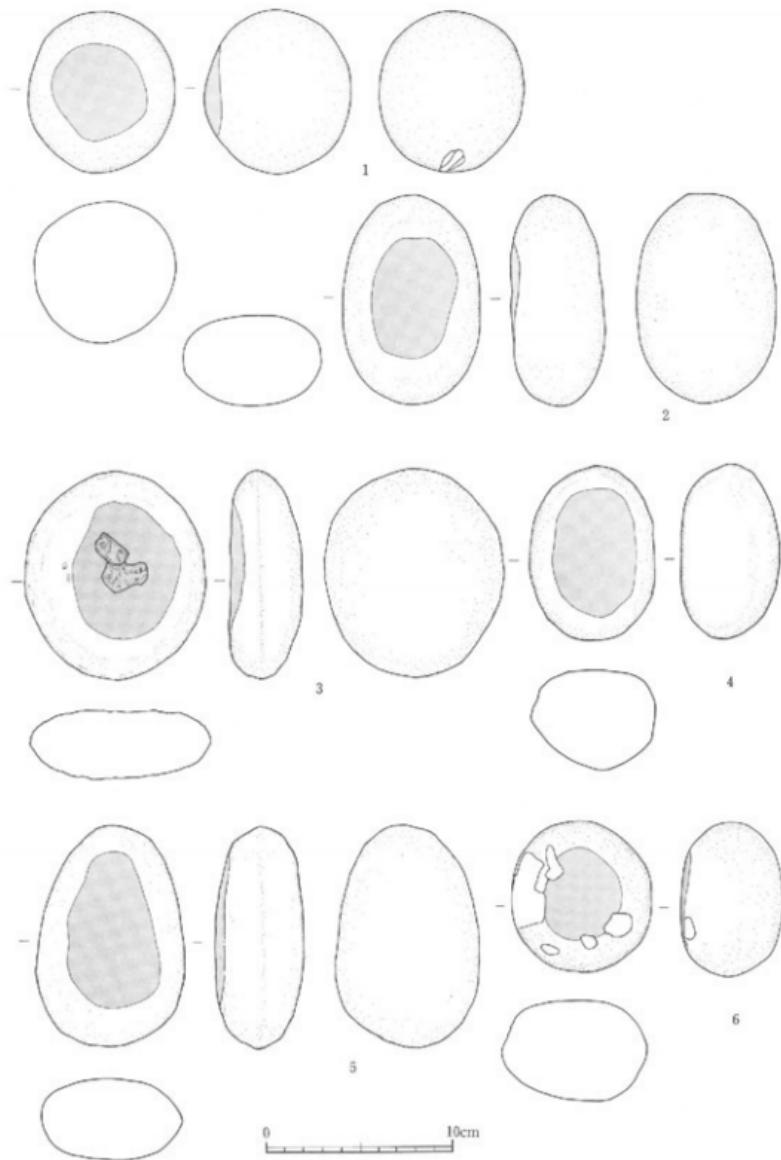
第45図 出土遺物・石器 ⑯



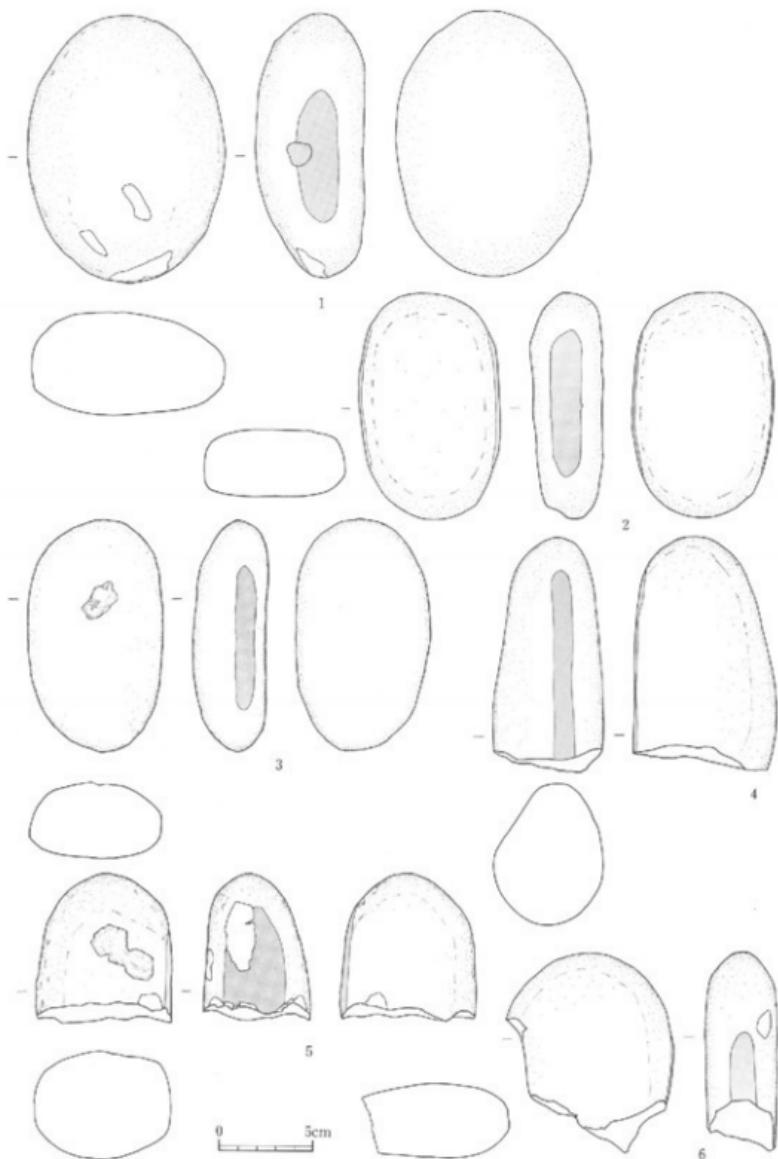
第46図 出土遺物・石器(2)



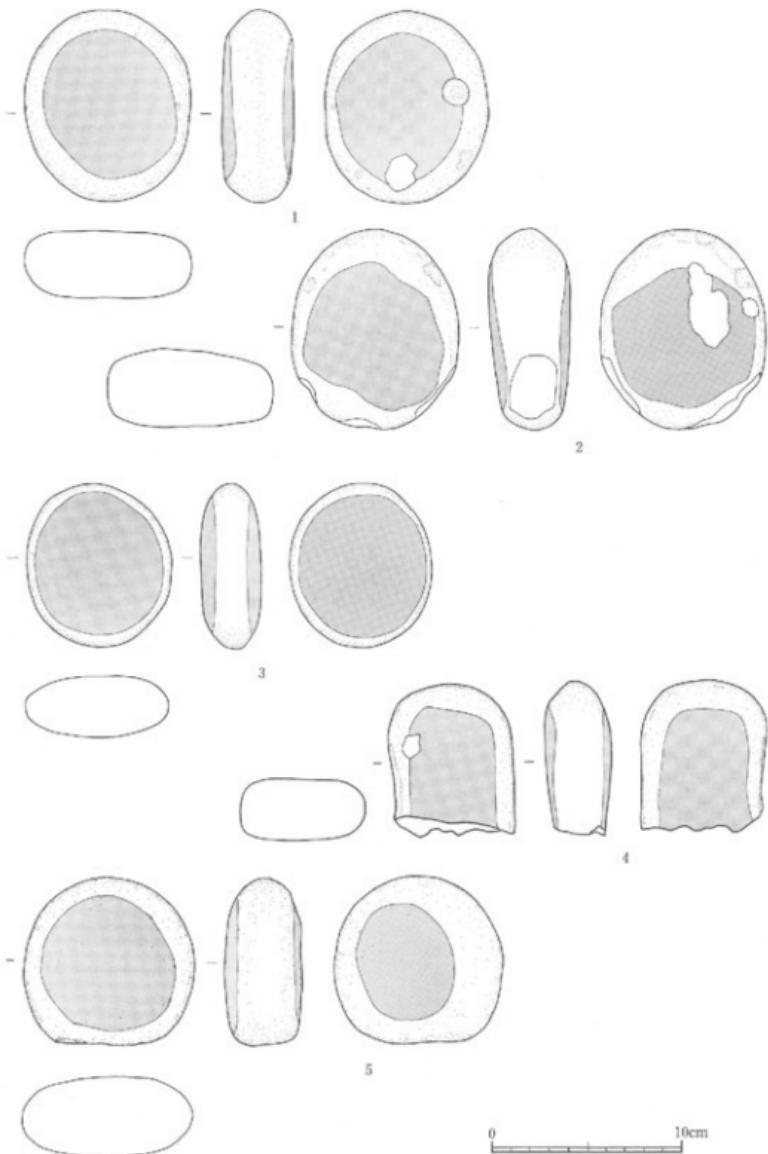
第47図 出土遺物・石器(1)



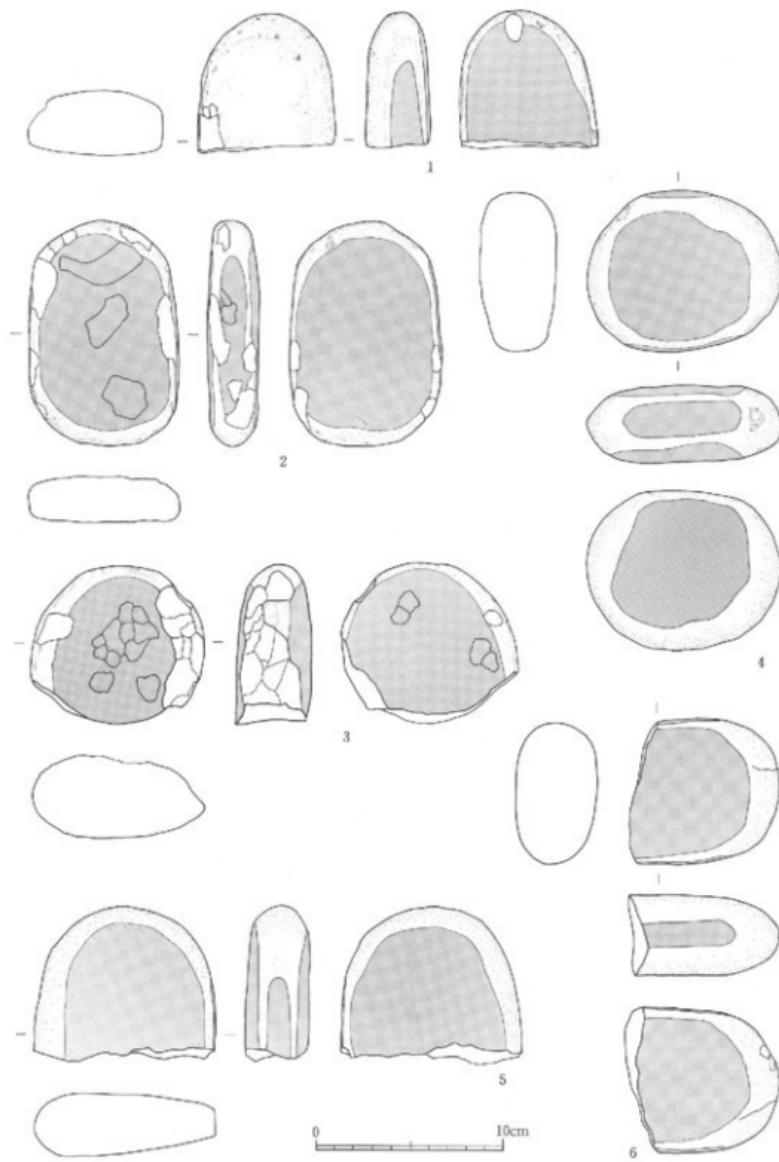
第48図 出土遺物・石器 ②



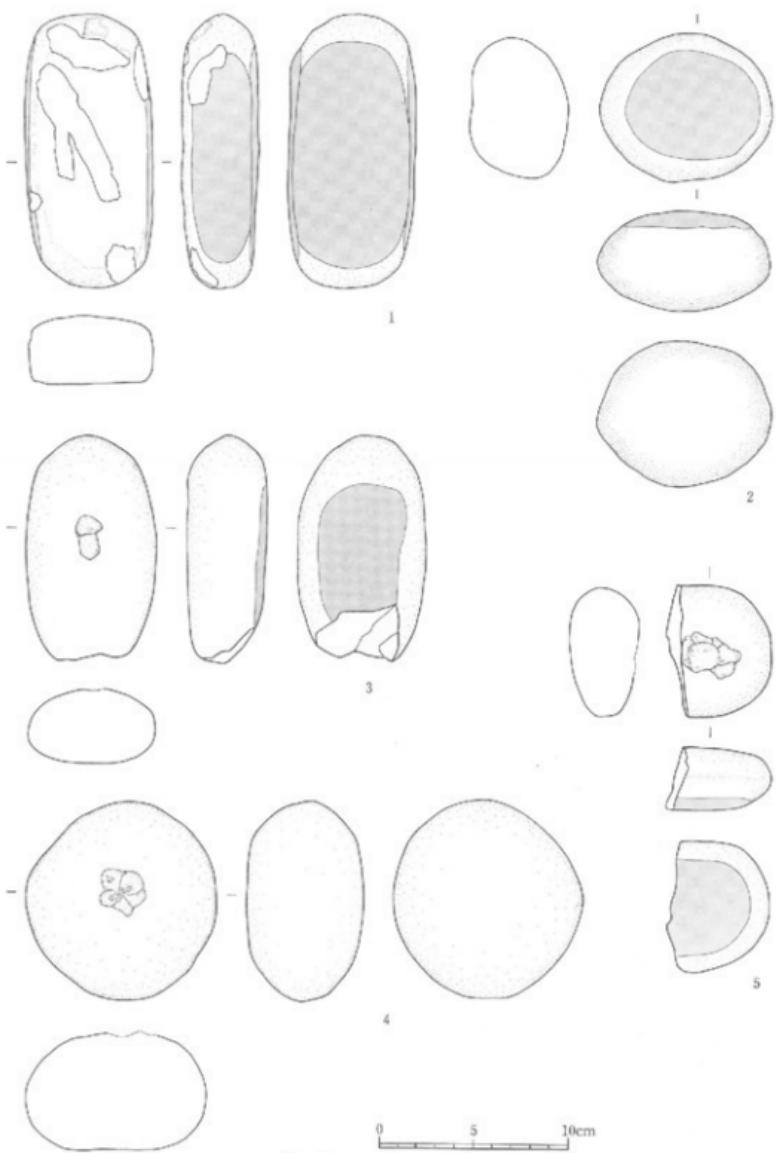
第49図 出土遺物・石器 (2)



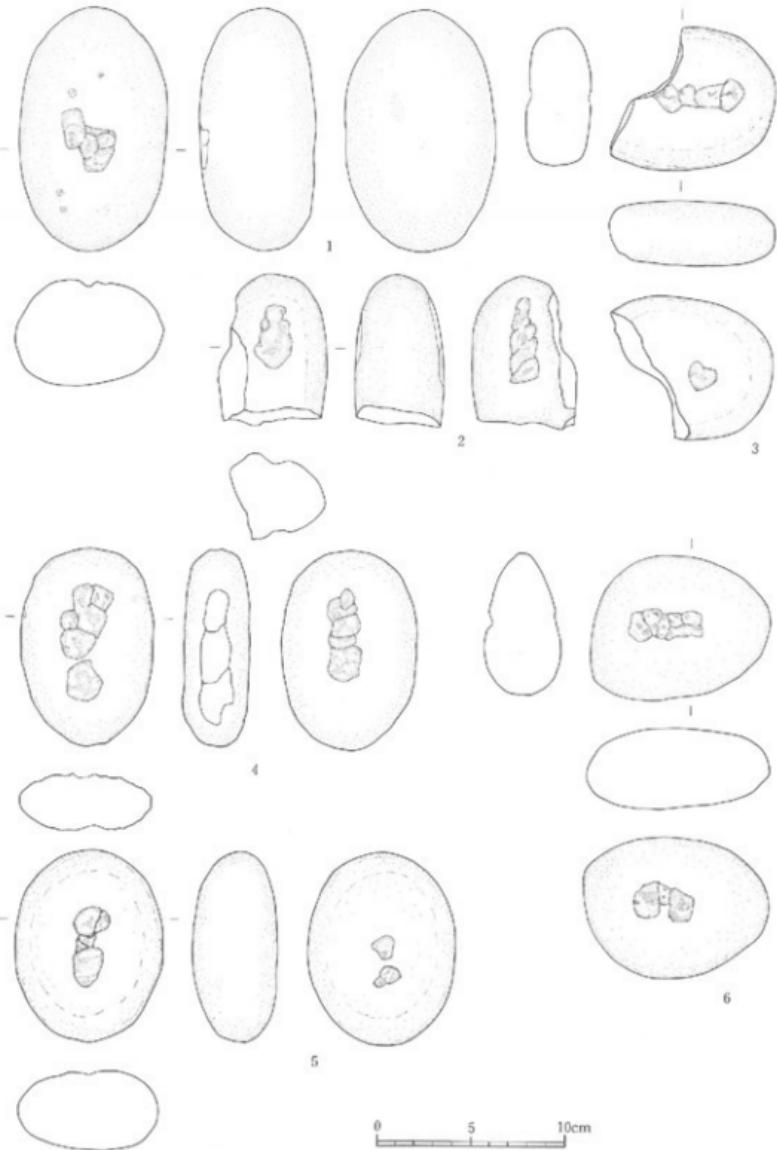
第50図 出土遺物・石器 (2)



第51図 出土遺物・石器 ⑤



第52図 出土遺物・石器 (2)



第53図 出土遺物・石器(7)

第4表 刻片石器観察表(1)

回収番号	地 区	層	地質・位置番号	分類	長(cm)	幅(cm)	厚(ミリ)	重さ(g)	目付	目録番号	備考
27-1	V-E区東	2層下	石綿・Ab-1	A1類	26.0	19.0	1.27	4.0	1.5	地質資料	写真73
27-2	III-D区	2層下	石綿・Ab-12	A1類	21.5	20.0	1.68	4.5	1.1	地質資料	#
27-3	IV-1区	2層	石綿・Ab-24	A1類	20.0	16.7	1.22	3.5	0.9	地質資料	#
27-4	III-2区	3-4層	石綿・Ab-44	A1類	27.8	18.5	1.96	4.0	1.6	地質資料	#
27-5	III-2区	2層	石綿・Ab-45	A1類	23.0	12.6	1.50	3.7	0.8	地質資料	#
27-6	V-F区西	2層	石綿・Ab-13	A2類	24.8	18.7	1.20	4.0	1.2	地質資料	#
27-7	III-D区	2層	石綿・Ab-16	A2類	26.0	16.0	1.63	3.5	1.0	地質資料	#
27-8	V-1区	2層下	石綿・Ab-21	A2類	29.0	19.8	1.46	3.8	1.6	地質資料	#
27-9	III-D区	2層	石綿・Ab-29	A2類	23.0	17.3	1.33	4.7	1.1	地質資料	#
27-10	III-2区	2層	石綿・Ab-46	A2類	35.5	23.1	1.20	5.2	2.9	地質資料	#
27-11	V-1区	2層下	石綿・Ab-2	A3類	21.8	22.5	6.96	4.2	1.3	地質資料	#
27-12	III-2区	2層	石綿・Ab-4	A3類	19.3	19.0	1.92	4.5	1.1	地質資料	#
27-13	V-1区	2層下	石綿・Ab-11	A3類	21.7	17.8	1.22	3.0	0.8	地質資料	#
27-14	III-D区	2層	石綿・Ab-24	A3類	19.0	17.7	1.02	2.3	1.6	地質資料	#
27-15	III-1区	2層	石綿・Ab-38	A3類	24.0	21.1	1.14	3.0	1.2	地質資料	#
27-16	III-D区	2層	石綿・Ab-6	A4類	26.0	19.5	1.25	3.3	1.0	地質資料	#
27-17	V-E区東	2層下	石綿・Ab-16	A4類	28.6	29.0	1.63	2.9	1.6	地質資料	#
27-18	V-F区	2層下	石綿・Ab-26	A4類	24.4	21.1	1.04	2.9	1.9	地質資料	#
28-1	V-E区	2層	石綿・Ab-36	A4類	24.6	21.5	1.14	4.5	1.5	地質資料	#
28-2	III-D区	2層	石綿・Ab-40	A4類	22.6	18.0	1.76	2.5	0.9	地質資料	#
28-3	V-1区	2層下	石綿・Ab-19	A5類	23.0	18.0	1.28	3.8	0.9	地質資料	#
28-4	III-D区	2層下	石綿・Ab-22	A5類	23.8	17.0	1.40	3.0	0.8	地質資料	#
28-5	IV区	2層下	石綿・Ab-39	A5類	26.0	21.2	1.23	3.5	1.6	地質資料	#
28-6	III-1区	2層	石綿・Ab-37	A5類	32.0	23.0	1.39	5.7	3.5	地質資料	#
28-7	III-1区	2層	石綿・Ab-15	A6類	39.0	22.0	1.77	5.0	3.0	地質資料	#
28-8	III-D区	2層	石綿・Ab-48	A6類	32.2	22.0	4.8	3.1	地質資料	山梨初出	
28-9	III-1区	2層	石綿・Ab-29	A5類	23.0	17.8	1.40	3.0	1.0	地質資料	#
28-10	III-B区	2層	石綿・Ab-8	A7類	32.0	22.5	1.42	3.0	1.3	地質資料	#
28-11	III-1区	2層	石綿・Ab-32	A7類	26.0	21.0	1.22	4.0	1.5	地質資料	#
28-12	V-E区東	2層下	石綿・Ab-60	A2類	33.0	18.8	1.26	3.7	1.3	地質資料	#
28-13	III-1区	2層	石綿・Ab-54	A7類	66.7	15.0	3.11	5.6	2.7	石墨化灰	石墨化灰
28-14	III-1区	2層	石綿・Ab-4	A7類	39.0	14.0	2.79	9.5	1.6	地質資料	#
28-15	IV-1区	2層	石綿・Ab-113	A7類	42.0	13.2	2.70	3.9	2.1	地質資料	#
28-16	IV-1区	3-4層	石綿・Ab-96	A1類	79.0	14.0	1.42	2.2	0.7	地質資料	#
28-17	V-E区西	2層	石綿・Ab-28	A1類	18.0	13.0	1.38	3.3	0.7	地質資料	#
28-18	III-1区	2層	石綿・Ab-16	A1類	14.0	16.0	1.13	4.0	0.9	地質資料	#
28-19	III-D区	2層下	石綿・Ab-49	A2類	21.0	16.0	1.27	5.0	1.9	地質資料	写真23
29-1	V-1区	2層	石綿・Ab-19	A2類	30.0	22.0	1.56	5.4	2.7	地質資料	右端端面欠損
29-2	III-1区	2層	石綿・Ab-84	A1類	31.0	15.0	3.97	3.3	1.2	地質資料	#
29-3	III-1区	2層	石綿・Ab-82	A2類	36.0	29.5	1.26	6.0	2.1	地質資料	#
29-4	V-E区	2層	石綿・Ab-11	A1類	36.0	16.0	1.25	3.6	1.8	地質資料	#
29-5	IV-A区	2層下	石綿・Ab-62	A6類	32.0	25.0	1.28	7.5	4.2		#
29-6	III-1区	2層	石綿・Ab-78	A2類	25.0	18.0	1.59	4.1	1.3	地質資料	#
29-7	V-E区	2層下	石綿・Ab-79	A2類	29.0	15.6	1.86	3.0	1.1	地質資料	#
29-8	IV-1区	2層下	石綿・Ab-35	A2類	31.0	16.0	1.94	3.0	1.2	地質資料	#
29-9	V-E区	2層	石綿・Ab-74	A2類	31.0	18.0	1.72	4.7	1.9	地質資料	#
29-10	IV-1区	2層下	石綿・Ab-71	A1類	34.0	15.6	2.18	1.3	1.7	地質資料	#
29-11	IV-1区	2層	石綿・Ab-72	A2類	31.0	16.0	1.94	3.5	1.5	地質資料	大部欠損
29-12	III-1区	2層	石綿・Ab-1	A2類	38.0	13.8	2.02	2.8	0.8	地質資料	1987年調査用上
29-13	III-1区	2層	石綿・Ab-21	A2類	24.0	15.0	1.66	3.4	0.6	地質資料	#
29-14	IV-1区	2層	石綿・Ab-72	A1類	25.0	16.0	1.56	4.6	3.4	1987年調査用上	#
29-15	V-E区	2層下	石綿・Ab-30	A1類	32.0	15.0	1.53	4.2	1.1	地質資料	#
29-16	III-D区	2層下	石綿・Ab-8	A4類	22.0	17.5	1.26	5.0	1.6	地質資料	#
29-17	IV区	2層	石綿・Ab-6	A1類	25.0	20.0	1.25	4.0	1.5	地質資料	#
29-18	IV-1区	2層	石綿・Ab-9	A2類	25.0	21.0	1.19	3.8	1.3	地質資料	#
29-19	V-E区	2層	石綿・Ab-68	A2類	10.0	13.0	1.25	2.4	0.3	地質資料	#
29-20	IV-A区	2層	石綿・Ab-38	A2類	23.0	13.5	1.79	2.9	0.6	地質資料	#
29-21	III-1区	2層	石綿・Ab-13	A4類	22.5	13.2	1.79	2.5	0.8	地質資料	#
29-22	V-E区	2層	石綿・Ab-37	A4類	25.0	16.0	1.56	3.5	1.3	チャート	#
29-23	V-E区	2層下	石綿・Ab-15	A4類	23.0	17.0	1.25	3.6	1.0	地質資料	#
29-24	III-D区	2層下	石綿・Ab-11	A1類	35.0	15.0	2.5	1.3	地質資料	#	
29-25	V-E区	2層	石綿・Ab-127	28.0	15.0	4.5	2.1	地質資料	#		
29-26	V-E区	2層	石綿・Ab-3	33.0	16.0	2.06	2.6	1.2	地質資料	#	
29-27	V-E区	2層	石綿・Ab-7	26.0	13.0	2.00	4.8	1.1		#	
29-28	III-1区	2層	石綿・Ab-6	27.0	10.0	2.70	3.6	0.9	地質資料	#	
29-29	IV-1区	2層	石綿・Ab-1	28.0	14.0	1.86	5.4	2.1	地質資料	#	
29-30	III-D区	2層下	石綿・Ab-8	22.0	17.0	1.29	2.6	0.6	地質資料	写真24	

第5表 剥片石器觀察表(2)

器物番号	地 区	場 所	物種・登録番号	分類	長(cm)	幅(cm)	厚(?)	面積(cm ²)	重さ(g)	材質	写真番号	備考
30-13	V-西区		石刀・A-5		30.0	16.0	1.88	4.5	1.8	砂質頁岩	写真24	
30-14	V-西区	11層	石刀・A-7		25.0	15.0	1.67	2.5	0.9	砂質頁岩		
30-15	V-東区		石刀・A-2		23.5	17.5	1.36	4.0	2.0	砂質頁岩		
30-16	IV-東区	2層	大頭鎌・D-20	D2類	(31.40)	23.7		6.0	4.0	純質頁岩		基部欠損
30-17	III-チ区	2層	尖頭鎌・B-3	B2類	(36.45)	(17.00)		3.7	2.6	砂質頁岩	写真24	左端部・尖端欠損
30-18	V-北区	2層	石刀・A-1		(23.40)	15.0		6.0	1.3	砂質頁岩	写真25	底部・基部欠損
30-19	明-1区	2層	尖頭鎌・B-9	B1類	33.6	26.0	1.27	6.8	6.0	砂質頁岩		
30-20	V-正試	2層下?	尖頭鎌・B-12	B2類	32.0	23.0	1.54	7.4	5.2	砂質頁岩		
31-1	III-C区		尖頭鎌・B-4	C1類	79.6	22.0	3.59	5.7	12.2	砂質頁岩		
31-2	IV-F区		尖頭鎌・B-2	B3類	89.0	26.0	3.42	10.7	24.0	砂質頁岩		
31-3	IV-チ区	2層	尖頭鎌・D-18	D3類	100.0	19.8	5.05	19.0	20.1	砂質頁岩		
31-4	IV-チ区		尖頭鎌・D-19	B4類	79.9	17.8	5.93	6.5	9.5	砂質頁岩		
31-5	III-チ区	2層	尖頭鎌・D-18	D3類	(26.00)	15.0		9.8	9.1	砂質頁岩		表面欠損
31-6	V-ズ区	2層	尖頭鎌・B-8	B3類	38.9	12.0	3.17	5.0	2.7	砂質頁岩		ドリルの可塑性
31-7	III-リ区	2層	尖頭鎌・B-2	B1類	(40.50)	14.5		5.5	9.5	砂質頁岩		ドリルの可塑性、尖端欠損
32-1		赤堀	尖頭鎌・B-30	C1類	(55.80)	19.8		9.0	9.8	砂質頁岩		尖端欠損
32-2	III-チ区	2層	石刀・C-3	C2類	69.9	26.5		13.5	24.0	砂質頁岩		二側縫構造
32-3	V区		石刀・C-5	C3類	62.0	20.0		5.0	7.6	砂質頁岩		二側縫構造
32-4	V-ズ区	2層	石刀・C-6	C1類	59.9	18.5		6.5	6.5	砂質頁岩		二側縫構造
32-5	II-イ区	2層	石刀・C-9	C2類	36.9	14.0		8.0	4.1	砂質頁岩		二側縫構造
32-6	V-リ区	2層	石刀・C-1	C1類	59.0	28.0		6.5	10.4	砂質頁岩	写真25	二側縫構造
32-7	V-ズ区		石刀・C-19	C1類	94.5	33.0		9.8	23.3	砂質頁岩	写真26	三刃端柄状
32-8	III-チ区	2層	石刀・C-3	C1類	79.5	33.0		6.0	8.6	砂質頁岩		三刃端柄状
32-9	V区		石刀・C-5	C3類	62.0	20.0		5.0	7.6	砂質頁岩		二側縫構造
32-10	V-ズ区	2層	石刀・C-6	C1類	59.9	18.5		6.5	6.5	砂質頁岩		二側縫構造
32-11	III-D区	2層	石刀・C-8	C1類	54.0	23.5		5.0	6.6	砂質頁岩		三側縫構造
32-12	V区		石刀・C-20	C1類	60.0	22.0		8.0	8.8	砂質頁岩		三側縫構造
32-13	V-ズ区	2層	石刀・C-12	C2類	57.0	40.0		8.5	19.4	砂質頁岩		板型
32-14	III-リ区	2層	石刀・C-21	C1類	65.0	33.0		12.3	22.2		写真27	二側縫構造
32-15	V区		石刀・C-24	C1類	(60.80)	25.0		10.0	13.3	砂質頁岩		欠損
32-16	V-ズ区	15層	石刀・C-16	C1類	94.5	48.5		7.0	10.2		標本	
32-17	V-ズ区	2層下?	石刀・D-8	D1類	27.8	18.0		5.0	1.7	砂質頁岩	写真26	
32-18	V-ズ区	2層下?	石刀・D-9	D1類	(39.00)	(21.50)		10.0	6.4	砂質頁岩	写真27	尖端欠損
32-19	III-D区	2層	石刀・D-12	D1類	(41.60)	(19.00)		9.5	5.7	砂質頁岩		三側縫構造
32-20	IV-ズ区	2層下?	石刀・D-14	不明	(24.40)	9.5		5.5	1.6	砂質頁岩		基部欠損
32-21	III-チ区	2層	石刀・D-7	D1類	47.0	77.0		6.0	6.3	砂質頁岩		
32-22	赤堀		石刀・D-4	D1類	(42.40)	24.0		10.5	10.6	砂質頁岩		尖端欠損
32-23	V-ズ区		石刀・D-20	D2類	18.0	15.0		7.6	4.8	砂質頁岩		
32-24	V-ズ区	2層	石刀・D-29	D2類	(30.00)	34.0		6.5	6.2	砂質頁岩		大型欠損
32-25	V区		石刀・D-5	D2類	40.8	18.3		6.5	3.5	砂質頁岩		
32-26	V-ズ区		石刀・D-19	D2類	44.3	15.0		7.5	4.9	砂質頁岩		
32-27	V-ズ区	2層	石刀・D-28	D2類	34.5	9.0		4.5	1.7	砂質頁岩		
32-28	V-ズ区	2層	石刀・D-21	D2類	59.0	13.4		9.0	4.7	砂質頁岩		
32-29	III-チ区	2層	石刀・E-22	E3類	83.0	32.7		13.0	20.3			
32-30	II-リ区	2層	石刀・E-1	E3類	53.0	52.0		9.0	16.7	砂質頁岩		
32-31	V-ズ区	2層下?	石刀・E-6	E3類	67.9	61.5		12.0	32.9			
32-32	V-ズ区	2層下?	石刀・E-16	E3類	49.0	24.0		12.0	11.5	砂質頁岩		
32-33	V-ズ区	2層	石刀・E-20	E3類	57.0	36.0		15.0	32.3	砂質頁岩		
32-34	V-ズ区	2層	石刀・E-3	E3類	56.0	30.0		19.0	22.9	砂質頁岩	写真27	
32-35	III-チ区	2層	石刀・E-11	E3類	37.0	46.9		15.0	23.9	砂質頁岩	写真28	
32-36	V-ズ区	2層	石刀・E-16	E3類	51.0	36.0		8.0	16.6	砂質頁岩		
32-37	V-ズ区	2層	石刀・E-7	E3類	54.0	28.0		11.8	12.1	砂質頁岩		
32-38	V-ズ区	2層	石刀・E-14	E3類	70.0	35.5		19.0	16.6	砂質頁岩		
32-39	V-ズ区	2層	石刀・E-13	E3類	39.0	23.0		9.8	9.5	砂質頁岩		
32-40	V-ズ区	2層	石刀・E-28	E3類	35.0	29.0		15.0	18.7	砂質頁岩		
32-41	V-ズ区	2層	石刀・E-10	E3類	49.0	39.0		10.2	18.7	砂質頁岩		
32-42	V-ズ区	2層	石刀・E-4	E3類	56.0	37.0		18.7	44.6	砂質頁岩		
32-43	III-チ区	2層	石刀・E-5	E3類	88.0	28.5		14.0	44.8	砂質頁岩		
32-44	III-チ区	2層	スクレーパーE-4	E3類	44.0	30.0		7.0	8.9			
32-45	V-ズ区	2層	スクレーパーE-3	E3類	44.0	32.0		9.0	10.4	砂質頁岩	写真28	
32-46	V-ズ区	2層	スクレーパーE-15	E3類	(65.00)	35.0		11.0	27.1		写真29	
32-47	III-リ区	2層	スクレーパーF-1	F3類	38.0	31.0		7.0	7.6	砂質頁岩		
32-48	V-ズ区	2層	スクレーパーF-3	F3類	(30.00)	29.5		7.0	6.3	砂質頁岩		
32-49	V-ズ区	2層	スクレーパーF-5	F3類	75.0	38.0		22.5	44.3	砂質頁岩		
32-50	V-ズ区	2層	スクレーパーF-3	F3類	59.0	22.0		7.0	18.4	砂質頁岩		
32-51	周 围	2層	スクレーパーF-7	F3類	67.0	45.0		9.8	27.9	砂質頁岩		
32-52	V-ズ区	2層	スクレーパーF-2	F3類	64.0	45.0		15.0	48.7	砂質頁岩	写真29	

第6表 剝片石器観察表(3)

回収番号	地 区	層 位	器種・登錄番号	分 類	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	石 材	写 真・図版番号	備 考
38-4	IV-ル区	2層上	ストレインバード-E-5	石器	73.0	59.0	13.6	41.6	珪質頁岩	写真39	
38-5	III-チ区	2層	ストレインバード-E-17	石器	54.0	38.0	16.0	27.1	珪質頁岩	写真39	
39-1	III-ト区	2層	ストレインバード-F-10	石器	72.0	54.8	17.0	76.3	珪質頁岩	写真39	
39-2	III-D区	2層下	ストレインバード-H-21	石器	49.0	82.0	16.0	67.3	矽灰岩	写真39	
39-3	III-A区	2層	ストレインバード-F-6	石器	89.0	46.8	14.0	53.7	珪質頁岩	写真39	
40-1	III-T区	2層	不定型石器-GA-8	石器	35.0	24.0	7.0	6.5	珪質頁岩	写真39	
40-2	V-E区	内	不定型石器-GA-10	石器	27.0	38.0	9.0	11.2	珪質頁岩	写真39	
40-3	IV-L区	2層	不定型石器-GA-15	石器	24.0	24.0	8.0	4.3	珪質頁岩	写真39	
40-4	III-T区	3~4層	不定型石器-GB-16	石器	36.0	33.0	10.0	10.7	珪質頁岩	写真39	
40-5	III-T区	3~4層	不定型石器-GB-14	石器	23.0	29.0	8.0	6.8	珪質頁岩	写真39	
40-6	IV-D区	2層	不定型石器-GH-12	石器	25.0	41.0	10.0	9.9	矽灰岩	写真39	
40-7	IV-L区	2層下	不定型石器-GB-2	石器	28.0	30.0	7.0	5.9	珪質頁岩	写真39	
40-8	III-L区	2層	不定型石器-GH-4	石器	29.0	23.0	8.0	6.8	珪質頁岩	写真39	
40-9	IV-T区	2層下	不定型石器-GB-5	石器	31.0	25.0	7.0	5.5	珪質頁岩	写真39	
40-10	III-T区	2層	不定型石器-GH-11	石器	29.0	23.0	9.0	4.6	珪質頁岩	写真39	
40-11	III-T区	3層下	不定型石器-GC-17	石器	58.0	42.0	18.0	41.0	珪質頁岩	写真39	
41-1	V-E区	2層	不定型石器-GC-25	石器	27.0	42.0	16.0	70.1	珪質頁岩	写真39	
41-2	IV-T区	2層	不定型石器-GC-27	石器	49.0	21.0	6.0	5.6	珪質頁岩	写真39	
41-3	III-T区	2層	不定型石器-E-8	石器	77.0	34.0	14.0	41.1	珪質頁岩	写真39	
41-4	III-D区	2層	不定型石器-F-2	石器	53.0	22.0	6.0	9.9	珪質頁岩	写真39	
41-5	V-K区	2層下	不定型石器-GC-12	石器	58.0	28.0	7.6	16.2	珪質頁岩	写真39	
41-6	V-E区	2層	不定型石器-GB-6	石器	69.0	36.0	16.0	30.7	珪質頁岩	写真39	
41-7			石器	不定型石器-GC-18	石器	39.0	44.0	9.0	17.7	写真39	1987年調査出土
42-1	V-C区	1~3層	不定型石器-GC-37	石器	28.0	37.0	13.0	47.5	珪質頁岩	写真39	
42-2			石器	不定型石器-GB-15	石器	29.0	48.0	9.0	23.4		1987年調査出土
42-3	III-W区	2層	不定型石器-GC-29	石器	51.0	62.0	13.0	42.1			
42-4	V-W区	2層	不定型石器-GB-10	石器	49.0	59.0	6.0	21.7			
42-5	IV区		不定型石器-GD-1	石器	47.0	49.0	19.0	31.5			
42-6	III-H区	4層	不定型石器-GC-11	石器	37.0	48.0	11.0	20.6			
43-3	III-T区	2層	不定型石器-GC-35	石器	49.0	56.0	7.0	21.7			
43-4	III-T区	3層下	不定型石器-GK-12	石器	45.0	31.0	7.0	20.3	珪質頁岩	写真39	
43-5	V-E区	2層下	不定型石器-GK-7	石器	36.0	38.0	10.0	21.7	珪質頁岩	写真39	
44-1	V-W区	2層	不定型石器-GB-19	石器	64.0	40.0	12.0	28.1	珪質頁岩	写真39	
44-2	IV-E区	2層	不定型石器-GD-3	石器	75.0	71.0	16.0	72.3			
44-3	IV-T区	2層	石核-2	石器	72.0	42.0	33.0	85.9	珪質頁岩	写真39	
45-1	表層	石核	I		98.0	53.0	43.0	219.6	珪質頁岩	写真39	

第7表 石製品・磨製石斧観察表

回収番号	地 区	層 位	器種・登錄番号	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石 材	写 真・図版番号	備 考	
46-1	V-E区	南壁	表層	石製品	97	30	9	46.1		写真38	
46-2	III-D区	2層	石製品	52	25	89	16.9			欠損品	
46-3	III-E区	2層	石製品	32	39	8	17.5			欠損品	
46-4	V-E区	2層上	石斧	19	31	7	6.9			欠損品	
46-5	V-E区	2層	石斧	19	12	9	4.4			欠損品	
46-6	IV-F区	2層	石斧	34	28	5	10.2			欠損品	
46-7	V-E区	2層	石斧	30	18	2	1.8			欠損品	
46-8	IV-S区	2層	石斧	32	39	5	7.4			欠損品	
46-9	IV-T区	2層	石斧	32	31	3	4.6			写真38	
47-1			表層	磨製石斧	112	65	30	280		写真39	1987年調査出土
47-2	V区	1b層	磨製石斧	127	53	32	339			刃部欠損	
47-3	III-L区	2層下	磨製石斧	70	70	31	260			基部欠損	
47-4	III-D区	2層下	磨製石斧	89	53	27	200			刃部欠損	
47-5	V-E区	2層下	磨製石斧	84	46	33	189			刃部欠損	
47-6	III-L区	2層	磨製石斧	55	48	33	120			刃部欠損	
47-7	V-L区	2層	石製品	106	73	24	350			欠損品	
47-8	IV-F区	2層	石製品	122	48	34	290			欠損品	

第8表 磁石器観察表

同様番号	地 区	層 位	岩相・発見番号	長(㎜)	幅(㎜)	厚(㎜)	重量(g)	台 組	便 用	用	写真・図版番号
48-1	IV-F区	2層下	磁石 A 磁-A-1	84	76	76	769	近-1面			写真34
48-2	III-I区	3+4層	磁石 A 磁-A-4	112	74	41	646	近-1面			写真34
48-3	III-II区	2層	磁石 A 磁-A-5	110	94	37	556	近-1面	片面・同一面		写真35
48-4	IV-P区	2層	磁石 A 磁-A-3	99	68	56	556	近-1面			
48-5	A-V区	1層	磁石 A 磁-A-6	117	78	46	696	近-1面			
48-6	IV-F区	2層	磁石 A 磁-A-23	81	76	54	470	近-1面			
49-1	III-I区	3+4層	磁石 A 磁-A-22	141	103	53	1580	近-1側面			
49-2	III-II区	2層	磁石 A 磁-A-16	120	74	26	320	近-2側面			
49-3	表層		磁石 A 磁-A-12	123	72	40	550	近-1側面			
49-4	III区		磁石 A 磁-A-24	124	58	76	750	近-1側面			写真35
49-5	V区	1b層	磁石 A 磁-A-23	75	71	57	430	近-1側面			写真36
49-6	II-Ⅲ区	2層	磁石 A 磁-A-17	107	78	37	500	近-1側面			
50-1	III-I区	3+4層	磁石 A 磁-A-14	101	87	35	490	近-1面			
50-2	IV-P区	2層	磁石 A 磁-A-20	103	87	49	610	近-1側面			
50-3	V-II区	2層下	磁石 A 磁-A-19	87	76	39	340	近-1面			
50-4	III-P区	2層下	磁石 A 磁-A-21	79	64	34	320	近-1面			
50-5	IV-P区	2層下	磁石 A 磁-A-18	99	76	41	540	近-1面			
51-1	V区	1b層	磁石 A 磁-A-7	71	72	34	270	近-1面	片面	1側面	
51-2	III-II区	2層	磁石 A 磁-A-8	119	79	26	420	近-1面	片面	1側面	
51-3	表層		磁石 A 磁-A-11	123	72	40	550	近-1面	片面	1側面	写真36
51-4	III-I区	2層	磁石 A 磁-A-9	109	86	40	580	近-1面	片面	2側面	写真37
51-5	III-II区	2層	磁石 A 磁-A-15	90	95	28	340	近-1面	片面	1側面	
51-6	V-II区	2層	磁石 A 磁-A-16	76	75	41	450	近-1面	片面	2側面	
52-1	表層		磁石 A 磁-A-1	116	67	39	290	近-1面	片面	2側面	
52-2	III-I区	2層	磁石 A 磁-D-1	91	78	52	560	近-1面			
52-3	IV区	表層	磁石 A 磁-B-3	117	69	42	570	近-1面	片面	1側面	
52-4	III-II区	2層	磁石 A 磁-H-1	106	101	59	840	近-1面			
52-5	III-I区	2層	磁石 A 磁-D-3	50	68	32	160	近-1面	片面	2側面	
53-1	V-II区	2層下	磁石 A 磁-B-2	127	78	58	920	近-1面			
53-2	表層		磁石 A 磁	89	53	46	220	近-1面			写真37
53-3	III-I区	2層	磁石 A 磁-B-6	79	74	34	280	近-1面			写真38
53-4	V区	2層	磁石 A 磁-D-2	135	70	30	253	近-1面			
53-5	V-II区	1b層	磁石 A 磁-B-7	101	78	42	470	近-1面			
53-6	III-I区	2層	磁石 A 磁-B-4	96	77	44	440	近-1面			写真38

V 出土遺物についての考察と分析

1. 縄文土器

今回の調査によって出土した土器は、縄文時代前期後半のものを中心としており、それとの文様の特徴などから第I群～第VII群に大別され、さらにそれぞれのなかで文様施文上の特徴などから細別を行っている。

しかし出土した土器は、層位的に分離することなく混在しており、しかもその大部分が小破片ということで、全体の器形が明らかなものはほとんどない状況である。ここではその中で、出土点数も多く資料的にまとまりのみられる第III群・第IV群土器を中心として、これまでの研究成果に基づいて編年的位置付けを述べることにする。

第III群・第IV群土器の類似資料は、仙台市内ではこれまでほとんど出土していないが、県内では大木門貝塚（七ヶ浜町）、長者原遺跡（南方町）、糠塚貝塚（追町）などで出土しており、第III群土器については大木4式に、第IV群土器については大木5式に比定されるものとして捉えることができる。

興野義一は、「大木式土器理解のために I～VI」（1967～1970）のなかで、大木1式～6式までの前期土器群を論じている。そのなかで大木4式と5式を分けるものとして、大木4式にみられる細い粘土紐による小波状文・格子状文・梯子状文が、大木5式では、粘土紐をちぎって折り重ねたような鋸歯状の連続山形文に変わり、口縁部に分厚い鋸歯状装飾帯がつくことをあげている。その後長者原遺跡出土資料から「大木5b式の提唱」（1970）を発表し、大木5a式と5b式を細分する要素として以下のような特徴をあげている。

- (1)鋸歯状装飾帯の口周への拡張と窓の出現につづく装飾帯の喪失。
- (2)萎縮する貼付文。山形貼付文の退化と直線紐の付加と刻線紐の発生。
- (3)ボタン状貼付の発生。
- (4)貼付文から沈線文への置換。刻線紐の残存と交互波状沈線文、細い山形沈線文。
- (5)文様帶の簡略化と帶外拡散。

そこでこれまでの調査例から今回の出土遺物についてみると、第III群土器の1a類とした土器のうち、第12図-1～4のように巾広の粘土紐による文様がつくものは、大木4式の特徴のひとつとされている。おなじく2類とした土器群のうち、第11図-1・4、第17図-4～6・18のように、口縁端部または口唇部に小波状を呈する細い粘土紐貼付文がつく土器群は、大木門貝塚昭和52年度環境整備調査（八巻 1979）のC S 77地区a区・b区8d上層の報告で「細い粘土紐による山道文（高橋詠而 1977）」としているものと同じもので、やはり大木4式としている。

第IV群土器についてみると、1類とした土器群は、折り重ねられた鋸歯状連続山形文と格子

状文・梯子状文の組合せによって幾何学文状となり、口縁部には大きな鋸歯状装飾帯がつく典型的な大木5式といえる土器群であり、これは大木5a式と考えられる。そのなかでe類とした刺突入りの環状貼付文は、大木5a式に特徴のある環状突起と思われ、波状口縁端部に口端から飛び出すようにつくことが多い。f類とした輪積みの痕跡を残した円筒形の無文土器は、糠塚貝塚に同様の土器があり同じく大木5a式とされている（興野「糠塚貝塚について」）。

2類とした土器群は、山形沈線文・沈線区画直線文と円文・弧状文などの曲線文が組みあわされて施文され、鋸歯状装飾帯は退化小型化して全局につく土器群で、大木5a式～5b式の中間の様相を示すものと考えられる。鋸歯状装飾帯の鋸歯はその上部または下部を喪失して次第に名目的なものになり、口唇部に刻目がつけられただけのものや、上下の鋸歯を完全に喪失して口縁部を肥厚させただけのものになっていく。このうち第14図-12は、口縁端部の側面を内外面から指頭または太い棒状の工具によって押圧し前後波状口縁としたもので、花弁状口縁ともよばれるがこれも鋸歯状装飾帯からの転化のひとつと考えられる。また第13図9・11にみられる口唇部に太い粘土紐によって波状を呈する山形文がつけられているものは、鋸歯状装飾帯が退化したものと考えられるが、第III群2類とした大木4式のなかで、口縁端部または口唇部に小波状を呈する細い粘土紐貼付文がつく土器と同じ表現方法のものとも考えられる。

3類とした土器群は、口縁部につけられていた鋸歯状装飾帯の喪失後の土器群で、大木5b式と考えられる。2類とした鋸歯状装飾帯の退化小型化はこの段階ではまったくみられなくなり、口縁部の肥厚も行われなくなっている。鋸歯状装飾帯が全周に広がるなかで生じた窓が装飾帯の喪失後も残存し、3B類とした口縁部に山形突起かコブ状の突起をもつ土器群となっていくが、山形突起のなかに開けられた窓はやがて退化して盲孔となって痕跡化していく。

第VI群土器のうち1類とした土器群は、大木5b式～6式の中間様相をしめすものと考えられる。このなかで第10図-25、第18図-18、第19図-18にみられる竹管状工具の連続刺突による列点入りの隆線は、大木5b式にみられた刻線紐の転じたものと考えられる。

2. 石器・石製品

出土した石器の絶対数は615点で、このうち剝片石器555点・砾石器36点・磨製石斧10点・石製品11点・玦状耳飾3点となっている。

石器自体で所属する時期を推定するためには、形態がよほど特徴的なものなどに限られてくる。とくに今回の調査では遺構が検出されず、遺物はほとんど包含層からの出土であった。その包含層も全体を完全に発掘したわけではないが、所属する時期については、共伴する土器によって縄文時代前期後葉と考えられる。当該期の宮城県内での調査例は少なく、仙台市内においてもまとまった資料としては初めてのものといえることから、当該期における石器のあり方について考えるうえでの良好な資料とおもわれる。

なお、用いられた石材についてはそのほとんどが珪質頁岩で、他に流紋岩、チャート、珪化凝灰岩、石英安山岩などがある。

(1) 剥片石器の分析

剥片石器の総数は555点であり、器種組成の比率は、石鏃321点（58%）・尖頭器28点（5%）、石匙26点（5%）・石錐31点（6%）・石箆25点（5%）・スクレイバー10点（2%）・不定形石器114点（21%）となっている。

数量的には石鏃の出土量が全体の6割をしめ、ついで不定形石器が2割となっている。今回は他の遺跡との比較検討は行っていないが、一般的にいわれる縄文時代前期後葉から中期にかけての石器の器種組成の特徴として、素材をあまりかえず二次加工を施す不定形石器の増加と、定形石器の減少があげられている。今回の器種組成が当該期の様相を反映しているのかは明確ではないが、少なくとも器種組成にしめる石鏃の割合が非常に高いことと、それ以外の定形石器や礫石器の数が少ないとみることはできる。

① 石 鏃

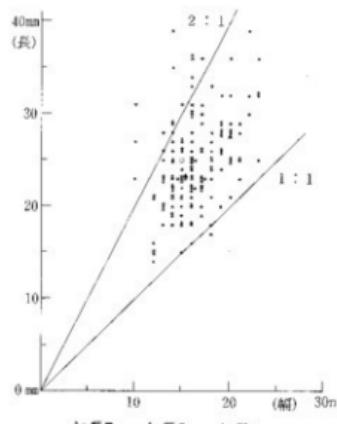
【類型組成】第54図・第55図参照

総数321点のうち、Aa類・Ab類の凹基無茎鏃があわせて244点（76%）をしめている。石材としては、ほとんどが珪質頁岩を使用している。

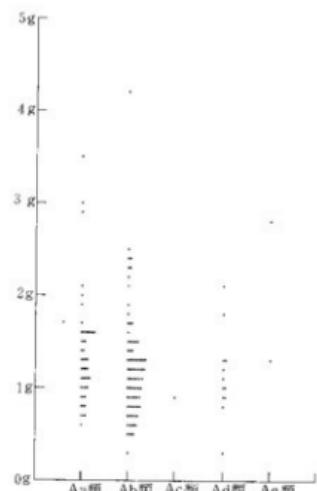
【長さと幅】長さ20～30mm、幅13～20mmを中心に分布する。最小のもので長さ14mm、最大は長さ39mmを計る。長さと幅の比率（以下長幅比という。）は、1：1～2：1の範囲にほぼ含まれる。

【重さ】0.7～1.6gを中心分布している。最軽量のものは0.3gであるが、もっとも重いものは4.2gと非常に重い。

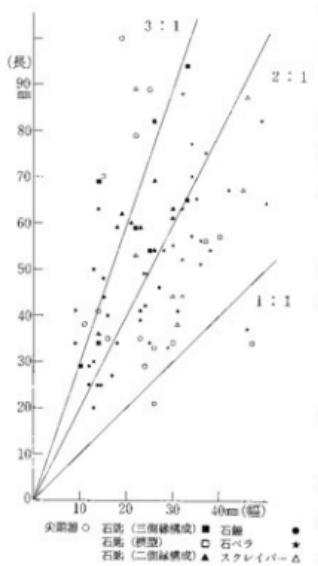
【破損状況】石鏃の破損品は200点で総数の60%にあたる。このうちの189点について破損状況



第54図 石鏃長幅分布図



第55図 石鏃重量分布図



第56図 剝片石器長幅分布図

3:1以上と縦長形を示している。

【重さ】ほとんどが10g以下に分布している。最軽量のものは2.6gであるが、もっとも重いものは24.8gである。

【破損状況】尖頭器の破損品は18点で総数の64%にあたる。このうち16点について破損状況を、尖端部側が欠損したもの(I)、基部側が欠損したもの(II)、側縁が欠損したもの(III)、尖端部・基部が欠損したもの(IV)、尖端部・側縁部が欠損したもの(V)とに分けてみた場合、(I)は9点(56%)、(II)は3点(18%)、(III)は2点(13%)、(IV)は1点(6%)、(V)は1点(6%)となる。

③石匙

【類型組成】第56図・第57図参照

総数26点のうち、石材としては、ほとんどが珪質頁岩を使用している。

【長さと幅】完形品21点を対象とした。最小のもので長さ21mm、最大は長さ94mmを計る。長幅比は、1・3類が2:1~3:1の範囲にほぼ含まれるにたいして、2類は1:1以下の横長形を示している。

【重さ】ほとんどが20g以下に分布している。最軽量のものは1.7gであるが、最も重いものは

を、尖端部側が欠損したもの(I)、基部側が欠損したもの(II)、側縁が欠損したもの(III)、尖端部・基部が欠損したもの(IV)、基部・側縁部が欠損したもの(V)とに分けてみた場合、(I)は63点(33%)、(II)は74点(39%)、(III)は14点(7%)、(IV)は27点(14%)、(V)は11点(6%)となる。

類型ごとの欠損率でみると、Aa類63%・Ab類56%・Ac類57%・Ad類48%・Ae類0%と高い破損率を示している。

②尖頭器

【類型組成】第56図・第57図参照

総数28点のうち、石材としては、ほとんどが珪質頁岩を使用している。

【長さと幅】完形品10点を対象とした。長さ30~40mm、幅10~30mmの範囲に納まるグループと、長さ70~100mm、幅15~25mmの範囲に納まるグループに大別される。最小のもので長さ29mm、最大は長さ100mmを計る。長幅比は、前者が1:1~3:1の範囲にほぼ含まれるのに対して、後者は

3:1以上と縦長形を示している。

【重さ】ほとんどが10g以下に分布している。最軽量のものは2.6gであるが、もっとも重いものは24.8gである。

【破損状況】尖頭器の破損品は18点で総数の64%にあたる。このうち16点について破損状況を、尖端部側が欠損したもの(I)、基部側が欠損したもの(II)、側縁が欠損したもの(III)、尖端部・基部が欠損したもの(IV)、尖端部・側縁部が欠損したもの(V)とに分けてみた場合、(I)は9点(56%)、(II)は3点(18%)、(III)は2点(13%)、(IV)は1点(6%)、(V)は1点(6%)となる。

③石匙

【類型組成】第56図・第57図参照

総数26点のうち、石材としては、ほとんどが珪質頁岩を使用している。

【長さと幅】完形品21点を対象とした。最小のもので長さ21mm、最大は長さ94mmを計る。長幅比は、1・3類が2:1~3:1の範囲にほぼ含まれるにたいして、2類は1:1以下の横長形を示している。

【重さ】ほとんどが20g以下に分布している。最軽量のものは1.7gであるが、最も重いものは

33.3g である。

[破損状況] 石匙の破損品は 5 点で総数の 19% にあたる。

④石錐

[類型組成] 第56図・第57図参照

総数31点のうち、石材としては、ほとんどが珪質頁岩を使用している。

[長さと幅] 完形品21点を対象とした。最小のもので長さ20mm、最大は長さ63mmを計る。長幅比は 1 : 1 ~ 3 : 1 の範囲にはば含まれる。

[重さ] ほとんどが10g 以下に分布している。最軽量のものは2.0g であるが、もっとも重いもので11.6g である。

[破損状況] 石錐の破損品は15点で総数の48% にあたる。これらについて破損状況をみると、尖端部（錐部）側が欠損したもの(I)、つまみ部（基部）側が欠損したもの(II)、尖端部（錐部）・つまみ部（基部）が欠損したもの(III)とに分けてみた場合、(I)は6点(40%)、(II)は7点(47%)、(III)は2点(13%)となる。

⑤石籠

[類型組成] 第56図・第57図参照

総数25点のうち、石材としては、珪質頁岩や流紋岩・珪化凝灰岩を使用している。

[長さと幅] 完形品22点を対象とした。最小のもので長さ33mm、最大は長さ88mmを計る。長幅比は、1 : 1 ~ 3 : 1 の範囲にはば含まれる。

[重さ] 最軽量のものは8.8g であるが、もっとも重いものは67.2g である。

[破損状況] 石籠の破損品は3点で総数の12% にあたる。

⑥スクレイパー

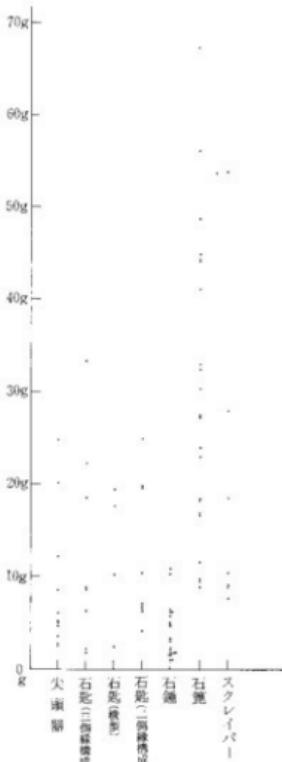
[類型組成] 第56図・第57図参照

総数10点のうち、石材としては、珪質頁岩や流紋岩・珪化凝灰岩を使用している。

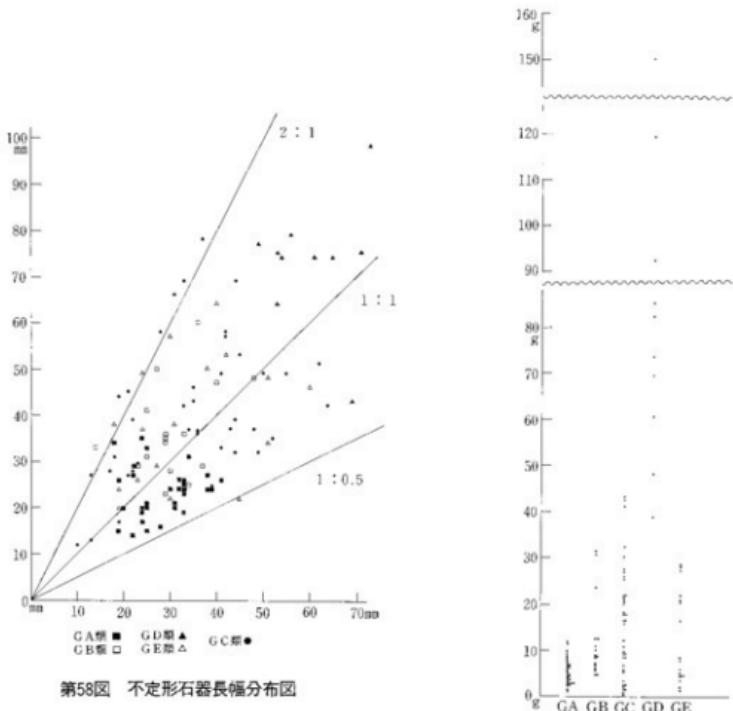
[長さと幅] 完形品8点を対象とした。最小のもので長さ38mm、最大は長さ89mmを計る。長幅比は、1 : 1 ~ 3 : 1 の範囲にはば含まれる。

[重さ] 最軽量のものは7.6g であるが、もっとも重いものは53.7g である。

[破損状況] 石籠の破損品は2点で総数の20% にあたる。



第57図 剥片石器重量分布図



第58図 不定形石器長幅分布図

⑦不定形石器

総数で114点出土しており、出土した石器の中で21%をしめている。

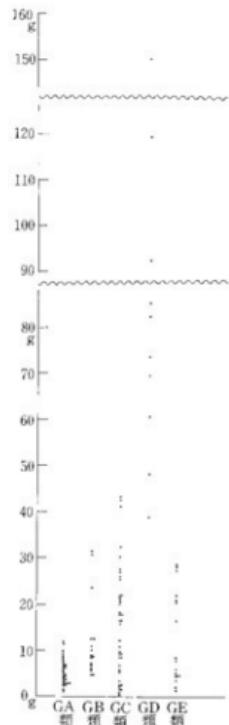
321点出土している石器とあわせれば今回出土した石器の80%をしめることになる。

前期後葉から中期後葉の石器群の特徴として、不定形石器の増加、なかでも素材の形態をあまり変化させずに部分的な二次加工によって刃部を作り出す石器の増加と、定形石器の減少が多いわれている。

石材についてみても、定形石器の石材がほとんど珪質頁岩であるのにたいして、不定形石器には流紋岩や珪化凝灰岩といった珪質頁岩以外の石が比較的多く使用されている。

不定形石器について類型的にみると、二次加工が全周におよび素材の形態を大きく変化させ、刃部以外にも一定の形態的なまとまりを指向するものが48点、素材の形態をあまり変化させずに、部分的な二次加工によって刃部を作り出すものが49点とほぼ同数出土している。

全体の形態をあまり変化させないものは、製作に要する時間も短く、また使用される時間も短かったと考えられる。当時希少な石材である珪質頁岩が、何度も再生され複数の用途に用いられたと思われるのに対して、その場の目的に応じて作られるものには、容易に入手できる石



第59図 不定形石器重量分布図

材を用いたと考えられる。

[類型組成] 第58図・第59図参照

各類型の点数は、GA類32点(28%)・GB類16点(14%)・GC類39点(34%)・GD類10点(9%)・GE類17点(15%)となっている。

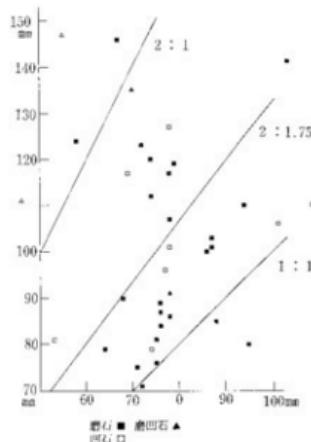
[長さと幅] GA類については、長さ・幅ともに20~40mmの範囲内におさまるものがほとんどで、長幅比は、1:0.5~1:1の範囲に含まれる。GB類については、最小で23×29mmで、最大で60×36mmを計る。長幅比は、1:1~2:1の範囲内にほぼ含まれる。GC類については、最小で12×10mm、最大で78×37mmを計る。長幅比については特に傾向はみられず、1:0.5~2:1の広い範囲内に含まれる。GD類については、最小で43×69mm、最大で97×73mmを計る。長幅比は、1:1~2:1の範囲内にほぼ含まれる。GE類については、最小で20×21mm、最大で64×40mmを計る。長幅比については特に傾向はみられず、1:0.5~2:1の広い範囲内に含まれる。

[重さ] GA類については、全ての石器が10g以下となっている。GB類については、10g前後と20~30gの範囲内の2グループに別れるようである。GC類については40g以下におさまるが、10g以下と20g前後に集中する傾向がみられる。GD類については40g以上となり、もっとも重いものは150gを計る。GE類については30g以下におさまるが、10g以下と20~30g前後に集中する傾向がみられる。

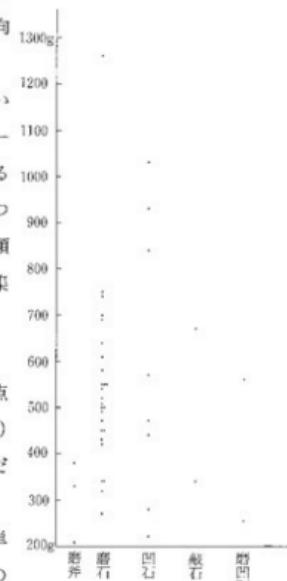
(2) 磨石器の分析 第60図・第61図参照

磨石器の総数は36点であり、器種組成の比率は、磨石23点(64%)、凹石8点(22%)、磨凹石4点(11%)、敲石2点(5%)となっている。磨石器は出土した石器のなかで6%をしめるだけで極端に少なくなっている。

磨面・凹み・敲打痕などの使用痕でみると、磨石のように単独で構成されるのがほとんどで、複数の使用痕がみられるものは少ない。石材についてはほとんどが石英安山岩をもちいてい



第59図 磨石器長幅分布図



第60図 磨石器重量分布図

る。

大きさについて長幅分布図でみると、長さについては70mm～90mmと100mm～120mmに集中がみられ、幅については70mm～90mmに集中しており、長幅比1：1～2：1の範囲におさまっている。重さについて重量分布図でみると、400～600gに集中している。形態的には、ほとんどのものが円形から長椭円形を呈しており、明確な加工痕はなく自然縫をそのまま使用している。

①磨石

総数で24点出土しており、そのうち欠損品は8点である。これらについて、形態・大きさ・重量の観察と計測を行った。

[形態] 平面形・断面形ともに椭円形を基本としている。

[大きさ] 長軸と短軸の長さの関係についてみると、最大のものは最大長軸で146mm、最大短軸で103mmを計り、最小のものは最大長軸で71mm、最大短軸で64mmを計る。

長・短比についてみると、長軸・短軸ともに90mm以下の小型のものと、長軸で100～120mm、短軸で70～90mmの範囲に入る大型のものに別れるようである。

[重量] 重量分布からみると、最大1260g、最小270gで、400～600gの範囲に入るものが多い。

第47図-4は断面形が三角形の縫を素材とし、その縫線部分に磨痕が観察されるもので、いわゆる「特殊磨石」に類似している（八木 1977）。特殊磨石は中部地方においては押型文土器と非常に強く共伴すること、関東地方では撚糸文・沈線文土器に伴い、北海道では縄文時代早期に存在することが八木によって指摘されている。東北においても前期から中期にかけて岩手県を中心として出土している。用途に関しては、獸皮なめし工具節（中村 1965）。落葉広葉樹林帯に産する植物資源の処理用具節（八木 1977）などがある。

②凹石

総数で8点出土しており、そのうち欠損品は2点である。これらについて、形態・大きさ・重量の観察と計測を行った。

[形態] 平面形・断面形ともに椭円形を基本としているが、厚さをみると磨石よりも比較的薄い石を用いている。

[大きさ] 長軸と短軸の長さの関係についてみると、最大のものは最大長軸で127mm、最大短軸で114mmを計り、最小のものは最大長軸で79mm、最大短軸で53mmを計る。

長・短比についてみると、磨石にみられるような大きさの集中などはなかった。

[重量] 重量分布からみると、最大1030g、最小220gで、大きさと同様に重さについても集中等はみられないが、他の縫石器類に比べて重いものが多い傾向がみられる。

③磨凹石

総数で4点出土しており、そのうち欠損品は1点である。これらについて、形態・大きさ・

重量の観察と計画を行った。

[形態] 平面形・断面形ともに梢円形を基本としている。

[大きさ] 長軸と短軸の長さの関係についてみると、最大のものは最大長軸で135mm、最大短軸で70mmを計り、最小のものは最大長軸で91mm、最大短軸で78mmを計る。長・短比についてみてみると、凹石と同様磨石にみられるような大きさの集中などはなかった。

[重量] 重量分布からみると、最大560g、最小256gで、大きさと同様に重さについても集中等はみられなかった。

④ 敲 石

総数で2点出土しており、すべて完形品である。これらについて、形態・大きさ・重量の観察と計測を行った。

[形態] 平面形・断面形ともに梢円形を基本としている。

[大きさ] 長軸と短軸の長さの関係についてみると、長軸147mm×短軸55mmと、長軸111mm×短軸46mmを計る。長・短比についてみてみると、いずれも2:1以上と縦長の形態を示す。

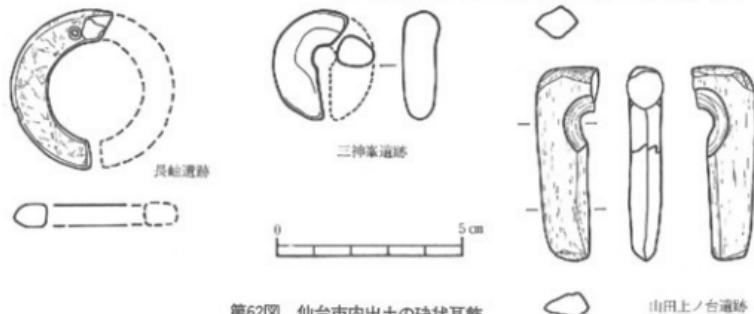
[重量] 重量分布からみると、670gと340gで、磨石などと同様に重いものはなかった。

(3) 石製品の分析

① 球状耳飾

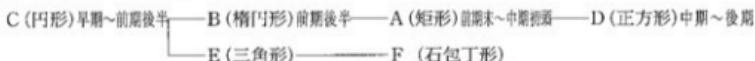
仙台市内では三神峯遺跡・長袖遺跡・山田上ノ台遺跡について4例目の出土となったが、県内では他に大木圓貝塚・小梁川遺跡などおよそ7遺跡から出土している。所属する時期について、第62図の三神峯遺跡から出土したものは、大木1式の土器に共伴したもので、長袖遺跡のものについても縄文時代前期のものと報告されている。また山田上ノ台遺跡のものは、縄文時代中期初頭のものと報告されている。今回出土した3点については大木4・5式の土器に共伴していることから前期後葉のものと考える。

現在の球状耳飾研究は、加工のための工程の分析を主としており、加工時における切・削削。



第62図 仙台市内出土の球状耳飾

切除・研磨の手法のあり方は形態決定に関わるものとされている。第63図は樋口清之による型式分類で、形態の変化によってA～F類までの6型式に分類している。藤田富士夫はこの分類を使って、次のように現在の研究成果での形態変遷による編年を行っている（藤田 1992）。



市内出土のものについてこれにあてはめると、長岫遺跡・三神峯遺跡出土のものはC型に、北原街道B遺跡出土のものはB型に、山田上ノ台遺跡出土のものはA型に近い形態をもっており、この形態変遷に近い内容をもっている。

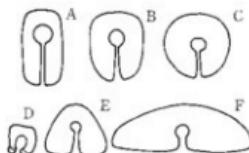
また、藤田の提唱している所属時期を推定するための形式率は、「玦状耳飾の形態の特徴(形式率)は、孔側(切れ目方向と直角に結ぶ側辺部)の長さと切れ目の長さの比率による。」という仮説を基にしている。その形式率は、次のようにして求める。

$$\text{形式率} = \text{切れ目の長さ} \div \text{孔側の側辺の幅}$$

藤田によれば、形式率0.5では前期末葉や前期初頭の玦状耳飾の出現期にあたり、形式率3以上は前期末葉や中期初頭に属し玦状耳飾の衰退期にあたるという。

この形式率から仙台市内出土のものを見てみると、北原街道B遺跡の形式率は、第26図-1で1.31、2で1.4となる。そして長岫遺跡のものは0.77、三神峯遺跡のものは1.2、山田上ノ台遺跡のものは2.25となる。こうしてみると形式率からも樋口分類による形態変遷と同様の内容を示しているといえる。

玦状耳飾の変遷については断面の特徴も時期区分の目安となっており、前期初頭のものは肉厚で断面形が円形に近く、直径も3cm前後の小型のものが多いが、前期後半になると肉薄なものになり、中期以降のものは平面形が円形ではなく下半部が長くなってくるといわれている。北原街道B遺跡のものは形態的にみてもその前期後葉の形態をもっているといえる。



第63図 縦状耳飾型式分類
(樋口清之による)

VI ま　　と　　め

1. 北原街道B遺跡は、仙台市青葉区上愛子字北原道上に所在する。遺跡は広瀬川の形成した河岸段丘上に位置している。
2. 今回の調査は宅地造成事業の実施に伴って、1992年5月11日～7月28日まで実施した。調査面積は、約2,100m²である。
3. 調査の結果、堅穴住居や土坑といった遺構は確認されなかったが、遺物包含層を検出した。また遺物は、縄文時代前期後半から中期中葉・晚期のものが出土しているが、縄文時代前期後半のものを主体としている。
4. 縄文時代の遺物としては、土器・土偶・土製品・石器・石製品などがある。
 - (1)土器は、大木4式～5b式期を中心としている。
 - (2)石製品として、仙台市内では4例目となる狹状耳飾3点が出土している。
 - (3)石器は、総出土点数615点のうち、約半数の321点を石鏃がしめているのに対して、磨石・凹石といった砾石器の出土が少ない傾向が認められた。

引用・参考文献

- 1967～70 興野義一 「大木式土器理解のために I～VI」考古学ジャーナル
- 1970 興野義一 「大木5b式土器の提唱」古代文化
伊東信雄 「長根貝塚」
興野義一 「糖塚貝塚」
加藤 孝 「宮城県登米郡新田村糖塚貝塚について」
- 1981 興野義一 「糖塚貝塚について」 一迫町史
- 1981 丹羽 茂 「大木式土器」 縄文文化の研究 4 縄文土器 雄山閣
- 1983 藤田富士夫 「狹状耳飾り」 縄文文化の研究 7 道具と技術 雄山閣
- 1984 興野義一 「大木式土器について」 宮城の研究 I 考古学編 清文堂出版
- 1984 小笠原好彦 「縄文時代前期・中期の土偶」 宮城の研究 I 考古学編 清文堂出版
- 1992 藤田富士夫 「玉とヒスイ—環日本海の交流を巡って—」 同朋舎出版
- 1992 宮尾・工藤 「仙台市野川遺跡の調査」 考古学ジャーナル 349
- 1994 「東北・北海道の土偶 I」 土偶シンポジウム 2 秋田大会
- 1973 志間・宮城町教委 「宮城町想海塚発掘報告書」 宮城町文化財調査報告書第1集
- 1980 岩瀬・佐藤 「三神峯遺跡発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第25集
- 1981 宮城町教育委員会 「御殿館跡」 宮城町文化財調査報告書第3集
- 1982 犀野・真山 「農学寮跡遺跡」 宮城県文化財調査報告書第86集
- 1982 佐藤・齊野 「北前遺跡」 仙台市文化財調査報告書第36集
- 1983 宮城町教育委員会 「蒲沢山遺跡」 宮城町文化財調査報告書第4集

- 1984 齊藤 「一本杉遺跡」宮城県文化財調査報告書第104集
- 1984 会津高田町教育委員会 「青宮西遺跡」会津高田町文化財調査報告書第5集
- 1985 熊谷 「長崎遺跡」泉市文化財調査報告書第4集
- 1986 宮城町教育委員会 「宮城町の文化財」宮城町文化財調査報告書第5集
- 1986 阿部・今野 「宮城町観音堂遺跡」宮城県文化財調査報告書第118集
- 1986 村田・小川 「今熊野遺跡II」宮城県文化財調査報告書第114集
- 1986 新庄屋・相原他 「小梁川遺跡」宮城県文化財調査報告書第117集
- 1987 齊藤・藤沼 「宮城町西船跡」宮城県文化財調査報告書第123集
- 1987 八巻 「大木岡貝塚」七ヶ浜町文化財調査報告書第4集
- 1987 庄子 「六山遺跡」利府町文化財調査報告書第4集
- 1987 主浜 「山田上ノ台遺跡」仙台市文化財調査報告書第100集
- 1988 工藤 「谷津A・B遺跡／芦見遺跡」仙台市文化財調査報告書第120集
- 1988 渋谷・黒坂 「吹浦遺跡第3・4次調査」山形県文化財調査報告書第120集

写 真 図 版

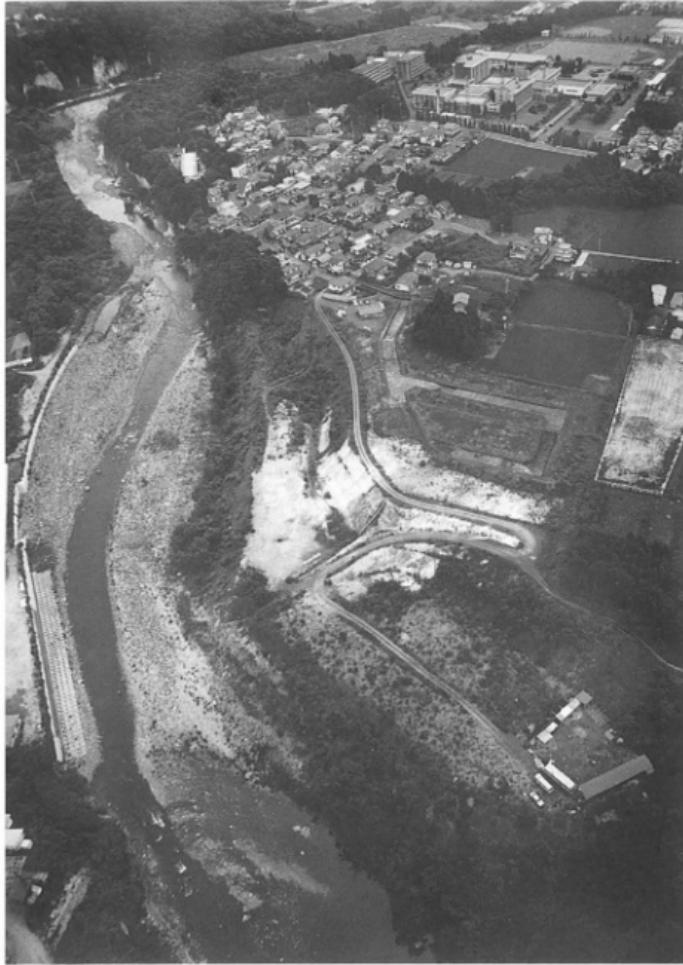


写真1
遺跡遠景・空撮
(西方上空から)

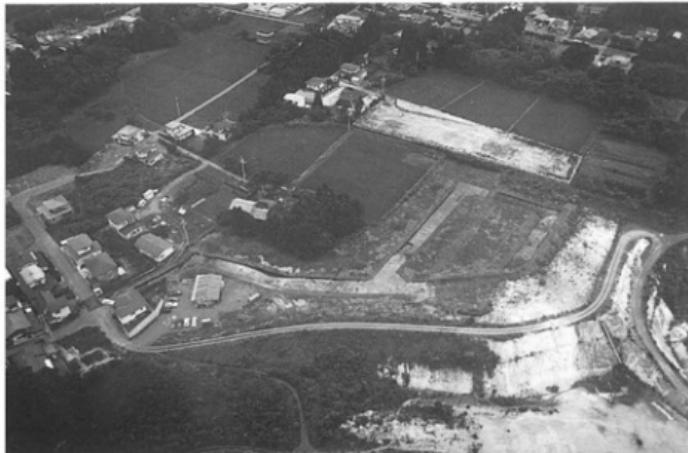


写真2
遺跡遠景・空撮
(北方上空から)

写真3
調査区全景・空撮

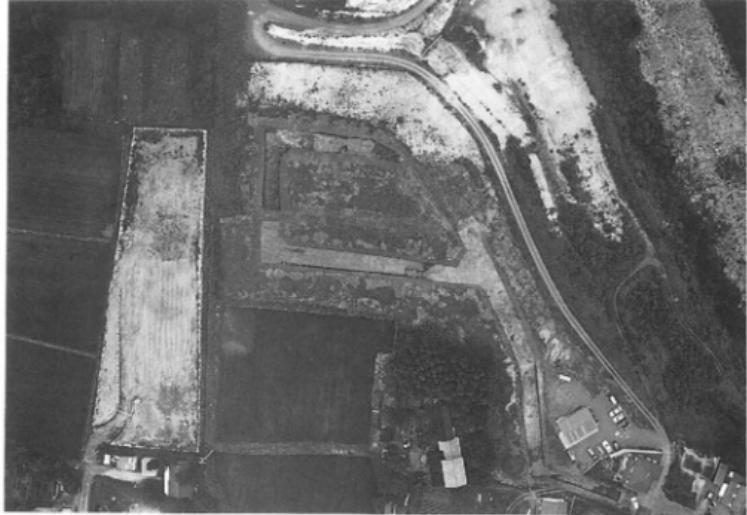


写真4
調査前状況
(東方から)



写真5
調査区遠景・III区
(北方から)





写真6 復元土器 第5図



写真7 復元土器 第5図



写真8 復元土器 第5図

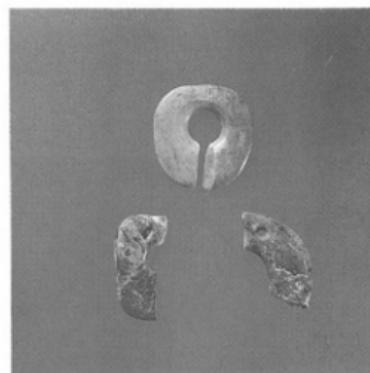


写真9 積状耳飾 第26図

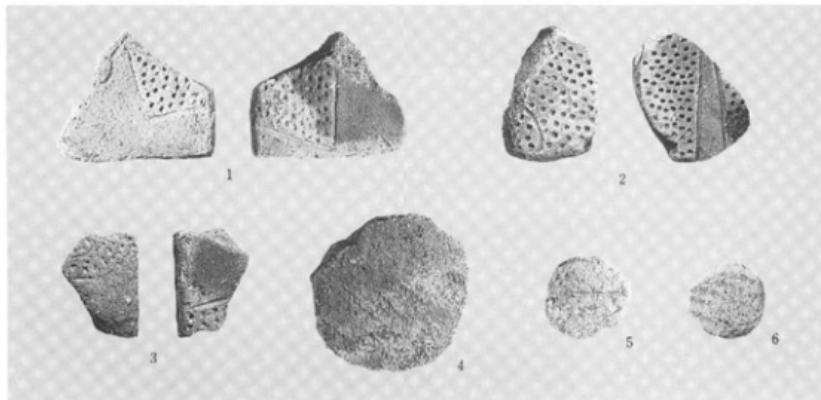
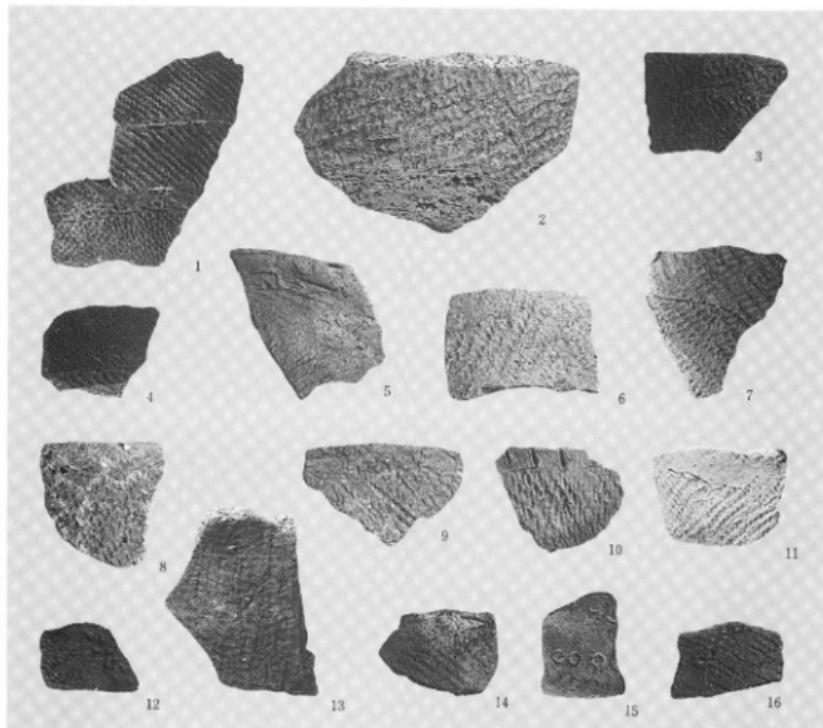
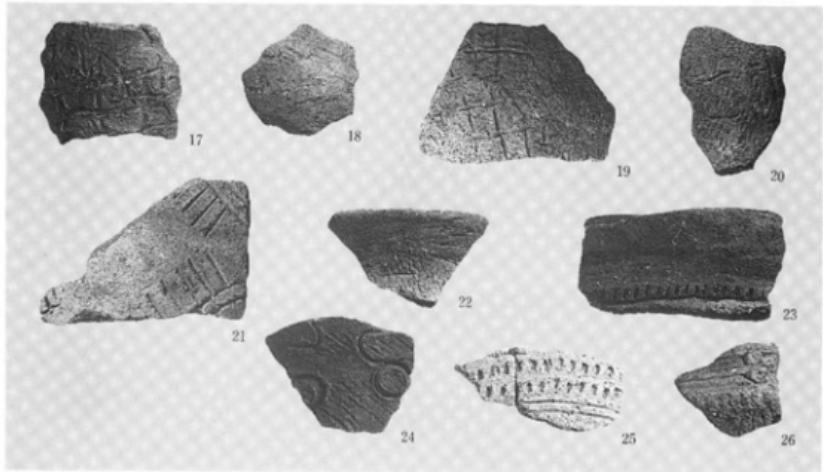


写真10 土偶・円盤状土製品 第24・第25図

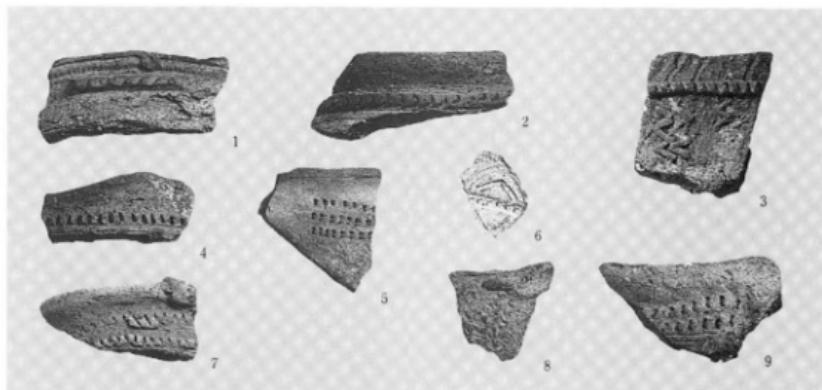


第6図

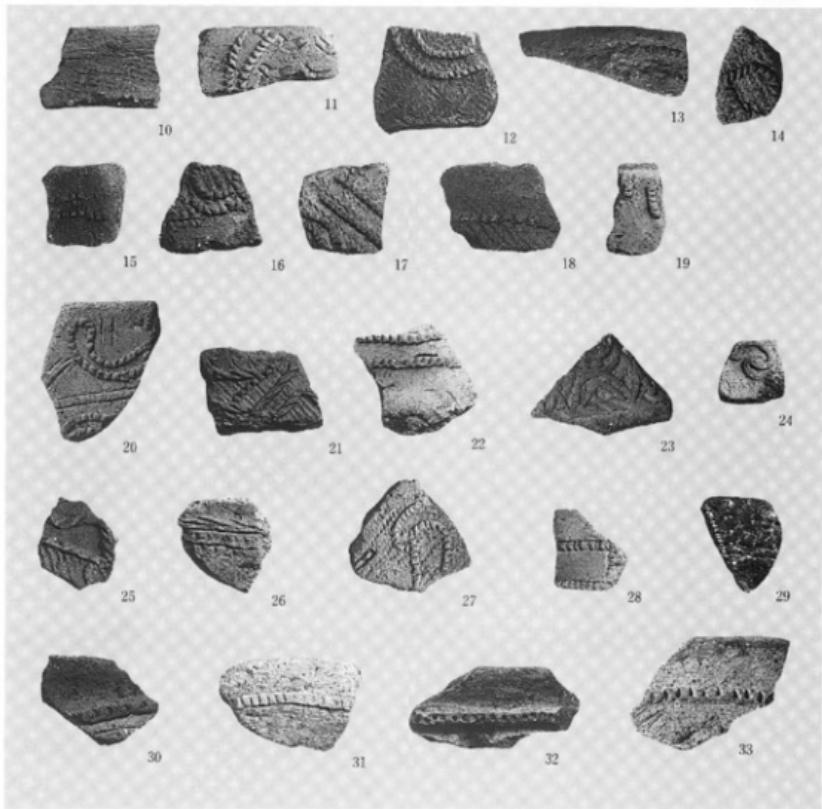


第7図

写真11 出土遺物・土器(1) 第6図・第7図

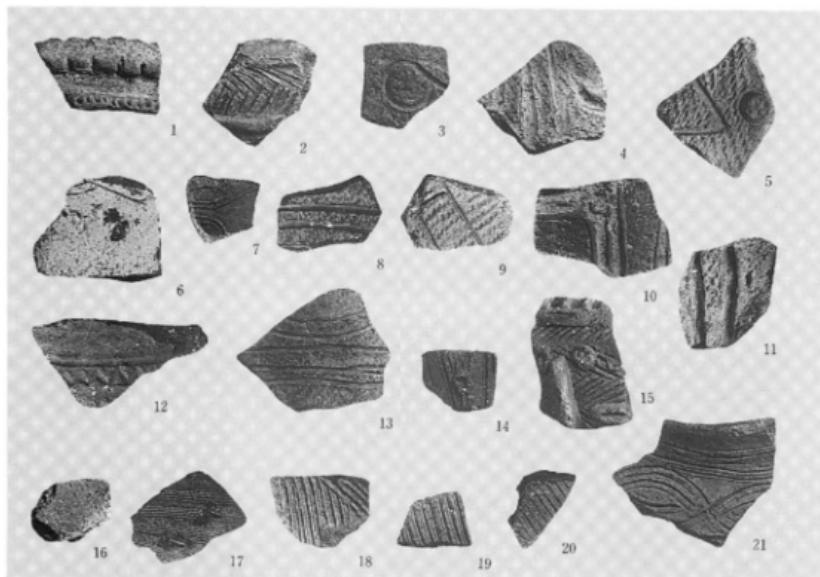


第7図

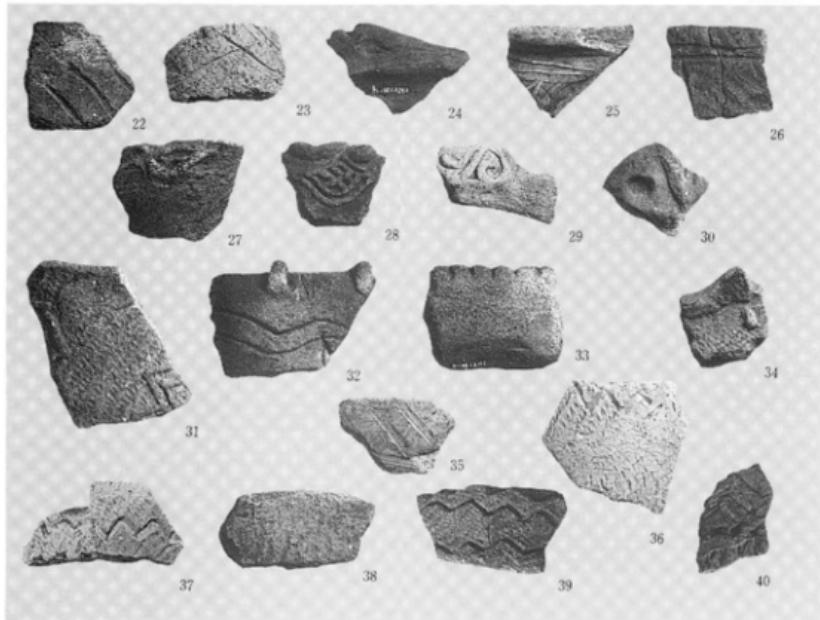


第8図

写真12 出土遺物・土器 (2) 第7図・第8図

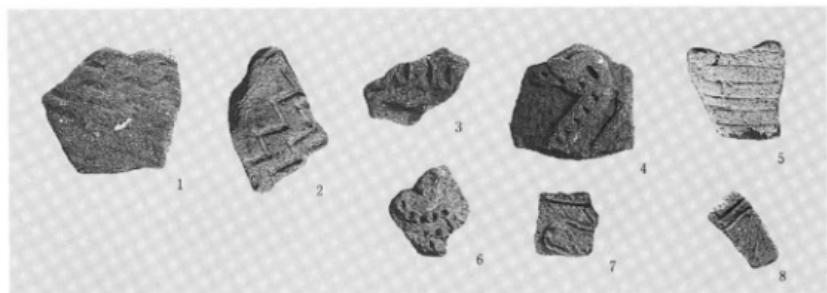


第9図



第10図

写真13 出土遺物・土器(3) 第9図・第10図



第10図

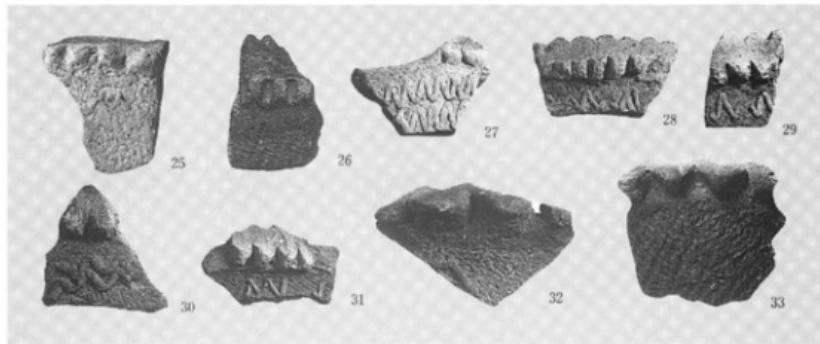


第11図

写真14 出土遺物・土器(4) 第10図・第11図

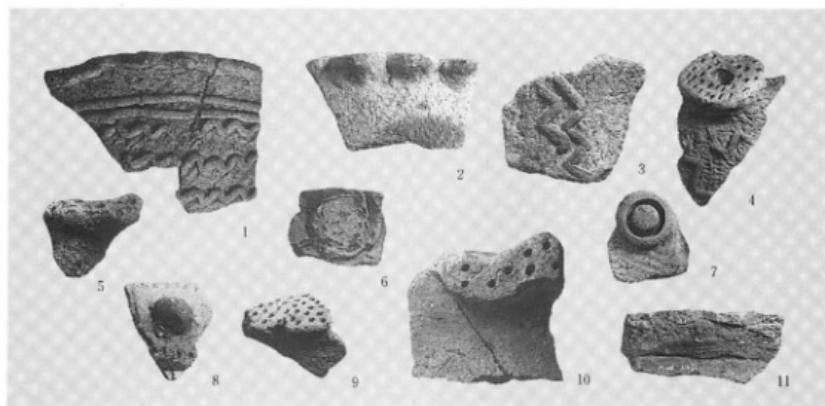


第12図



第13図

写真15 出土遺物・土器(5) 第12図・第13図

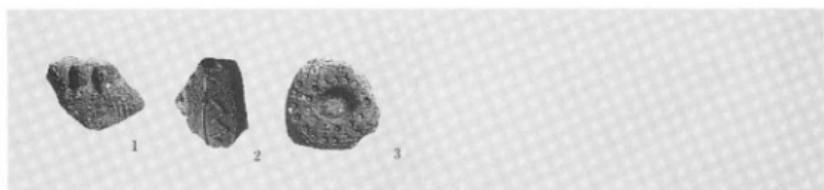


第13図



第14図

写真16 出土遺物・土器 (6) 第13図・第14図



第14図

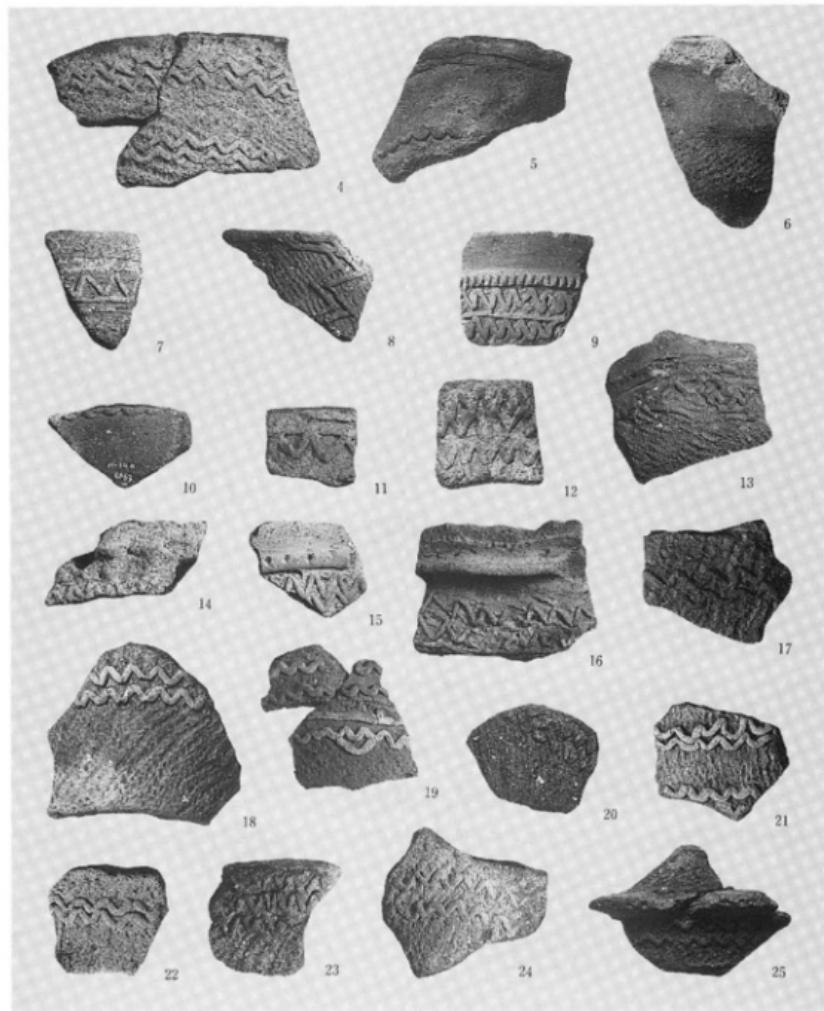
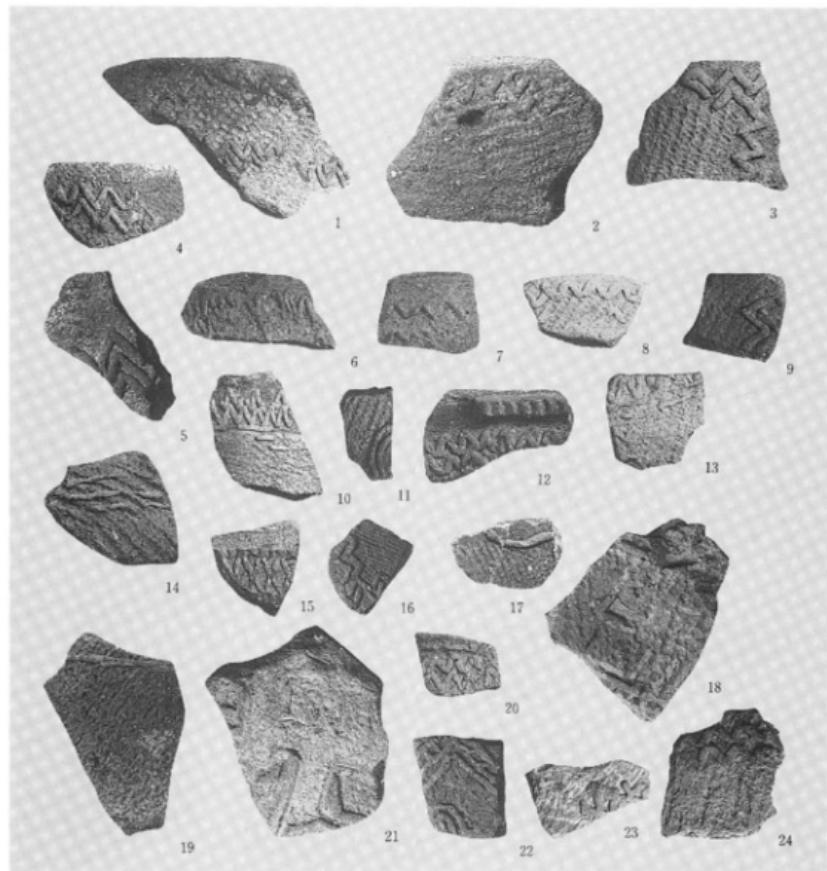
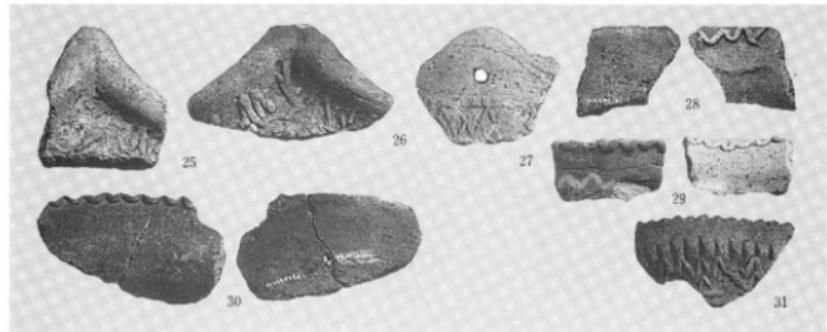


写真17 出土遺物・土器 (7) 第14図・第15図

第15図

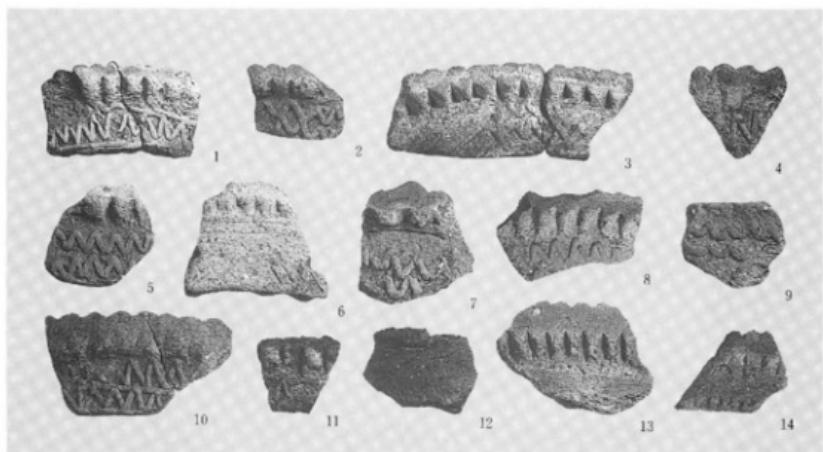


第16図



第17図

写真18 出土遺物・土器(8) 第16図・第17図

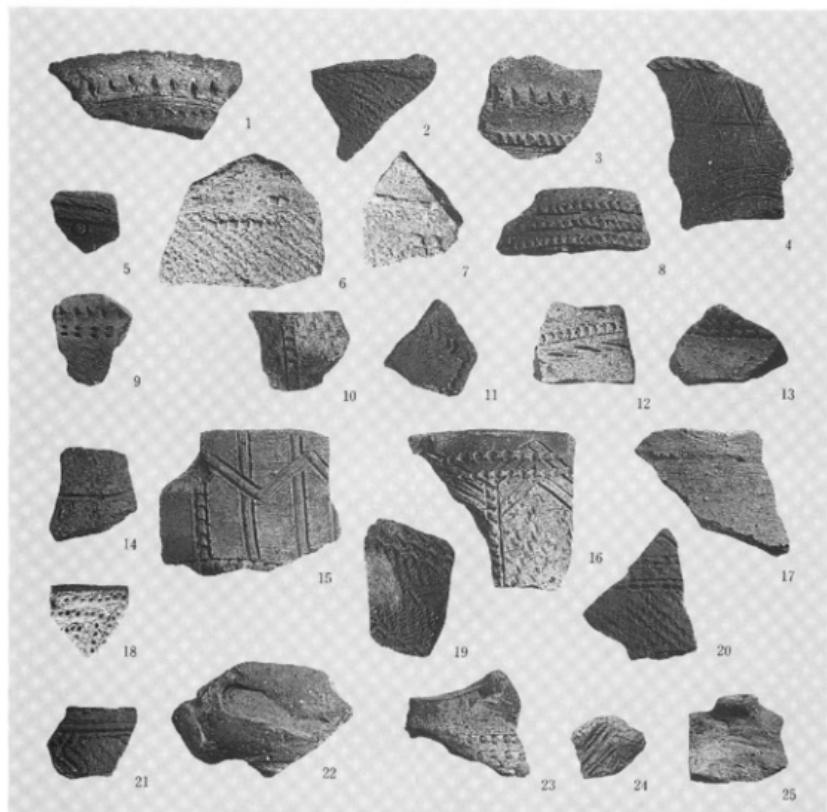


第17図



第18図

写真19 出土遺物・土器(9) 第17図・第18図



第19図



第20図

写真20 出土遺物・土器 00 第19図・第20図



第20図

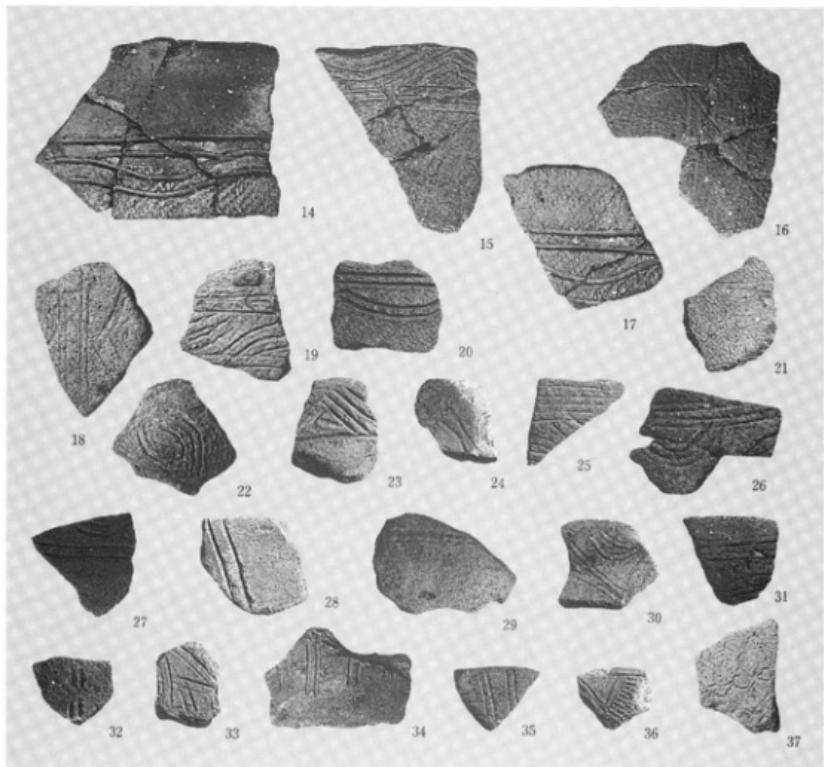
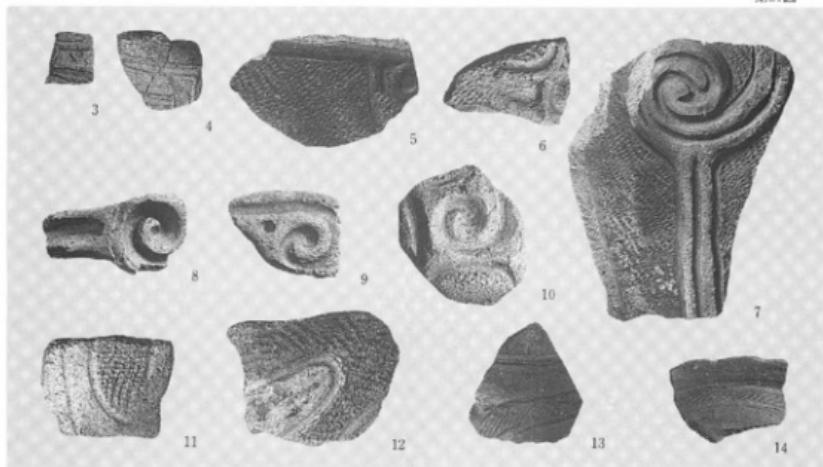


写真21 出土遺物・土器 (II) 第20図・第21図

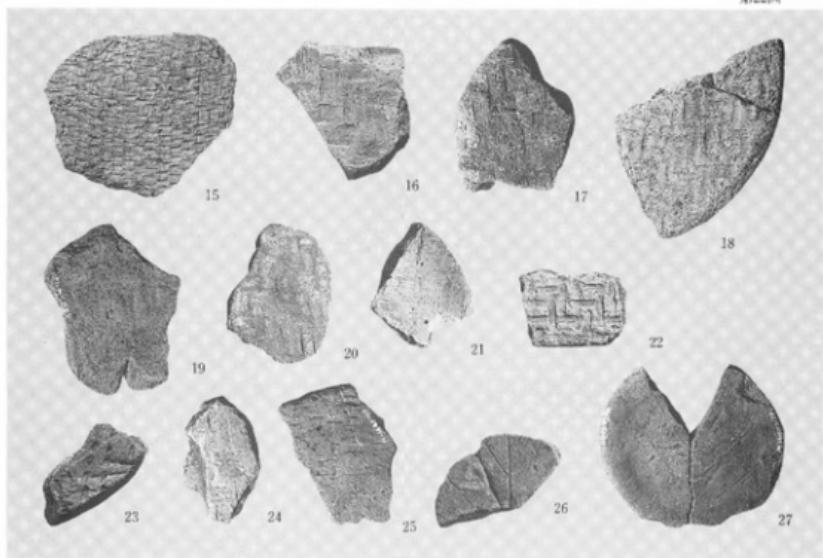
第21図



第21図



第22図



第23図

写真22 出土遺物・土器 02 第21図・第22図・第23図

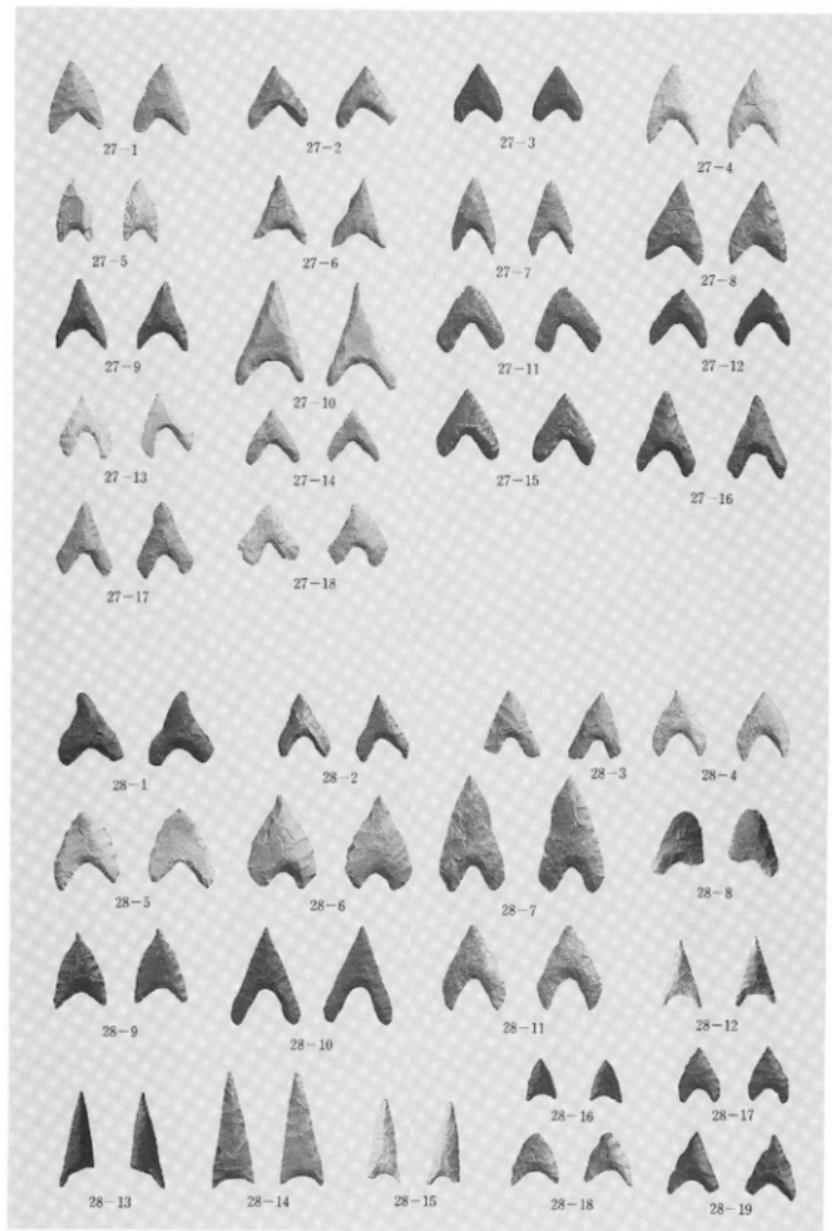


写真23 出土遺物・石器(1) 第27図・第28図

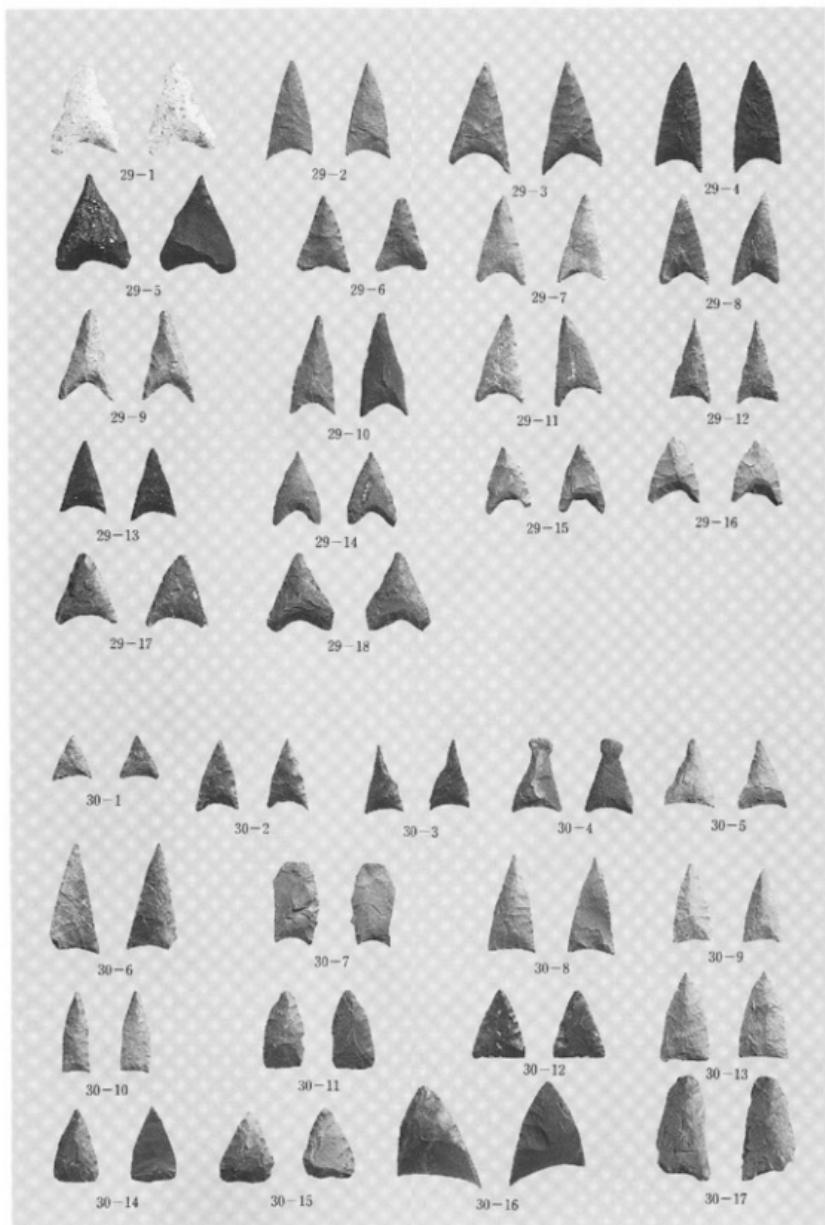


写真24 出土遺物・石器(2) 第29図・第30図

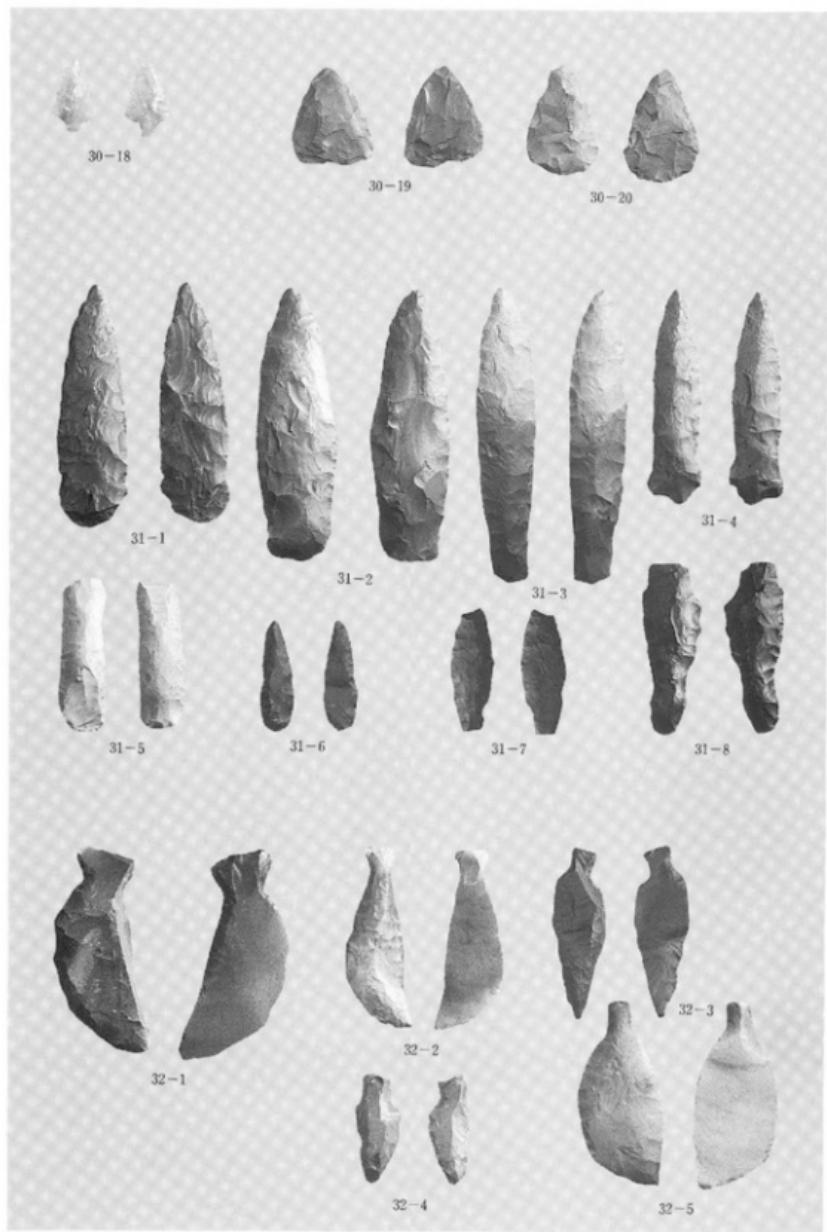


写真25 出土遺物・石器(3) 第30図・第31図・第32図

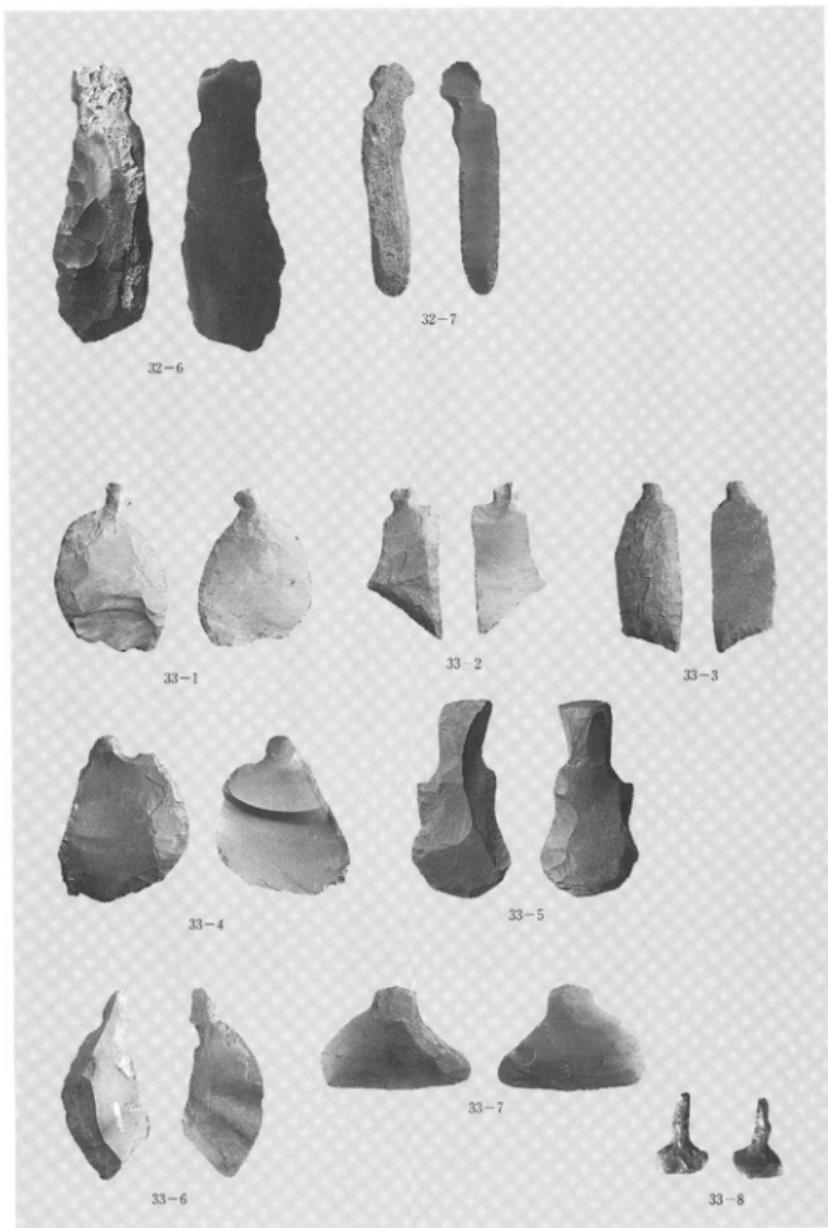


写真26 出土遺物・石器(4) 第32図・第33図

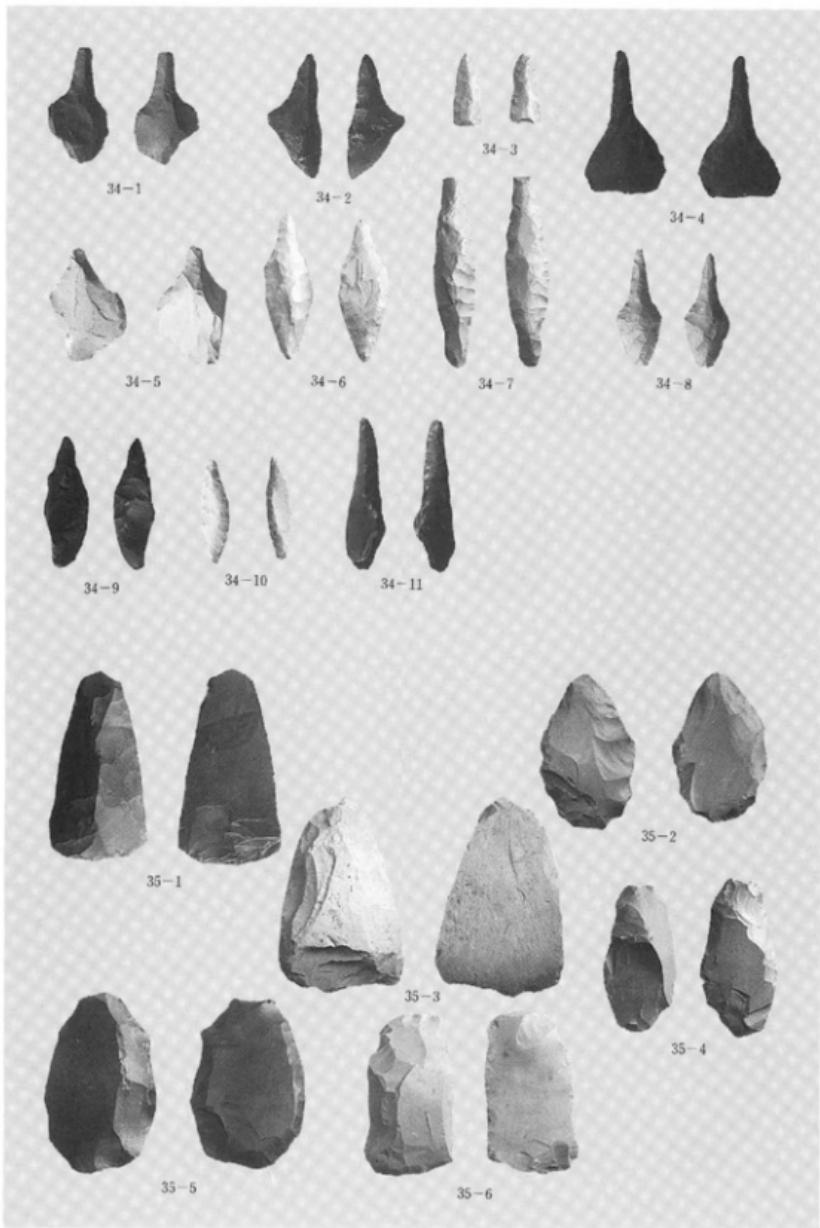


写真27 出土遺物・石器(5) 第34図・第35図

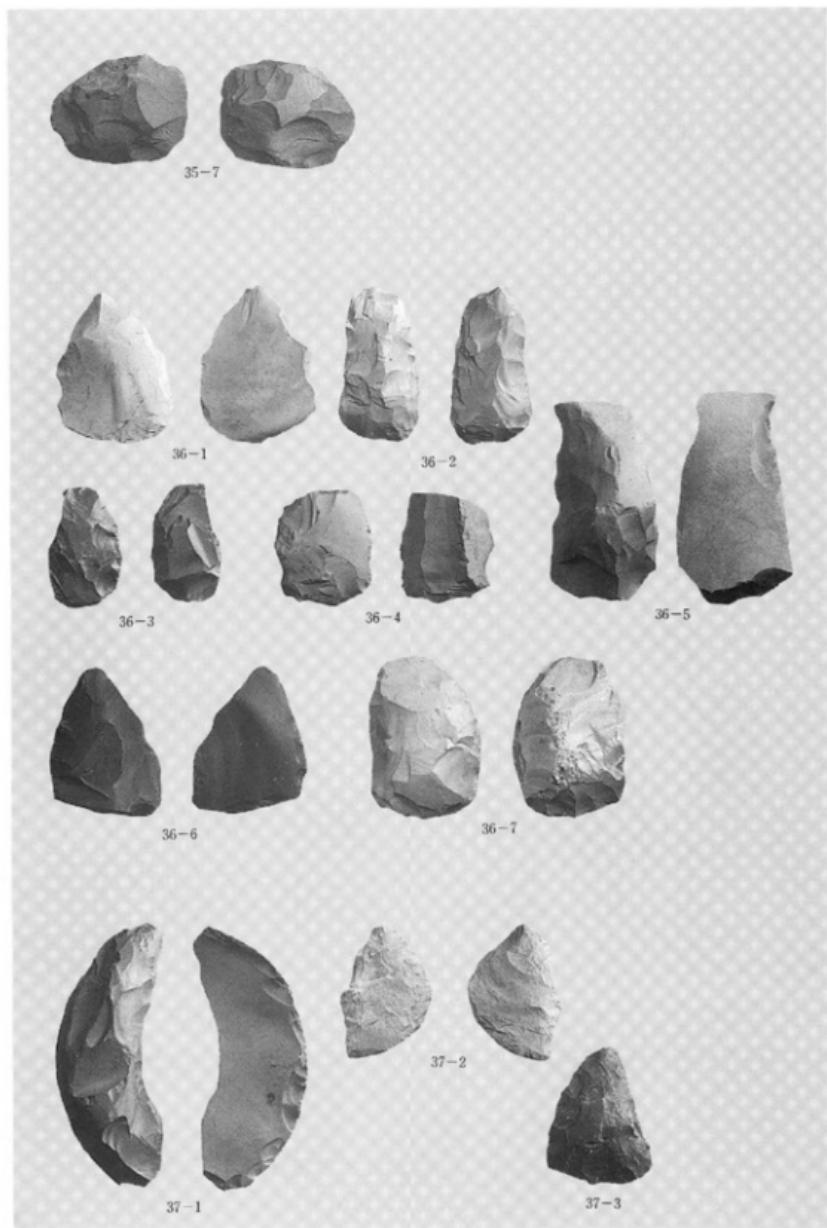


写真28 出土遺物・石器 (6) 第35図・第36図・第37図

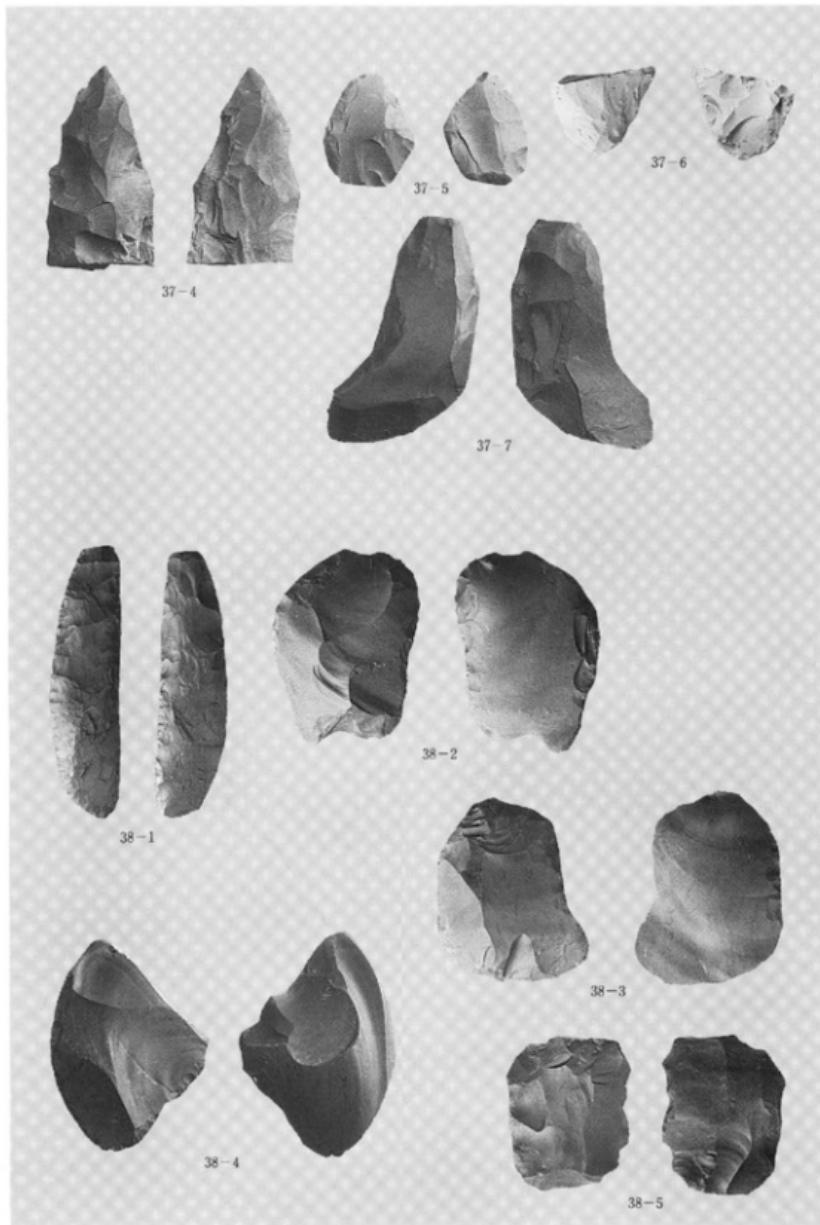


写真29 出土遺物・石器(7) 第37図・第38図

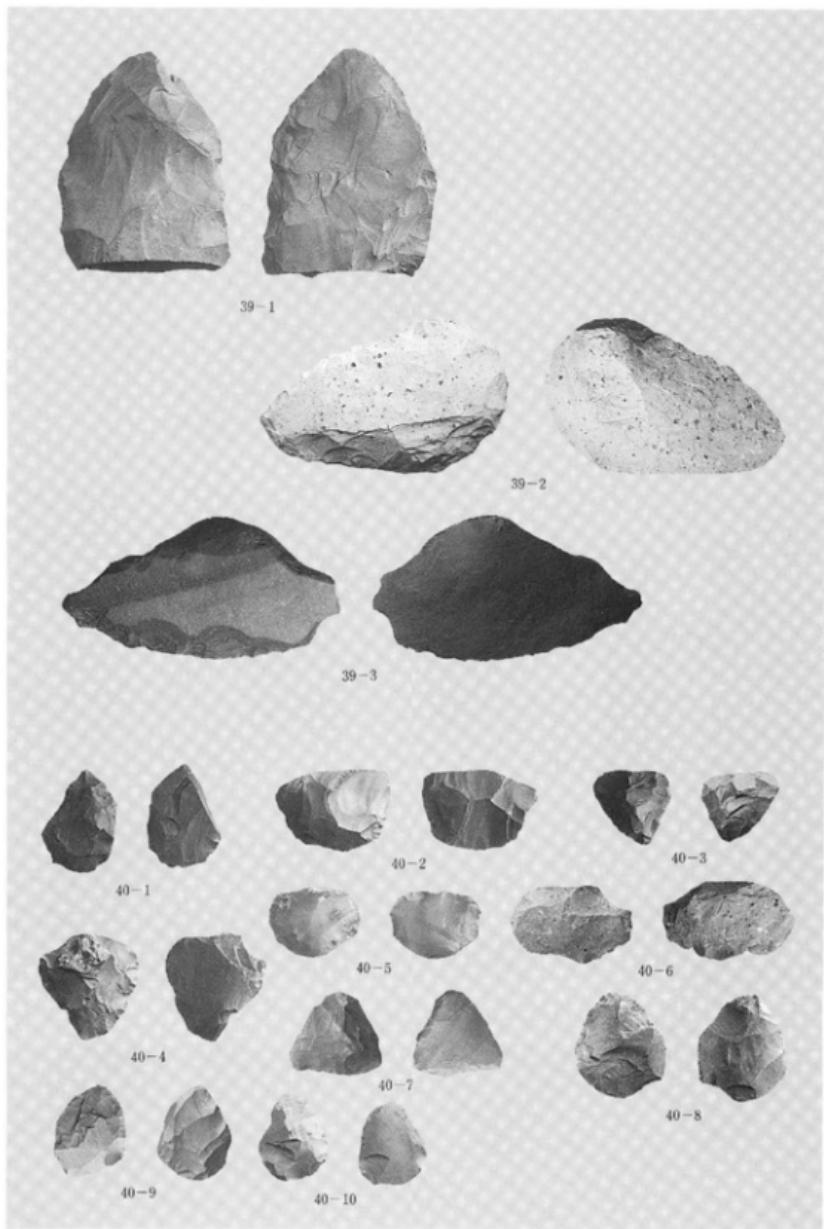


写真30 出土遺物・石器(8) 第39図・第40図

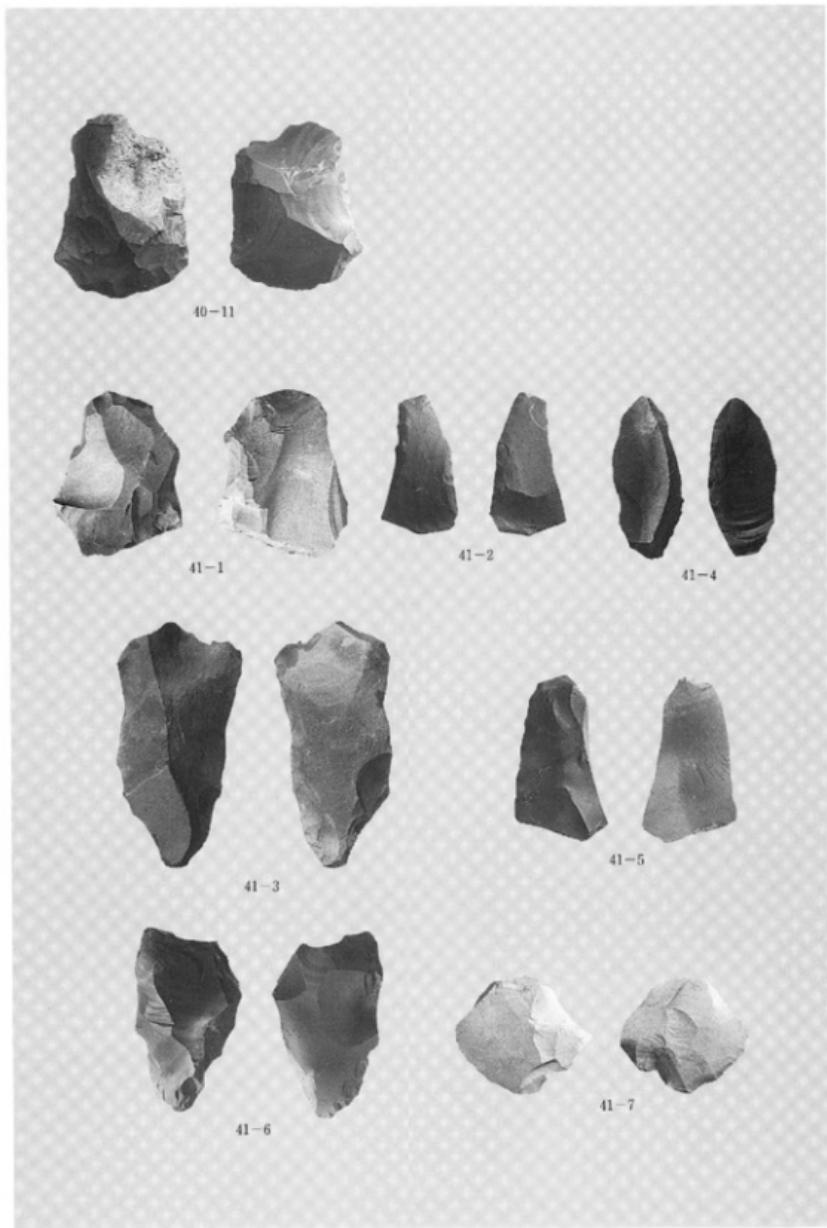


写真31 出土遺物・石器(9) 第40図・第41図

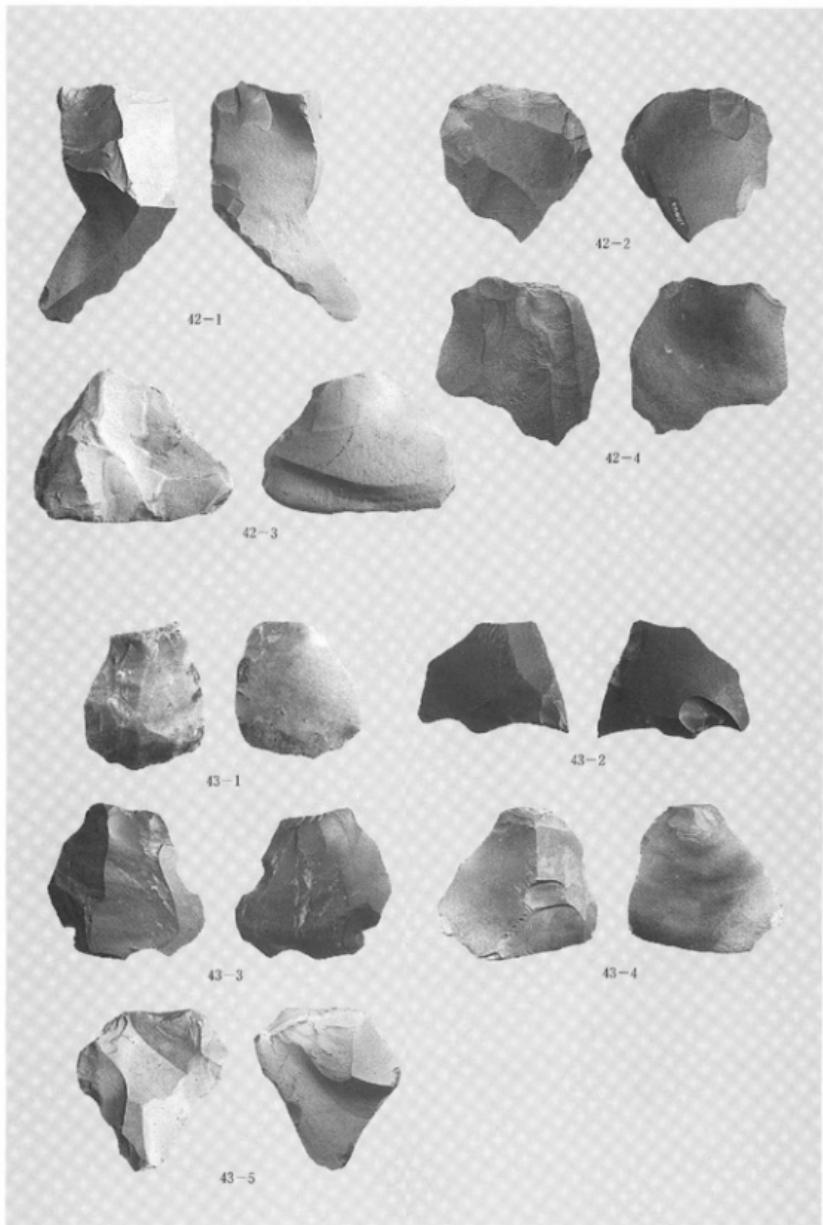


写真32 出土遺物・石器 00 第42図・第43図



44-1



44-2



44-3



45-1



写真33 出土遺物・石器 (II) 第44図・第45図

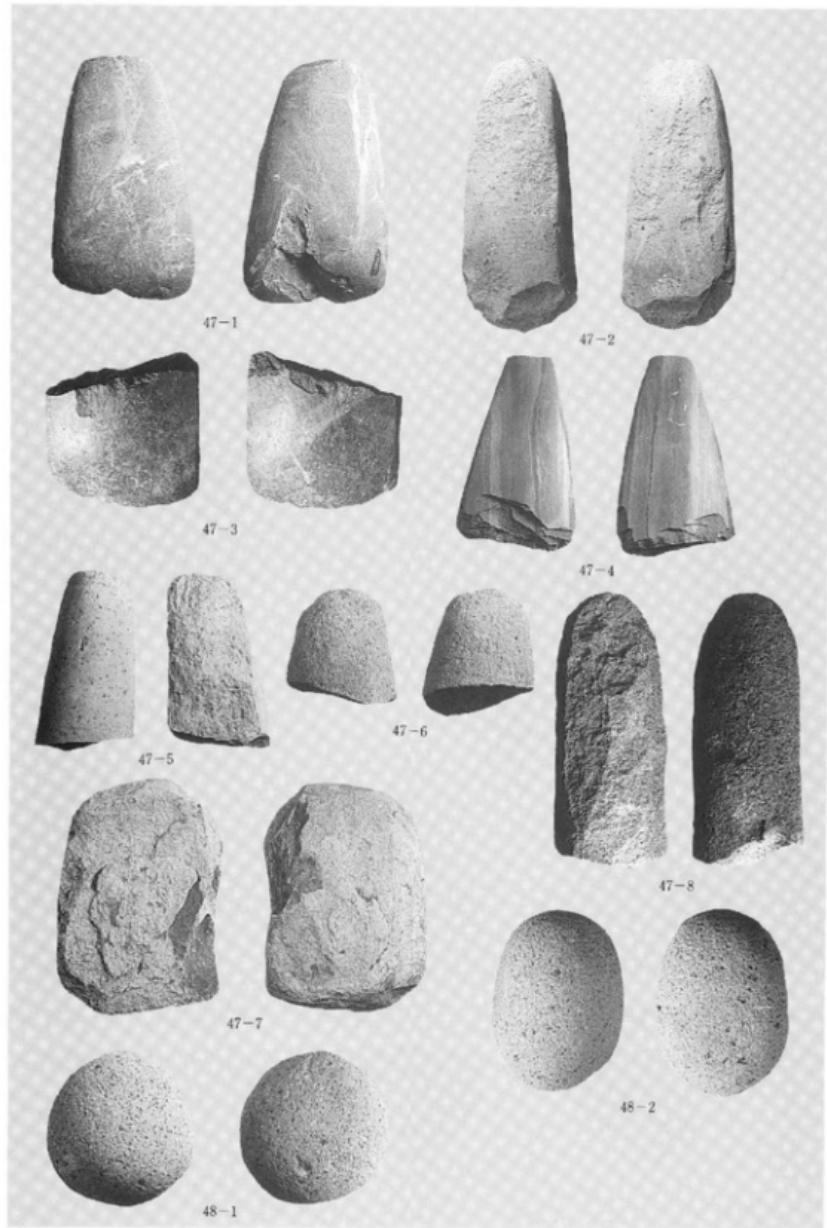


写真34 出土遺物・石器 12 第47図・第48図

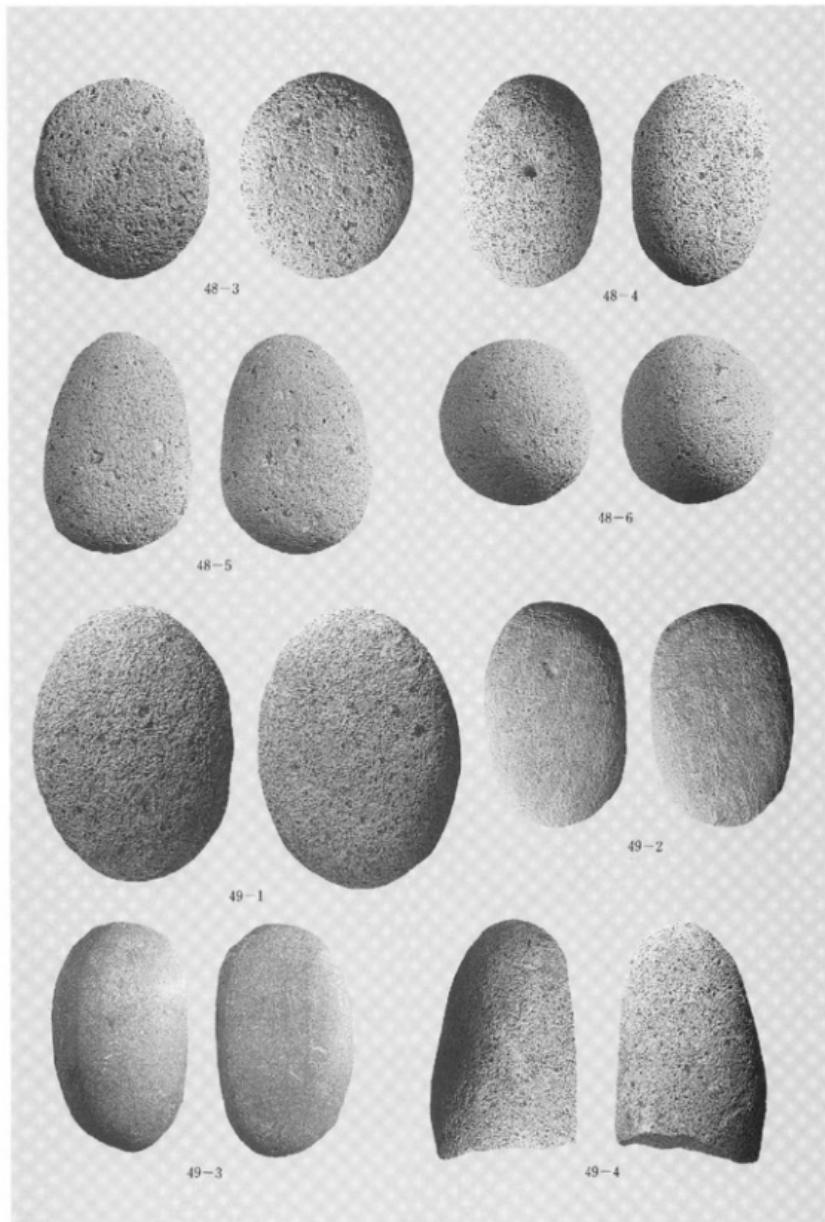


写真35 出土遺物・石器 (13) 第48図・第49図

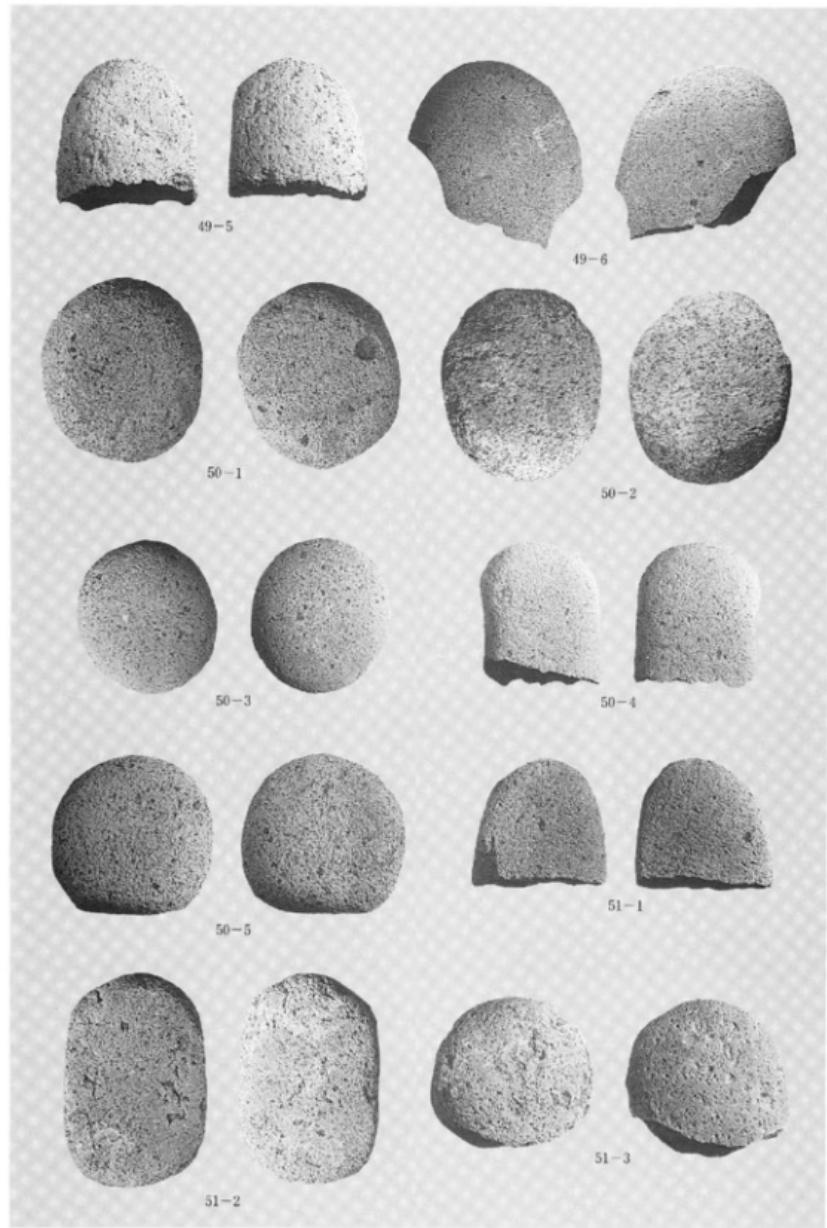


写真36 出土遺物・石器 (1) 第49図・第50図・第51図

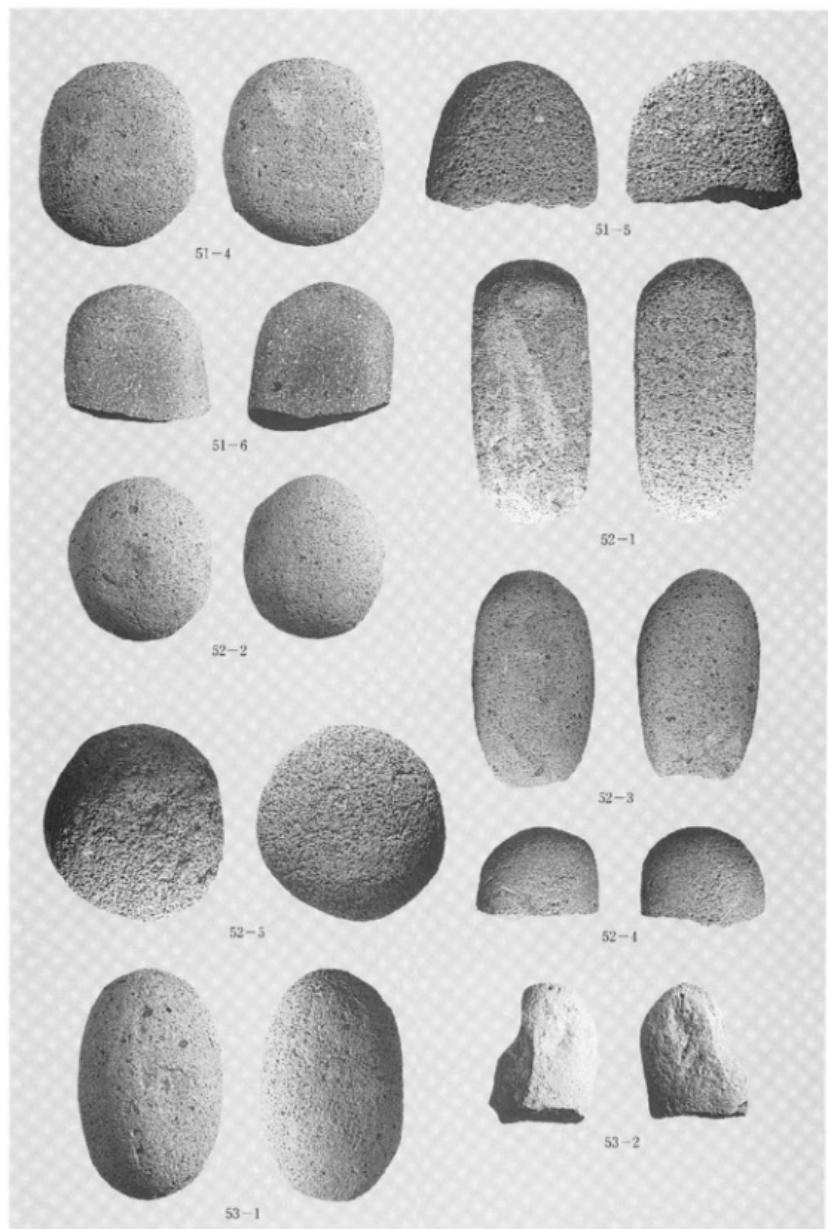


写真37 出土遺物・石器 (15) 第51図・第52図・第53図

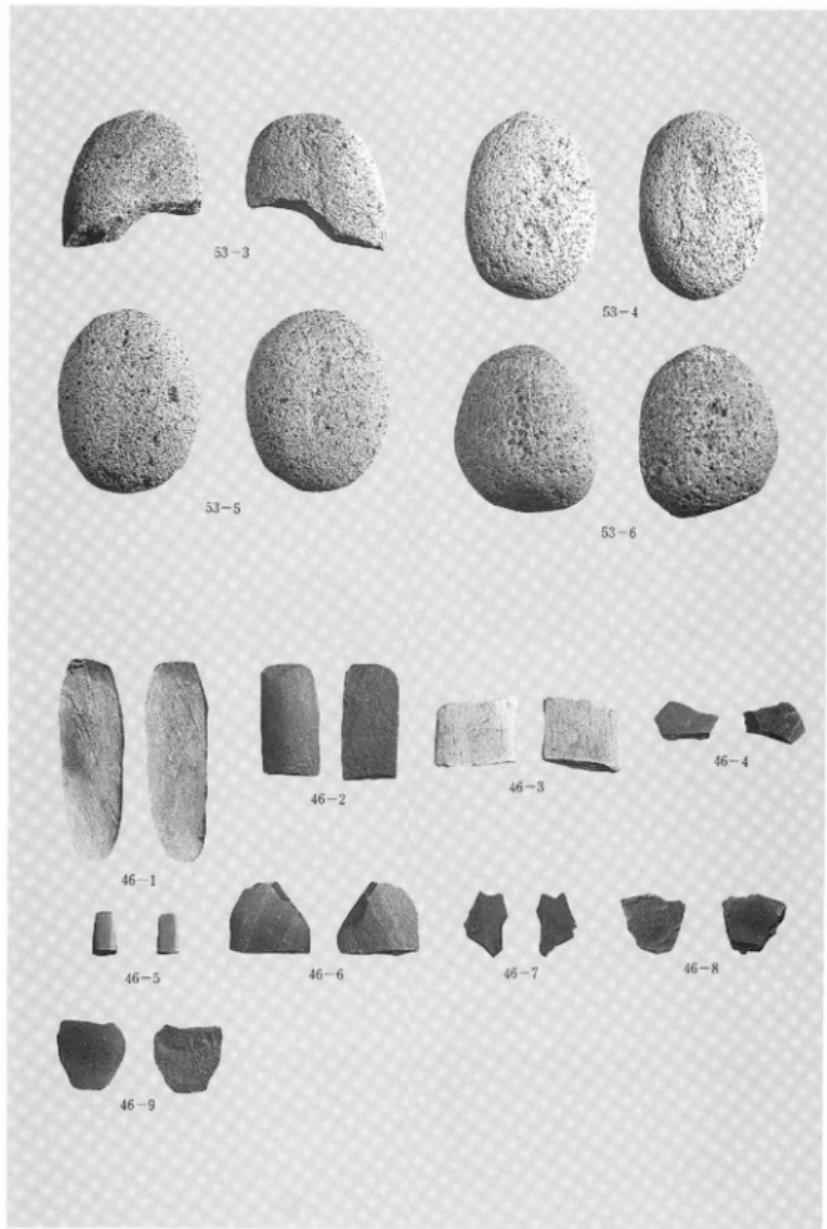


写真38 出土遺物・石器 ⑯ 第53図・第46図

文化財課職員録

課長 白鳥良一

管理係	調査第一係	調査第二係
係長 菅原澄雄	係長 田中則和	係長 結城慎一
主任 村上道子	主任 木村浩二	主任 篠原信彦
主事 福井健司	教諭 佐藤好一	教諭 太田昭夫
主事 庄司厚	主任 吉岡恭平	主任 佐藤洋
主事 斎藤栄治	主任 金森安孝	主任 佐藤甲二
主事 佐藤寿江	教諭 小川淳一	主事 渡部弘美
	主任 工藤哲司	主任 工藤信一郎
	主任 主浜光朗	主任 荒井格
	主任 斎野裕彦	主任 中富洋
	主任 長島栄一	主任 平間亮輔
	教諭 稲葉俊一	教諭 五十嵐康洋
	教諭 菅原裕樹	教諭 神成浩志
	主任 渡部紀	教諭 赤澤靖章
	教諭 川名秀一	教諭 竹田幸司
	教諭 熊谷裕行	主任 佐藤淳

仙台市文化財調査報告書第181集

北原街道B遺跡

——発掘調査報告書——

1994年3月

発行 仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町3-7-1
仙台市教育委員会文化財課

印刷 株式会社 東北プリント
仙台市青葉区立町24-24
電話 (263)1166

